

投 稿 誌

# わいふ

## 296



グラビア● わが家の歴史写真—布施幸子さん

特別寄稿● 病気上手の死に下手

インタビュー● 人間にレッテルを貼らないアドラー心理学

新連載● 東エルサレムに住んで

特別寄稿● さよなら、ミシン

特別寄稿● 危ない同窓会



# 超初心者のための パソコン通信講座「クラブネット」

電話でしっかりサポートだから安心です。



只今  
「わいふ」読者  
受講料10%OFF  
キャンペーン  
実施中!

クラブネットなら目的に応じて選べる特にお得なセットコースを設定。受講料はお手頃な月々7,500円から。必要な方には最新のパソコンセットを大型電気店に負けない価格でご提供。パソコン機材も受講料も、分割払いができますから安心です。

「手順に従って進めるだけで

パソコンができるようになる!」

クラブネットでは、

コンピュータの専門用語を極力使わずに

パソコンが全く初めての方にも

分かり易いテキストを作り上げました。

「パソコンはどれも苦手」という人にこそ

チャレンジして欲しい。

それがクラブネットの通信講座です。

3、4カ月後にはきつとあなたも

パソコンを使いこなしてしまいます。

今こそ勇気を出して始めてみませんか?

クラブネットが最後までお手伝いします。

只今、「わいふ」読者一割引きキャンペーン中!

クラブネット通信講座を受講してできるようになること

●文章を書く ●案内状やお手紙、年賀状等を作る ●簡単な

表やグラフを作る ●インターネットを使って、情報を集め

たり買い物をする ●電子メールのやりとりで、友だちやサ

ークルとの交流をはかる など……くらくく学習で、「中級程

度のパソコン技術が身に付きます」

■お問い合わせ・資料請求は

## Club Net

初心者のためのパソコン操作通信講座 クラブネット

〒104-0045 東京都中央区築地2-4-10

株式会社アイデックス

「クラブネット事業部・わいふ係」

TEL 03-3544-4500 FAX 03-5565-1066

わいふ

読んで書いて、  
みんなでつくる

# わいふ

読んで書いて  
みんなでつくる

296号

## 目次

デザイン／宮塚真由美  
表紙イラスト／小林正子

イラスト／ 荒田ゆり子  
イシノフミ 小沢恵子  
カステラネンコ 栗田笑  
弘法堂建二 佐伯和泉  
佐藤瑞江子 西宮さき  
橋本美智子 海砂  
箕輪絵衣子 山田安  
渡辺美帆

4

わが家の歴史写真

結婚生活ピンチのころ

大阪市城東区 布施幸子さん

写真提供・文／布施幸子

9

連載④

ある英国女性の回想記

バーバラ・フォスター

早川裕子訳

19

私の意見・あなたの意見

みわママ・藤岡 泉・後藤 晶・小野喜美子

加藤智恵子・新井純子

83

新連載

東エルサレムに住んで

一九八九年～一九九九年の占領地での暮らし

二宮雅子

92

ズバリ一言

水野徳子・高松恭子

95

ブック情報

96

さよなら、ミッシェル

須賀まり子

103

フリートーク

木原紀子・家守恭子・畑中珠美・錦織むつ子

青島典子・祥まゆ美・田口香織・N・K・ゴル

121

危ない同窓会

松本とみよ

126

コミック これが子供の生きる道28

栗田笑



## エッセイスト・クラブ

山内志保・中松ミナ子・果樹田かりん・伊藤琴子  
布施幸子・森 みどり・ヒヤシンス淳子

読んでよかった 井上暁子

## 病氣上手の死に下手

福島みさを

## あなたへスマツシユ

後藤 晶・高松恭子

## 家族のスケッチ

大西ユキコ・安達みずき・小池芳美・林 直美  
和田美代子・内藤由美・三枝きよみ

## インタビュー

人間にレッテルを貼らないアドラー心理学

21世紀母親研究所・坂本洲子さん

インタビューアー・柳沢順子

## 子育てフォーラム

●NMSのページ●

鈴木貴子

130

## ハッピーバースデーのために

真野由美子

135

## 笑える！

菊池喜恵子・土子史子

138

コミック 毎日が平日 海砂

140

## 私もひとつと

祥 まゆ美・伊藤てる子・鈴木みもぎ・山本雅子  
林 直美・佐分姫子・増井幸子・村田裕美・安村豊子  
武藤徳子・栗林八重子・石井しのぶ・島村君子  
太田啓子・大原清子・田川哲子・福島みさを  
畑中珠美・トト安田・伊藤琴子・鴨川典子

144

## 情報コーナー

スタッフから

147

募集します

149

編集だより

152

わいふインフォメーション  
投稿のきまり

150 148

バックナンバー

55

お友達にわいふを

94

自費出版はわいふへ  
文章講座のおすすめ

91 134

# 結婚生活。ピンチのころ

大阪市城東区 布施幸子さん



昭和14年、実家近くの嵐山にて。  
叔母と私（7歳）、弟（4歳）



昭和25年、18歳、西京高校3年。  
女学校入学の年に敗戦。学制改革で新制高校に移った



結婚後も昭和35年6月まで働いた。  
京都技術科学館プラネタリウム室にて



昭和35年、  
安産祈願に親類の子と京都わら天神へ



昭和33年、京都北野天満宮にて挙式。  
夫33歳、北浜証券会社勤務

平成五年の夏、夫が亡くなった。  
入院して一月余り、あわただしい旅立ちだった。不治の病名は隠しとおした。

「早う治つてや。これからは私、おとなしい妻になるさかい。今までわがままでかんにん」

詫びると、笑顔で、

「そのまんまでいい」  
と言ってくれた。

年とるほどに横着になり、言いたい放題の女房と化していた自分が悔やまれた。逆に夫は若いころと違って自分を抑え、相手を思いやる性格に変わっていた。

「万一の場合、おまえが路頭に迷わんように」

細い声で言いかけたとき、

「やめて、おとうさん。縁起でもない」

急いで遮った。夫が逝くなら共に逝きたいと切なかった。

「よいご夫婦やったねえ」

と皆に言われる。でも、真剣に離婚を考えた時期もあった。

京都で結婚したころは、よくも悪くも若かった。深く考えずに嫁いだものの、夫の家族との同居は難しかった。共働きの日々は、仕事も家事も中途半端になり、双方から苦情を聞くはめになった。

長女が生まれ、私は仕事をやめた。

時を同じゅうして夫の会社の不況で、給料が遅れがちになった。私は内職を始めたが賃金の高は知れている。どころか、縫い針で指を突いて化膿し癰疽になった。胃もわるくなり神経痛も起こった。姑の機嫌は悪く、同調して夫も不機嫌になった。私が万事にふつつ

かな嫁だったことも確かである。やつと景気が上向いたころ長男が生まれた。直後、卵管水腫が見つかり手術した。子どもたちのためにがんばらねば、という気になったが回復に時間がかかった。元気が戻った矢先、長女が交通事故で逝ってしまった。



昭和39年、夫と娘（4歳）  
北野天満宮



昭和39年、大阪泉南みさき公園にて。  
娘（4歳）、息子（5か月）



昭和43年、山坂神社境内にて。  
氏神さまでよく詣った（息子4歳）



平成4年、結婚34年目の私たち。  
夫は翌年他界



昭和43年1月1日、左端のガイドさんの隣に夫と息子がいる。  
2人だけがなぜ勝手知ったる大阪見物をしたのか？ 私はなぜいないのか？  
元旦から夫婦げんかしたのか？ 謎だ！



昭和44年、大阪平和幼稚園運動会。  
だるまに手こずる夫と私

うつ状態になった私はそのとき、夫と別れようと思った。

夫は新しい環境でやり直そうと言ってくれた。そして勤め先に近い大阪に越してきた。隣人がとてもいい方たちで、遠く離れた今もおつきあいが続いている。姑とも別居後うまくいくようになった。幼い息子に手がかるのも、気分をまぎらすのに役立った。

それから難事百出、浮き沈みはあったが、夫のかじ取りのおかげで乗り越えることができた。いま路頭に迷わずにすむのも有り難い。

中年を過ぎてからは夫婦で各地へ旅行して、カラー写真がいっぱい残っている。が、加齢に比例して不細工さがつるわが写真はあまり眺める気にならない。白黒写真のほうがマシだ。

でも、夫の顔は年とってからのほうが好ましい。とは妻バカの私の見方で、写真うつりの悪さを嘆いていた夫は「みっともない写真をひと様に見せなや」とあの世で顔をしかめているかもしれない。

# 2002年秋期生募集

## 6月12日、7月10日はゲシュタルト療法無料体験日です

簡単なエクササイズを体験してみませんか。お茶菓子とお茶が出ますので、お気軽にご参加ください。  
毎月第2水曜日午後7時から9時まで。

### ゲシュタルト・セラピー専門家養成講座

ゲシュタルト・セラピーは言語だけに依存せず非言語的な手がかりを重視します。水泳を理論だけで教えるのは無理なように若干の基本的な原則について語った後エクササイズを体験したり、過去や幼児体験を分析せずに「今ここ」でエンパティ・チェアの方法を活用し再現して体験するというやり方をします。色々な実験を自発的に実行することで行動変化を体験することができます。

当研究所の専門家養成コースは、ゲシュタルト理論と指導技術を修得し、加えてセクシャリティーを学び、人間の深層に複雑に絡み合った問題解決に対するきめ細かい手助けができる高度なセラピストを目指します。

- ◆就学期間 基礎課程2年+専門課程2年
- ◆開講日時 9月13日(金)(予定) 19:00より
- ◆資格 20歳以上
- ◆合宿 年2回 春・秋
- ◆受講費用 690,000円(年間/税込)

### ゲシュタルト・セラピーベーシック講座

人間関係で悩む人、緊張が強い人、もっと自由に表現したい人、自分の新しい能力を見つけないと思っている人は、ゲシュタルト・セラピーの数々のエクササイズ、絵画、夢、音楽その他を材料として体験するうちに自由な自分に気づきます。

- ◆開講日時 9月18日(水)より10回
- ・昼間コース 13:00~15:00
- ・夜間コース 19:00~21:00
- ◆受講費用 会員70,000円 非会員78,000円

### 呼吸法講座

正しい呼吸は、心と身体の緊張を解きほぐし、同時に意識が研ぎ澄まされ、集中力が養われます。そして身体の内部に至福ともいえる満足感がもたらされます。

- ◆毎月第2日曜日10:30より(要予約)

### アロマテラピスト養成講座/トリートメント専門講座

心理療法の場面で、身体からのアプローチとしてアロマテラピーは大変有効です。解剖生理学、メディカルハーブ、フィットセラピー、リンパドレナージュ、その他健康、美容、ダイエットに関して心理面からのケアを含めて実践的に学ぶ講座です。

- ◆就学期間 6ヶ月
- ◆開講時期 秋期開講 11時より  
週1回通学
- ◆費用 400,000円

### ——サロンのご案内——

アロマサロン「ふえすていなれて」では、全員ゲシュタルト・セラピーを学んでアロマセラピーの講座を修了したセラピストです。基本マッサージに整体やドレナージュの技術を加えた独自の施術法でセラピストとして施術いたしますので、お客さまに合わせたパーソナルケアとなります。

### リフレクソロジスト養成講座

足の反射区を刺激することで、不調部位の改善と、自然治癒力の向上をはかるリフレクソロジーの技術に加え、心身のバランスや普段の食生活まで、個人にあったアドバイスができる専門家を養成します。また、プロとして活躍できるよう心身のケアから、接客マナーまで、現場感覚で学びます。

- ◆就学期間 6ヶ月
- ◆開講時期 春期4月・秋期10月

各講座修了証書発行/インターン・派遣制度有り



講師・セラピスト  
心理学博士 荒川 旬美



## 東京ヒューマニックス研究所

J R大塚駅南口より徒歩1分

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-34-6 MOAビル402

TEL 03-3986-2420 FAX 03-3986-2422

<http://www.thl.co.jp>

連載④

# ある英国女性の 回想記

バーバラ・フォスター  
早川裕子訳



mis.

## 看護のついで

私は、これから一年間自分の家になるはずの、小さな独房みたいな部屋の中を見回した。キッチンと片付いている。私物はすべて、戸棚と引き出しにしまわれているし、シーツにはしわひとつない。これならきつと、先輩看護婦の驚のような目の検閲にだって合格だろう。

何も置かれていない化粧台の上の、小さな鏡に映る自分の顔を見たとき、私はため息をついた。まったくのスッピンだ。ここに到着したとき、「少しでも口紅をつけていると、病棟から追い出されるんですって」と、看護学生の一人が早口の小声で私に忠告してくれたのだ。

私は窮屈な制服に体を押し込めながら、こんな鎧を着たままですべての仕事をやらなきゃならないのかと思った。頭には固く糊付けされた帽子。それは正しい角度で、のっけないければならなかった。ほんとにこのままの状態ですつとのかつていてくれるかしら？ ブルーと白のストライプのドレスの上に、白い胸当てのついたエプロンをつけた。両方とも着ていないときでも床の上に置いたら、この形で立っているんじゃないかと思えるほど、ピシッと糊がついている！ ウェストには堅くて白いベルトがつき、この服装を見れば、





私が入ったばかりの見習い看護学生であることは一目瞭然だった。

ドレスの丈はふくらはぎの真ん中あたりまでで、そこから足首までは慎ましくも厚手のグレイのストッキングで覆う。これらすべての服装の中で、まず黒くて頑丈なウォーキングシューズがその効果を發揮した。

——その日私は何マイルも歩くことになったからだ。蝶々が私の中で飛び交い始めた。吐き気が上がってきてのどをつかんでいた。私はこれから恐怖の病棟に立ち向かわねばならなかったのだ。どんなに気持ちの悪い傷口がいくつも私を待ち受けていることだろう……ほんとに私はそれらにさわるなきやならないのか？

でもその前に、食堂での試練が待っていた。前の晩到着したときは、荷物を片付けるとすぐに、親切そうな顔の食堂従業員からスナックを与えられただけで、私たちを監視している人は誰もいなかった。少しは仲間の学生と話をしたが、みんな疲れて緊張していたので、おたがいに知り合うところまではいかなかった。

さて、これから始まる朝食は、どんなふうなのだろう？ 先生たちは見張っているのか？ 親切そうだろうか？ 先輩看護婦たちは、私たちを笑うかしら？ 他の学生たちは私を好きになってくれるだろうか？ 私は不安でいっぱいだった。

「おはよう——急いでね！」元気のよい声がドアの外

から聞こえた。「六時五分前よ。遅れそうよ！」それは隣室のティラーだった。私たちはおたがいを苗字で呼ばなければならなかったのだ。それは最初、すごくいやなことに思えたけど、しばらくたつと、ごく自然にできるようになった。

その声の持ち主は、丸いツヤツヤした顔で、金髪のカールが固い帽子の下で光輪を作っていた。私はひるんだ。私の髪は真つすぐで、ゆうべ痛い思いをしてカーラーを巻いて寝たのに、ほとんど効き目がなかったからだ。私たちが白く塗られた廊下を食堂のほうへ急いで行くと、自分が彼女より抜きんでて背が高いのに気がついた。

朝食は、心配したほどのことはなかった。私たち新生六人是一个のテーブルにつき、他のいろんなレベルの看護婦たちはそれぞれの仲間といっしょに別々のテーブルで、病棟や患者たちについての彼女たち自身のおしゃべりに夢中で、私たちにかまっている暇はないようだった。私たちはハッチからお皿を取ってきた。それにはベーコンと模造卵が盛られていて、お粥か、冷たいシリアルも食べられた。テーブルにはパンとバターの山もあった。私は緊張していて、どれもたたくさんは食べられなかったが、翌日からは、目に入る物すべてに手を伸ばしてガツガツ食べた。重労働で、とてもおながすいたのである。

最初の日は、先生や先輩看護婦の後について病棟を回り、仕事についての説明を受けた。病室は広く、両側に十二〜十四のベッドが並んでいた。ベッドの周りにはカーテンがついていた。それは男性病棟だったが、私は患者の顔が見られず、ベッドと体とピカピカの床を見ただけだった。床がなぜそんなにピカピカなのは、後で知ることになる。

私が入ったこの一年制の准看護養成課程は、母には魅力的だったようだ。十八歳から始まる三年制の正看護養成課程に入るため一年間を無駄に過ごすよりも、十七歳でこちらに入ってしまったえば、実際に仕事覚えられて有利だと母は考えたのだ。理論上はそうかもしれないが、実態は、私たちは病棟のメイドが非常に安い賃金でするような肉体労働をさせられることが多かった。

私たちは部屋と食事をあてがわれ、月に七シリング六ペンス受け取ったが、これは家でもらっていたお小遣いより少ない額で、月に一度の帰省のときには、両親から交通費をもらわねばならなかった。その給料で私たちは一日十時間働き、週一日半の休暇と一週おきにもう半日の休暇があるだけだった。

患者が寝たままでもうやってシーツを交換するのか見たときは、四隅までピチツと決まって感嘆したのだが、実際にやってみると、それまでにやったどんな仕事よりも難しくてこたえた。

「まだダメですよ、ハーマン」と、日勤担当の先生は言いながら、私には完璧に見えるシーツの角を引っ張り出して見せた。何度もやり直しをさせられ、涙が流れて白いシーツを汚し、帽子がゆがんだ。その先生は特に厳しい人で、私は懸命に耐えた。五フィートあるかないかの小さな人だったが、かん高い声をして、どこにでも現れた。夜勤もいやだったが、彼女からしばらく逃れられるのがうれしかった。夜勤担当の先生は親切で、あまり多くを求めず、毎晩私たちに平和と数時間の睡眠を与えてくれた。私たちは気分よく静かに少しの仕事をすればよかった。

夜が明けると、山のように仕事があった。日勤のスタッフが来る前に患者の清拭をし、朝食を出さねばならないからだ。患者めいめいに清水の入った洗面器を持って行き、それで自分で拭くよう教えるのだが、できない患者にはやってあげた。初めて男性の清拭をしたときは、私はあたかも彼が性器を持っていないかのごとくふるまったので、恐らく彼は自分でしなければならなかったであろう。しかし、彼らは私より当惑しているのだとわかってからは、そういう場面にも平静にできるようになった。私の制服の中に権威と義務が宿っていると感じるようになったのだ。

「勇気出して！ 一つを見ちゃったら、全部見られるわよ」

看護婦の一人がこう言うのを聞いてからは、自分でも明るくそう思うように努めた。

患者に食べさせ、体を拭き、尿の入ったビンを運ぶのはまだましだった。いちばんつらかったのは、差し込み便器やシビンを扱うときだった。目をつむり、息を殺してそれらの臭い仕事に耐えたものだ。

そして床みがき！ これは、毎日昼食後、面会時間の直前に行われる作業だった。まづ幅の広い箒で掃いて、すべてのゴミを取る。それから、ワックスを擦り込んだ。ワックスは、重い、回転式の、ハンドルのついた機械を使って、左右に動かしながら病棟中をまわって塗っていくのだが、それは疲れる、背中の痛くなる仕事だった。しかも、おそらくはまったく必要のない作業だったのに、誰も問題にしなかった。それは多分、生徒たちを管理するために必要だったのであろう。上級生たちは皆これをやらされてきているので、下級生たちが苦勞して格闘しているのを見ると喜んだ。「私たちのときは二棟もやらされたんだから、一棟だけならいいじゃない。がんばれよ」などと言ったものだ。

その年に手がけた、いちばん実際の看護に近い仕事は、人工肛門をつけた患者の着替えをさせて、できものを除去する、小さな手術に立ち会ったことだった。私は失神しそうだった。それまで誰も私に、人工肛門とはどんなものか、ちゃんと説明してくれた人はいな

かった。人手不足で、誰かが着替えをさせねばならなかったのだ。私はギョツとなったが、その患者の目に恐れと屈辱感を見て取ると（このころには患者の顔を見られるようになっていた）、私はどんな困難も乗り越えて、彼女のために処置ができたのだった。

「ありがとうね、あなた」と彼女がささやいた瞬間、看護が価値ある仕事に思えた。一年しかやらなかったのだけれど。

ここでの生活は、結局修道院をもういちど繰り返したようなものだった。——きまりきった仕事、制服、規律……。尼僧は先生や先輩看護婦に、修道院長は婦長に取って替わられただけだった。わずかな休憩時間すら管理され、特に最初の数か月は、休息したり疲れた足をお湯に浸したりして過ごした。

修道院で私は二度修道院長の部屋に呼ばれてお説教をされたことがあるが、病院でもやはり二度婦長に呼ばれた不愉快な体験がある。婦長は、背の高い私をもはるかに見下ろすような体格に思われた。実際には中ぐらいの背丈だったのだが、厳しい顔つきや不屈の眼差し、また豊かな胸にちりばめられた彼女のランクや経験を示すバッジのついた特別の制服が、彼女を私の目には十フィートの巨人に見せていた。

最初に婦長の部屋に呼ばれたときは、私は震えながらドアの外にずいぶん長く思われる時間立っていて、



やっと冷や汗のついた手でノックすることができた。私はいったい何をしたというのだろうか？ 私はいつも真面目で、気をつけていたし、何も悪いことなんかしていないのに。先輩看護婦の一人が、なにかちよつとしたことを言いつけたのかしら？

「おはいり！」私がやっとおそろのおそろノックすると、婦長の太い声が響いた。私が少しずつ入っていったら、婦長の頭は簡素な机の上に向けられたままだった。私はそこに立ち尽くしていたのだが、制服の糊が見る間にしおれていくようだった。私のほうから話さなきゃいけないのかしら？ 彼女の深い穏やかな息づかいと、背後の時計のゆっくりした秒針の音が聞こえていた。私たちは時空のなかに浮遊しているように思われた。そのとき、恐ろしいことに、低いゴロゴロという音が、私の胃の奥から鳴り始めた。呼び出されたので、朝食に行く時間がなかったのだ。

彼女は不快そうに私を見上げると、威厳をこめて立ち上がった。「あなたのお母さんから、お電話がありました」一語一語をやけにはつきりと発音して、ゆっくりと話し始めた。「お母さん」という言葉がとても厭味を帯びて伝わってきたので、私はたちまち、家で何か恐ろしいことが起きたのではないかと心配になった。たずねたいことがいっぱい頭に押し寄せたが、パニックになって言葉にならなかった。含みのある沈黙の後、



彼女は続けた。「お母さんは、あなたがここへ来てからまだ一度も便りがないと、大変心配しておられます」

私はナアーンダとずっけそうだった。それだけなの？ 私は家へ手紙を書くのを忘れていたのだった。私たちが使える電話はなかったし、両親のほうにも電話はない。働きづめだったし、友だちとの付き合いもあって、疲れて手紙など書けなかった。母はとても心配性だったから、申し訳ないとは思ったけど、家族の中のことに、こんな強力な他人が侵入してきていることに当惑した。いまでは、婦長は生徒たちのすべてに責任を感じていたのだと理解できるが、そのときは、私がいかに悪い娘だと言われているようで、腹立ちを覚えた。

「これからは毎週お家へ手紙を書くのですよ」厳しい言葉はさらに続いた。

「必ずですよ。今日から始めなさい」

「はい。婦長さん」私は低くつぶやき、尊敬しているように見えてほしいと願った。

「下がつてよろしい」

こうして解放された私は、死んだようになって廊下に転がり出ると、こんな体験は二度と繰り返すまいと決意した。ところが、その学年の終わり近くになって、二度目の呼び出しがあったのである。私は、そのころには少しは看護婦としての自信もつき、病院の仕事が

さほど気にならなくなっていた。それでも、婦長室への呼び出しとなるとやはり重大事だった。今度は、呼ばれた理由がある程度察しがついた。

前の晩、私はわりと近くに住むいとこのレーンと、このあたりの田舎道を歩いていた。バブで会ったかなりハンサムな二人のアメリカ兵士といっしょだった。私たちはおしゃべりしながら歩き、その兵士たちが言ったギャグに笑っていたので、むこうから歩いて来る

二人の女性に、すぐ近くですれちがうまで気づかなかった。と、そのとき、その一人が知った顔だと思った。えっ！ まさか！ ヤダ！ ほんと！ どうしよう！ それは私服の婦長だったのだ。私は彼女が制服を脱いだところを見たことがなかった。このときはほとんど普通の人に見えた。彼女は、通り過ぎるときは、さほどジロジロは見なかった。でもわかっている！ 頭の後ろにも目がある人だもの！ 何て言おうかしら？ 二



人の兄にする？ レーンの兄にする？ いや、それは危険だ。婦長は私の両親に探りを入れるだろう。それにどちらの兄弟にしても、アメリカ空軍の制服を着ていったいどうするの？

私の心の中で婦長のオーラはいくらか人間に近づいていた。普通の服装で、髪を風になびかせているところを見たからだ。でもいま再び彼女の前に立たされてみると、彼女の権威はこれまでも増して圧倒的な大きさで迫って来た。

「もしもその気になれば」と、婦長は平常の口調で話し始めた。が、彼女の「もしも」は、大いに疑問だった。「その異性の者たちが誰か、調べることはできません」この「異性」の二文字を、彼女は蛇の毒を飲んでしまったかのように、汚らわしそうに吐き出した。彼女の声は尾を引き、眉毛は吊り上がった。「ところで、いったいここで、あなたはそのアメリカ人たちと会ったのですか？」彼女の言葉には「不貞」という意味が込められているようだった。

これはヤバイ。ネチネチと続きそうだ。言い逃れするとロクなことにならないかもしれない。とにかくこのときは何も思いつかなかったので、咳払いしてもしわがれ声で私は答えた。「『クラウン』で会いましょう」

眉毛はさらに高くせり上がり、雪のように白い帽子の下に完全に隠れてしまいそうだった。

「『クラウン』で何をしていたのですか？」

「いとこと会っていました」家族のメンバーを出したほうがいいと思ったのだが、間違いだった。

「そうですか。それではご両親にこの件についてお知らせしなければなりません。まさかアルコールは飲んでいなかったでしょうね」（もう一つの言葉は、彼女の純潔な唇から出るのは難しかったようだ）。

「いいえ、飲んでいません。シャンデイーだけです」

「シャンデイーは半分はビールなのですよ。しかもあなたの年齢ではパブで飲むのは禁じられています。そんなことも知らないのですか？」

それはもちろん知っていたが、私にはひとつ利点（そう言つてよければ）があつて、背が高いので実際より年上に見られたのである。そのため内面的にはついていけないような場所に入り込むこともできたのだ。パブの魅力的な雰囲気や飲み物や軍服姿の青年たちは、大いに楽しんだだけでも。

それは思ったより短い面談だった。特に処罰もなく、両親に告げるといふ脅しも実行されなかった。しかもそうした行為の危険性に対する警告もなかった。彼女はただ私に、それは決して認められないことだと知らせる義務を遂行しただけだった。これで十分だったのだ。

私はその後二度とアメリカ人と出かけたり、パブで



飲んだりしなかったとは言えないが、婦長がそのことで私を捕まえることは、決してなかった。私は成長していたのである。

これらは一九四二年のできごとなので、戦争は続いていたわけだが、小さな病院の純化された雰囲気の中では、戦争とはあまり関わりなく過ごせた。私たちのボーイフレンドやいとこや兄弟たちが軍隊に入り、しばしば危険な目にあっていたことは事実なのだが、その危険が目に入らない限り、それを考えることはあまりなかった。

日常生活の外で、エキゾチックな軍服を着た他国の兵士たちを見てワクワクするくらいのものであった。いくつかの食べ物配給制になったが、空腹もあまり感じず、お菓子が手に入らないこと以外は、さほど不便とも思わなかった。病院では、なぜか各自にお砂糖の配給が分け与えられ、それを私たちはあちこち持ち歩かねばならなかった。病棟での短いティータイム、次にカフェテリアで三十分足らず、それから食堂へとというふうだった。私はいつも自分の砂糖容器を置き忘れるので、やがて紅茶やコーヒーをお砂糖なしで飲むようになり、それ以来お砂糖は使わなくなってしまった。

(つづく)

(え・佐藤瑞江子)



## 私の意見

## あなたの意見

### 自分の受けた「しつけ」

### しつけの正解は？

東京都練馬区 みわママ

自分の受けた「しつけ」について考えるという場面、父や母からの言葉、行動を思い出すことになり、子育て中の私にとって、参考より反面

教師的な場面ばかりが頭に浮かびます。あのころ、イヤだなあと思い大人になったのに、今、親となり同じことをしていて頭が痛いです。

①挨拶は、私がとってもはにかみ屋のため、外出先で親から「こんにちではしょ」「さようならでしょ」と言われても、チョコンと頭をさげるだけで親の後ろに隠れてしまう子どもでした。そのためか？ 今、子どもには、元気に挨拶してもらいたくて、私も元気に挨拶するべく、心がけてはいるのですが、こういうことも遺伝するのかな？ 長女はとってもはにかみ屋で、私が母から言われたセリフをそっくり長女に向かって言っています。

②食事のときは、好き嫌いの多い私には、気の重い時間でした。「野菜を食べないと、大きくなれないのヨ」とよく言われ、泣きながら食事していたことも少なくありません。食事に関しては、野菜とともに、父の機嫌も気になりました。父の機嫌が悪いと、私や母の以前のツミ（？）も持ち出して、ネ

チネチ教訓を与えられ、野菜を食べることの辛さと重なり地獄の時間となりました。父はしつけのつもりでも、私の心の中には、父の言葉は全く響きませんでした。

③電車などの乗り物の中では、私の記憶する限りでは、行儀のよい子どもだったと思います。私が席に座っていたときも、お年寄りが乗ってくれば、母から「立ちなさい」と言われましたし、母と一緒にいるときも、「どうぞ」と言っていたと思います。ただ、今、子育てする中で思い出すのは、母の言動。私が小学校高学年ころからだと思うのですが、母は、他の子どもがあざけて席や他の乗客の服を汚すのでは……という場面に出会うと一言いいなくなるみたいなのです。それも私を引き合いに出して……「あなたの小さいころは、人の迷惑になることはしなかった」と、当事者の親子に聞こえるように、私に話しかけるのです。そのときはイヤミだナァーと思うつつも、適当に相づちを打っていたのですが、今、

私の子どもの電車内を考えると、母が親子に対して「しつけ」？と考えて行動していたことって、私がされたらストレスになるナーなどと思ひ返して、恥ずかしい気持ちになります。自分の子どもの注意以上に、人の子どもへの注意って難しいですね。

④レストランで注文するとき、私、気になる言葉があるのです。「○○でいい」「○○がいい」という言い方。友達とメニューを見つつ自分が食べたい

物を注文するのに「○○でいい」という言葉遣い、本当は、別の物がいいけど○○でガマンするというニュアンスにとらえてしまうのは、私だけでしょうか？ 母も何かを選ぶとき「○○でいい」は、使わなかったからだと思うのですが、変なところにこだわっております。

⑤掃除、片付けについては、親からしつけられた、という記憶がほとんどありません。母も、四角い部屋を丸く掃



除するタイプだったので、私の部屋が散らかっていても、手を出さなくても、注意するでもなかったもので……。たまに「少しは片付けたら」と言うこともありましたが、そのとき、チョチョイと出ていた物を重ねたり、収納したりで納得してくれて、後は何も言われませんでした。

両親からのしつけで、今いちばん思い出したいのは、私が二歳、四歳（現在、私の子の年齢）のころのことなのですが、私だけなのか？ そのころの記憶って全くないです。思い出せるのは、小学校三、四年以降のことばかりです。私の記憶に残っている中では、多少は反発もしたけれど、親の言いつけは一応守る、親にとって扱いやすい（？）子どもだったのではなかったかしら、と思います。

二歳と四歳の子どもにいろいろな「しつけ」を試しては、失敗ばかりの毎日、これから先も、これがいちばん、これが正解というのは、分からずじまいになるのでしょうか。

## しつけについて思うこと

埼玉県新座市 藤岡 泉（33歳）

新座市では、今年度の新一年生から、担任、副担任、そして生活指導補佐員二名、一学級に四名の配置になりました。

生活指導補佐員とは、給食の時間から掃除の時間の二時間くらい、年間七十日くらい、学校生活に慣れるくらいの間、ほぼボランティアで指導するという制度です。

市内の公立小学校では、毎年四月に入学してくる一年生の家庭でのしつけがなっていない、担任一人では面倒がみれないということでした。特に目につくのが、雑巾がしほれない、着替えができない、おはしが使えない、などです。

この制度に、賛否両論がありました。例えば「なぜ、家庭でやるべきしつけ

を学校でやるのか」「上級生が対応できないのか」「パートに出ている人が多く、こんなお昼どきにボランティアをやってくれる人などいるわけがない」と反対意見が特に多かったです。

しかし、隣の志木市では「二十五年学級」「不登校児訪問指導」など、市独自の教育があるので、新座市の特色として反対の多いなか教育委員会では、この生活指導補佐員制度を導入したのだと思います。

小学校入学までにできていないしつけは、幼稚園や保育園でどうにかならないのか、という意見もありました。子どもだけではなく、親のほうに注意しても、素直に聞くことができないということとです。特に私立幼稚園は、経営に影響がでるということで、園側も保護者に何も言えないという現状があるようです。

私にも、二歳半の娘がいて、来年から幼稚園に入園させようかと考えています。今、反抗期なのか、嫌、嫌が大変です。しかし、子どもを産んだ以上、

社会に出るまでの間、しっかり子育てをしていかなければいけないと思います。物や情報があふれて、何が本当にいいのか悩むときもあります。一人の個性を大切に、社会に出ても困らないよう、家庭で最低限しなければならぬしつけは、親としての責任ではないかと思っています。

## ジェンダーフリー

東京都世田谷区 後藤 品（43歳）

私は昭和三十三年生まれの四十三歳。徳島生まれの徳島育ち。両親もその祖先も、たぶんみんな徳島の人間である。実家には古い系図みたいなものがあった。祖父や叔母たちもいたが、私が幼稚園のころから両親と二歳上の姉の四人家族になった。

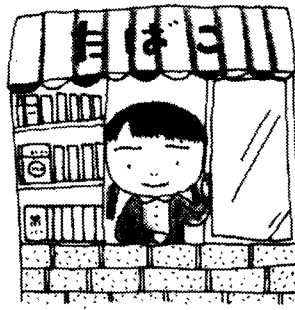
私の父はちよつと変わっていて、母はよく「へんくつ」と表現していた。信心が薄いというか合理的というか、

非常識なところがあつたので、しっかり者の母が家庭のバランスを取っていた。私と姉は田んぼの中の小学校では優等生だったので、両親に期待させてしまったようだ。「子どもなんて持つもんでない」と父はよく言っていた。子どもが親を振り向きもせず自分の人生を選ぶということを言っていたのだと、自分に子ができてよくわかった。「成績が普通だったなら今も仕事を続けていたかも」と、母は中途半端な娘と過去の栄華の矛盾を悔やんでいる。

勉強のことでは親に誉められも叱られもしなかった。あいさつや手伝いのよくできる近所の子と比較されて、母に注意されることは多かった。家はタバコ屋で、私たちは小学生のころから店番をする毎日。地域社会での作法をしつけられたと言える。

父の教えで印象的なのは、神棚や仏壇のろうそくから火事になった例があるので、「あほらしいことしたらあかん」と言って、なにごとにも形式的なことを軽蔑したことだ。それから胃腸

の弱い父に「冷たいものはお腹をこわす」と言われ続けた私は、今でもビール以外の冷たいものをあまり口にできない。また、テストなどについては



「今度間違わんかったらええ。同じ間違いを二度せんように」と言っていた。

今、PTAの付き合いのときなど母

が「人の噂話の場にも聞くだけにして相づちを打つな」と言っていたのを思い出す。また、知識や理屈をかざして不和になるより、知っていても知らないふりをするのも賢いことだと、夫の家との付き合いのとき今も言われている。

両親は七十歳を越えたが、田舎の旧制中学と女学校までの教育のわりには、進歩的なほうだろう。小さいころ父には「あきらくん」と呼ばれたりして、「女らしく」とか「いいお嫁さんになるように」とかはいい言葉じゃなかった。母にもフリフリの服や小物を与えられた記憶がない。かといって「男に負けるな」と言われる必要もなかった。世論の多数意見とは違う見方、一般常識の裏返しを考え方もあることに、幼いころから気づいていたのもこの家庭だったからこそ。

「あきら」といういつぶう変わった名前が私は大好き（そういえば姉の名前も男女両方に使える）。両親のしつけはここに凝縮している。

## しつけの効果

岡山県倉敷市 小野喜美子

まず、しつけに関して四例。

私の夫。四十五歳。大分県出身。母親の実家は寺。しつけは厳しく、片付けも自分でする優秀なお坊ちゃんだったそう。今は脱いだ服が部屋中に散乱している。小さいころのしつけというのは効果がないのか、と思っていたがこのごろ思い出したように服を片付け、自分で整頓する。効果の片鱗はのこっているのか？

私。四十二歳。香川県出身。親が大正生まれ。整理整頓にはうるさかった。しかし貧乏暇なしできれいな好きの母親には、子どもの片付け能力を向上させるより自分で片付けるほうが簡単だったようだ。これが失敗だった。おかげで私には片付けのノウハウが身に付いていない。今、わが家の状況は……悲

惨だ。

私の娘。十六歳と十五歳。岡山県在住。やはり貧乏暇なし、かつ片付けのできない親に育てられた子どもたち。一応、使ったものは片付けなさい、と言ってきたのだが、親が見本を見せられないのは痛い。望み薄と置いていたが、次女は結構上手に片付ける。保育園育ちが効を奏したのか？ 長女も保育園育ちだが、残念ながらこちらは私と同程度。

子どものしつけって何？ これは子育てを通しての私の疑問だった。小さいときのしつけが大切、と保育園でも小学校でも言われたけれど、うちのダンナのように効果が大人まで持続しないこともある。反対に私は小さいころ箸がうまく持てなかったが、大学の寮で友達に教えられて、今では普通どおりだ。子どものときにしておくべきしつけって何だろう。

最後にもう一つ私の場合。父親が大正生まれ。礼儀には厳しかった。減多

に怒らない人だが近所の人に挨拶をしないとひどく怒られた。私は知らない人に挨拶をすることは大人のたてまへの匂いがしていやだった。反発して何度もちっぴどく怒られた。今ではもちろん父親の言いたかったことは理解できるし、この記憶も悪い思い出ではない。

と、いうことで今の私のしつけに関する持論は、効果があろうがなかろうが、自分ができようができないがどんなやるべし、というところ。親の人生観、生き方のサンプルを子どもに示すことがしつけの一つの意味ではないかと思っている。

## 母のしつけ

山形県山形市 加藤智恵子（71歳）

私の両親は明治後期県内の田舎に生まれ育った。私たちの幼少のころは、戦争中、戦後の激動の波にさらされた。

昔は、女の子のしつけは婚家先に笑われないようにというのが本音だったように思う。さてわが親はどうだったか。

もう五、六十年も前のことで、そうした考えでしつけをされた記憶はほとんどないところを見ると、案外しつけは言葉ではなく、見よう見まねでごく自然のうちに身に付いたのかもしれない。加えて小学校入学後は、戦中ということもあって集団の規律は充分に仕込まれた。また女学校（今の中学校）には畳敷きの礼法室があって行儀作法や、生きる心構えも教えられた。

一方、私の親しい友人は言った。

「母は厳しかった。生き方はもちろん、掃除のしかた、洗濯物の干し方までこまごまと教えられた。恥じない生き方ができるようにとの心づかいだった」と。

同年代の友人と私、目標は同じでも、方法はまったく別だった。このことはいつまでも私の心にひっかかっていた。

こんな私に一つだけ忘れ難い思い出

がある。幼少のころわが家は家族数が多く、父一人の月給では生活が大変だった。月給日、母は神棚から月給袋を下げ、一室に私を呼び入れた。母は私に紙幣を持たせ小銭にしてくるよう命じる。何か必需品を買ったりして二、三軒店を回り小銭にした。有り金を部屋に並べ、米代〇〇円……などと書かれた何枚もの小袋の中に金を詰めるのを見ていた。何ていろんなものに金があるんだらうと、子ども心に胸苦しさを覚えていた。

数年して大学生のころ「ママの思い出」という洋画を見た。忘れられない作品だった。

主人公の母は、給料日に子どもたちを集め、生活に必要な金の残りはこれだけだ。各自今必要な物があれば言いなさいと問うた。各自、服が、靴がと言う。しかし全部の要求を満たすほどの金はない。言い合ううち自分の主張よりも緊急を要する物があることを知ると。そして一人の願いがかなえられる。という筋が中心だった。

私はその物語に、共同生活のルールや他人を思いやる心を育てるという作品に、大きな感動を覚えたのだった。

母が私に見せたことも「ママの思い出」のママがやったことも押しつけではなく、見せたり考えさせたりする中で、生活の厳しさを教えようとしたことは通じるものがあつたと思う。身をもって教えられた唯一の思い出である。

## お手伝いは当たり前

埼玉県さいたま市 新井純子

昭和三十三年、青森県八戸で生まれた私が幼いころは、皆が貧しかった。父が中学の教員をしていたが、それほど現金収入があつたとは思えない。母は和裁が得意で反物屋の仕立てをしていた。私たちの大学の学費は、仕立てをして得たお金で出したようなものだ、と母はよく言った。

貨幣経済よりも自給自足の、物々交換的な大家族の暮らしだった。私たち子どもにも家庭の中に仕事があった。



父、祖父が晩酌をするための酒を、ビンを持って酒屋まで買いに行った。豆腐屋へ豆腐を買いに行くことも私の仕事だった。庭の掃除は祖母にくっつい

てやっていた。薪ストーブだったので、その薪を家に運んだ。祖父や父が薪を割るのをそばで眺めていた。お手伝いのみが大人から受けたしつけだった。

さて、私が人の親になって心がけたこと。小さい子どもを連れて公共の場所に出かけるときは、なるべく周りの人に迷惑をかけないように気をつける、だった。遠出をするときは子どもが乗り物で眠るような時間帯を選び、折り紙、絵本、飲み物と少しのおやつをリュックにつめた。図書館には機嫌のいい時間帯に連れ出した。病院では泣かれないように話しかけた。結構、社会に気を使っていた。

現在、高校三年生、中学三年生の子どもたちには、社会的なマナーを守ることは割に注意する。サービスを受けたら「ありがとう」と言う。ドアは後ろの人が、あるいは前から来る人が手で押さえるまで離さない。バス、電車に乗って、お年寄りが前に立ったら席は譲る。自転車の無灯火は人のためではなく、自分の身を守るのだから絶対

しない。

私が「しつけ」と受け取った家庭内での仕事だが、わが子どもたちは週一回のトイレ掃除（二か所あるので一人がひとつの担当）、犬の散歩と食事、洗濯機のスイッチを入れるという、何とも仕事にはならないような仕事でこころもとない。

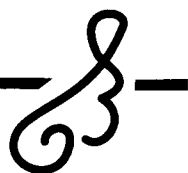
ただ私が、あるいは夫共々留守をすることが一年に数回あるが、そんなときは食べる物を作り、洗濯などもこなしているようだ。

さて、しつけって何だろう。ご飯を食べるときは静かに。大きな口を開けて笑わない。男は泣かずにがまん。ということだろうか？

私は、自分の自由は主張しつつも、きちんと社会のルールやマナーは守り、他の人の自由と権利を侵さず、認められる人になることだと思うのだが。

私の年齢四十三歳、両親とも青森県八戸出身。

（え・箕輪絵衣子）



# エッセイスト・クラブ

## 父の涙

山内志保（74歳）

そのとき私は十七歳と何か月、終戦の一月半月前のことである。

昭和二十年三月高等学校卒業の者は、学徒総動員令によって、卒業と同時にそれまでの動員先に引き続き行く、ということになっていた。上級学校の女子専門学校（今の女子大）に進学する者は、七月一日に新しい動員先に行つてそこで入学式が行われた。

もうすでに住みなれた東京の家は焼けてしまつて、神奈川県平塚市に住んでいた。私の新しい動員先は千葉県野田近くにある工場で、東武野田線で行く所だった。東海道線の列車の切符は証明書がなければ買うことのできない時代で、千葉県の動員先に行くということで国鉄の切符が手に入ったものか、あるいは小田急線を利用して行つたものか記憶は定かではない。

六月三十日かあるいは七月一日か、入学する日の前に京浜東北線を利用して大宮駅に行き、ここから東武野田線で動員先に向かったものである。

東武野田線の大宮駅で電車を待っているときに、私をここまで送ってきた父が、「こうして一人動員先に行かせるのは、こんな時代だから家族はバラバラにいたほうが、誰かが生き残ることができるだろうと思つて行かせるのだ」とハンカチを出して涙をぬぐつた。私はこのときはじめて父の涙を見た。

住みなれた新宿の家は五月二十五日の夜灰となり、知人のあの人この人もすでにたくさん戦死していた。もちろん新橋にあった父の店も焼け、仕事どころの話ではなかった。

女学校の卒業式が終わると私は微熱が出て、寝汗をかくようになり、医者に行くと『肋膜炎だから一か月は絶対安静にするように』と言われたが毎夜の空襲で絶対安静どころではなく、そのうちに五月二十五日となり家は焼けてしまったのである。

入学先に行つてみると、そこには松林をきり開いてできた軍需工場とそれに付属する宿舍とがあり、あとは何もないようなところで、引率の先生がいらして、新しい友人人数人が同室となった。ここは軍需工場なの



で特配（特別な配給）があり、大豆がごろごろ入ったご飯ながら三食の食事はきちんとできた。

工場で働くようになって十日ほどすぎたころ、私はまた寝汗をかくようになり病気の再発を感じ、どうしようかと思っていると家からあまり文面のよくわからない電報が来て、先生に呼び出された。母の名ははっきりしていて父からのものであった。私は先生はじめ新しい友人に、気を落とさないで、気をつけて、などと声をかけられて工場を後にしたが、どうしても母が死んだという実感は持てぬまま小田急線經由で平塚に向かった。伊勢原来ると駅前は大勢の人でごった返していた。バスが来ないのである。歩くほかないのかと覚悟をきめたころトラックが二台来て、平塚方面に行く人はこれに乗りなさいと叫んでいた。私もこれに乗ることができて平塚に近づくと、あの東京で経験したきな臭いにおいがしてきた。これでは平塚はひどい焼け方だろう、家はないだろうと当然思った。町はひどく焼けていたが、家に近づくとも隣家は焼けおちてしまっていたがわが家はあったのである。

家に着くと母は重傷で入院していること、家には焼夷弾が三発落ちたが消したこと、外でうつ伏せになっていた母の臀部に焼夷弾が直撃したことを知らされた。母は生きていたのだ。

それからの毎日は母の食事運びと介護の日々であった。



た。空襲も毎日で、グラマン戦闘機が人を目がけて機銃掃射をするので、家の中防空壕と逃げるのであるが、弾丸が屋根瓦にあたってピンピンはじける音は今でも耳に残っている。

あの平塚空襲は七月の十七、八日ごろと思う。母の傷も日に日に小さくはなったが、毎日の治療は麻酔薬もなく行われるので、皆の泣き叫ぶ声で大変だった。

そして終戦の日となったが、そのときの電灯の明るさと、ああ一家皆生き残ることができたという安堵感、はまことに筆舌につくせないものであった。

そのときには、その後多くの同胞が、引き揚げ、抑留と大変な苦勞に遭われることなど全く想像もつかないことであった。

# 思い出の遊園地

大阪府豊中市 中松ミナ子

夕食の仕度をしている私の耳に、宝塚ファミリーランド（兵庫県宝塚市）が来春三月限りで閉園とのニュースが聞こえて、思わず濡れた手のままテレビの前にスッ飛んでいき「ウソォ！ どうして？」

関西の遊園地としては老舗中の老舗で、十代の女性よりもとり年輩女性の根強いファンを抱えている宝塚歌劇団と共存しており、六甲山麓、武庫川上流の風光明媚な土地は温泉町としても知られ、地元はもとより地方からの観光客でも賑わっているのだ。電鉄会社直営ならではの交通至便、現在のようにマイカー族が少なかった時代は行楽シーズンともなると、人気の乗り物の前は順番待ちの子どもたちであふれていた。

そして、動物園、手入れの行き届いた園内の花壇に咲く四季の花々、わが家の子も含めて心を弾ませる趣向をこらした乗り物など、それらが小ぢんまりと調和よく整っていて、家族揃って一日をたっぷり楽しめた身近な、まさに『ファミリーランド』であった。

だが、ここ数年は膨大な赤字を計上してきたそうだ。

確かに、世界的規模を誇る巨大なスケールでスタートしたUSJパークの人氣は相当なものらしく、それらも影響しているのだろうか。今どきの子どもは、ファミリーランド程度では物足りなく感じているのかも知れない。

それにしても、世の中、右を向いても左を向いても、お先真つ暗の不況時代、加えて連日物騒な話題で、昨今「あーア」と溜め息が、すっかりクセになっている私。

やっと気を取り直してコンロの煮物の具合を見ていると、子どもたちが幼いころ、まるでわが家の庭のように慣れ親しんでいた宝塚での思い出が次から次へと浮かび、古いアルバムに残る子らの成長記録にピツタリ重なる。

三十数年前、家業のすし店は一か月に一度だけの定休日、夫は磯釣り仲間と前夜から遠出して留守、子どもたちは、この日だけは母親を独占できると待ちかねていて「早く宝塚へ行こうよ」とせかせかせた。母を子守助手に誘っては宝塚ファミリーランドへ出かけたものである。幸いなことに阪急沿線は宝塚線のH駅前に住み、電車に乗れば八ツ目が宝塚、所用時間わずか三十分、目が離せない幼な子連れにとって拔群の便利さが、うれしかった。

子守助手の母は独身時代からツカファンを自負して

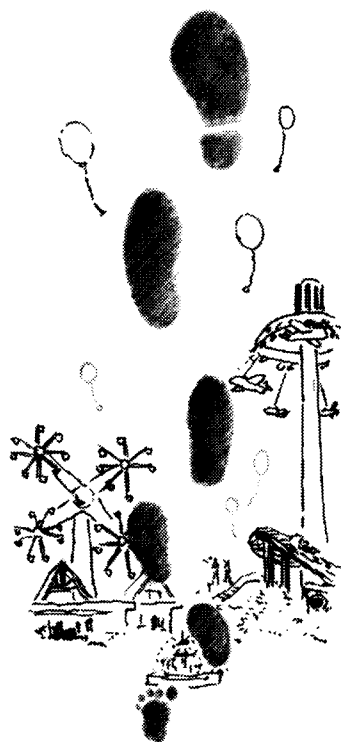
おり、その感化を受けて私も物心ついたらツカファンであった。戦後、再開された歌劇の舞台は夢の世界で、その華麗さに魅了されたのである。

とはいえ、子育て中はレビュー観劇は叶わず、大劇場のホールを通過するだけだったが、それでも独特の雰囲気心浮き立つ思いがした。日本中で遊園地は数多いが、歌劇団、動物園、遊園地を集合させ、ともに栄華を極めたのは、創立者小林一三翁の時代の先を読む。大実業家の頭腦のよさかと私ごときも感服させられる。(残念ながら小林翁にしても現在の世相までは見抜けなかったらしい)

数日後、わが家でファミリールランド閉園が夕食時の話題になった。息子は「それぞれの動物の檻がどこに在るかも覚えてた。猿ヶ島を見て……アシカの餌を買

ってもらって投げたり……乗り物も何回乗っても楽しかったなァ。幼稚園の春の遠足は宝塚と決まっていたもんなァ」と言えば、「そうや、チビ(娘のこと)を泳げるようにしたのは宝塚のプールやった」と夫が父親ぶりを披露する。「朋子(孫)も人形館が好きで、あのタータタータンタンターって舟に乗って一巡りしてくの、同じコースなのに何か夢があって私も大好き」と嫁も目を細めて言う。「ねェ、閉園までにみんなで行こうか?」「行きましょう!」などなど。

ひよつとして、ファミリールランドへ行けばメリーゴランドから、木陰から、幼いままの息子や娘が……亡き母とも再会できるかも……そんな気がするのだが――。



# 不思議なカラスウリ

横浜市神奈川区 果樹田<sup>かきた</sup>かりん

数年前の夏の夕暮れ、散歩中に廃屋の垣根で不思議な花を見つけた。

白い花びらの先が糸状に分かれ、レース編みでさえ表せないほど繊細だ。神秘的な花は、垣根や雑草に巻きついて咲いていた。

日曜の昼下がり、家人にも妖艶な花を見せたいと思い、現地に案内した。ところがなぜか花は全部、萎んでいて、糸屑を丸めたような姿が、わずかに麗しきころをしのぶようになっている。どうやら夜しか咲かないらしい。

不思議な花を私は「貴婦人花」と勝手に名づけ、図鑑も調べずに日が過ぎた。

ある日の新聞で、偶然この花の紹介写真を見た。カラスウリの花で、一夜しか咲かないとある。なぜこんなに美しいのに、人目を避けるのだろうか。「夜だけ咲くのは謙虚だから？」それとも己の美貌を知っていて、摘まれぬよう潜んでいるの？」と聞いても貴婦人は黙して答えない。

カラスウリの花に、良妻賢母をしている友人たちの姿が重なった。学生時代、羨ましいほど優秀で、熱く夢を語り努力していた女性たちだ。五十年代生まれの私たちは、学校では男女平等の教育を受け、家庭では封建性を植え付けられた親の影響を受けた世代なので、おもしろいほど言動が矛盾してしまいがちだ。

もちろん好きで専業主婦をしているのなら構わないが、主婦が働くのを快く思わない夫や姑を立て、頑なに自分を抑えている。

長年、専業主婦を続けた私は、自分が『お山の大将』になって子どもを支配していることに気づき、仕事を始めた。特技も才能もない惨めさを痛感しつつも、社会参加で広がった世界に満足もしている。ゆえに『お山の大将』どころか『お山の兵隊』としてシャドーワークに甘んじている友に「昔の輝いていたあなたはどこに行ったの」「あなたの夢はどうなったの」と肩を揺すってやりたい衝動に駆られる。彼女たちはカラスウリの花だと歯がゆく思う。美しさや能力を隠すのは、ちっとも美德ではない。カラスウリが自力で立たず、他者にもたれて咲くのすら腹立たしく思えた。

一昨年の秋、山道で赤い実を見つけた。

大きさも色、形もうりざね型の柿に似ているが、ツル状で、クリスマス飾りのように、木の随所にぶら下

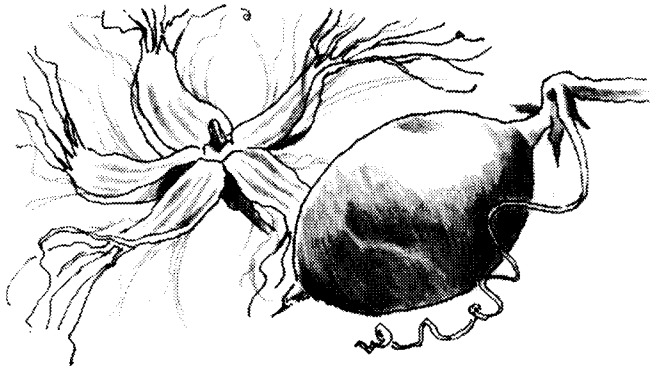
がつている。一緒にいた知人が「カラスウリの実よ」と教えてくれた。

「花しか知らなかったわ」と驚いて言うと、知人は逆に「花は見たことがない」と言う。それほど秘やかに咲く花なのだ。

内気な花の時代から一転し、カラスウリの実は枯れ葉の多い山道で一目立っている。

「見て、私はここよ。ここにいるのよ」と赤く燃えて存在を主張している。「見たわよ。確かにあなたはそこにいるわ」と私は大声で叫びたいほど体が震えた。ようやく帳じりが合った気がした。カラスウリに「ありがとう」とお礼を言いたいほど、心が熱く燃えた。

帰宅してパソコンで検索してみると、カラスウリの白い花と赤い実が、カラー写真で載っていた。早速、私は家族や知人に、夜しか見られない花と実の写真



を瞬時に見せることができた。皆、一応は感動してくれたが、実際に花を見て胸ときめかせ、年月を経て、実と出会った私の感慨とは当然異なるものだった。簡単にわかることが必ずしもいいことではなく、お仕着せの知識は身につかない。学生時代の自分を思い出し、おかしくなった。

パソコンの説明に「黒い種はカマキリの頭に似ている」とあるが、種の写真はなかった。

私はどうしても種を見たい好奇心に駆られ再び山道に行き、カラスウリに詫びながら、実を数個、ツルごと持ち帰った。

朱色の実、油紙のように鈍く透き通っていて、押すとペコッと引く込む。いちばん小さな実をそっと開くと、真ん中に綿にくるまった白い種の固まりがあった。でもどう見てもカマキリの顔に見えない。たまたま開いた実が異常なのかもしれないと思い、三個も

開いたが、どれも同じだ。強いて言えばカマキリの卵に似ていなくもないが、ナゾだけが残った。

師走に入ると色褪せた実が割れ、黒い種がたくさんはじけ出てきた。その瞬間、私は思わず息をのんだ。本当にカマキリの顔そっくりなのだ。

前に切り裂いたカラスウリは、未熟な種だったのだ。どうやら私はあまたのカマキリを中絶させてしまったらしい。手の平に種を一粒乗せて眺めると「よくも仲間を中絶させてくれたな」と、左右にはり出た目でジロリと睨まれ、その三角にとがった口先で今にも咬まれそうな気がして、あわてて手から種を落としてしまった。

ところでカラスウリは雌雄異株だという。

最初にカラスウリの花を見つけた廃屋の垣根にも行ってみたが、実は一個もなかった。何年もここを通りながら、カラスウリの実を知らずにいたのは雄株だったからだ。となると、実をつけないこのカラスウリは、貴婦人ではなく貴紳だったことになる。

人知れずひっそり咲くだけなのがカラスウリの雄株で、赤い実をつけ勝利宣言をするのが雌株か。しかもオスを食べるカマキリに、その種を似せたとは神様もいたずら好きだ。

私は自分の勝手な思いこみ、勘違いが外れたことすら愉快になり、爽快に笑った。

ときが流れ、今春、友人が絵手紙の本を出版した。七人家族の主婦を務めながら、自由になる深夜に絵を描き、エッセイを書きためていたという。

別の友は、四半世紀同居したお姑様を看取った後、英語塾の先生を始めた。

それぞれの置かれた立場で、模索しながら自己実現をはかり、カラスウリのような実をつけた友だちに、私は深く頭を下げ、憤慨していたことを謝った。そして心から惜しみなく拍手を送った。

## 桜・さくら

アメリカリトルロック市 伊藤琴子

春休みの一週間を利用して日本に帰省した。春の日本に帰るのは九年ぶり。「三寒四温だよ」と、父が言っていたのでそのように服をスーツケースに入れた。おみやげも買った。

日本に帰るのはお正月以来、十週間ぶりのことだった。アメリカ滞在二十二年で、急に里心がついたというわけではない。

私の母が働いていたので、実家の近くに住み、彼女

にかわって面倒を見てくれた伯母が患っていたので、私は日本に行き、見舞ってやろうと思っていた。一月に伺ったときには、すでにかなり弱っていた。

「琴子ちゃん、遠いところをわざわざありがとうね」

幼いころから私を知っている伯母は、実の娘のように私をかわいがってくれ、私が訪ねるのを楽しみにしてくれていた。未亡人になってからは、なんだか寂しそうで、昔の明るさが消えていた。伯父さんのこと、愛していたんだね。

「こうして生きていてもしんどいの。体のあちこちが痛いからね、早く楽になれるところに行きたいのよ」

彼女は言った。息が喘いでいた。

「そんな、伯母さん、そんな楽になれるところに行かなくても、私が楽にしてあげるよ、ここで」

そう言って、私はアメリカから持ち帰ったマッサージオイルを出し、彼女にマッサージをした。ベッドに寝てもらい、まずは顔から。

「ああ気持ちがいい。琴子ちゃんは上手だね。この顔じゃ、アイロンかけても、しわ取れんよねー」

「私のこのマジック指で取ってさしあげましょう、ホラッ」私はマッサージを続けた。

伯母は笑った。私は、手、腕、足と、オイルを使い彼女の体をもんであげた。「手当て」といって、暖かい人の手にはヒーリング、癒しの効果があるんだそうだ。

水のようにひんやりしていた足がポカポカになり、伯母は眠いと言ったので、私は毛布と布団をかけてあげて、去ることにした。

「本当にありがとうね」

「伯母さん、また来るね」

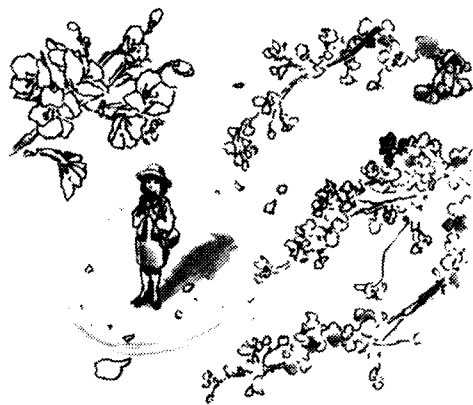
そう言って、ベッドに横たわる伯母を後にした。伯母が弱ってきており、先があまり長くないのは私にはわかっていた。

以前、隣人でとても親しくしていたベティが亡くなる前の状態を、伯母が追っていたからだ。食欲がない。息が苦しい。体のあちこちにすごい痛みがあるなど、あと数か月の命だと私にはわかっていた。

私は新学期の始まるアメリカに帰った。通常毎年五月に日本に帰るのだが、この世でもう一度伯母さんに会いたいと思い、春休みに日本に帰るようチケットを取ったのだった。

しかし、伯母はバレンタインデーに亡くなってしまった。まるで坂をころがるようにこの世を去ってしまった。

昔のTVコマーシャルに、上から読んでも山本山、下から読んでも山本山というのがあった。伯母の命日は西暦で二・一四・二（二月十四日、一千二年）、平成で一四・二・一四（平成十四年二月十四日）と、山本山式で忘れ難い日になった。冗談が好きだった、明る



く朗らかな伯母らしい命日である。

私は最愛の伯母を亡くして悲しかった。もう日本に帰っても二度と会えないのだ。飛行機の切符、手元にあるのに……。

せっかく買った切符だから、私は家に帰った。今年、なんと桜が三月なのに早くも咲いていた。私には、

二十二年ぶりに見る桜である。最後に見たのは一九八〇年、大学を卒業し、アメリカの大学院に入学する二か月前だった。

人の記憶はセレクトタイプ、自分の都合のいいことだけ覚えていてるそうだが、私は桜の花に香りがいいことに初めて気づいたのだった。私が桜のにおいと覚えていたのは、花よりだんご、桜餅のにおいだった。

伯母はこの桜の花を見ず、おいしい桜餅も食わずに死んでいったのかと思うと、悲しかった。私が日本に帰ってきてるのに、いない。

実家の近くに地蔵川という川があり、その両側の堤防に古い桜の木が何本も植わっているところがある。私は一人で堤防に行った。桜の木の下には菜の花が咲いていた。足元から見ると、土の茶色、菜の花の葉の黄緑、そして花の明るい黄色。少し見上げると満開の桜の薄ピンク、そして空の青、雲の白。このいろいろな植物のいろいろな色がずっと続いていた。私は、なんだか心がウキウキしてしまった。本当に、とっても綺麗だったんだもの。「二十二年ぶりの極楽じゃ」、そう思ったときに、伯母のことがふと頭に浮かんだ。「伯母さんも極楽いったんだね」と。涙が出た。そのときである。私が伯母の声を聞いたような気がしたのは。

「私はもうこの世にいないけど、せっかく琴子ちゃ



んがアメリカから来るっていうから、今年は一週間早く桜が咲くようにしてあげたのよ。私からのプレゼント」

そうか、伯母さんはいないけど、二十二年ぶりで見る桜は、伯母さんから私へのプレゼントだったんだ。けなげに咲いている桜がいとおしかった。

それにしても、日本全国の桜が最愛の伯母を亡くした私のために咲いていると思う、わが心。ちよつと驕つてるように思えたのね。そんなことないか、と、思つて堤防を降り、住宅地の中を歩き始めた。

道路を渡るために、ふと立ち止まり、そこにあったお家の表札を見たとき、その妻の名前が私の伯母と同じ字の同じ名前であることに気がついた。そこのお宅の前を通るのも初めてだったし、表札を見るのも初めてのことだった。伯母の名前は、どこにでもある名前ではないので、なんだか偶然と思われるにはもったいないような気がした。

あれは伯母からのお示し、サインだったんだー。私はそう思うことにした。

遠くに住む伯母の娘で私のいとこに電話をして、そのことを伝えた。彼女は感激した。

四月一日、明日からまた大学での講義が再開される。また時間に追われる忙しい日々が戻ってくる。私は春休みに日本に帰り、桜を見たことで、心の洗濯をした

ようなすがすがしい気持ちでいる。また学生たちをかわいがつてあげよう、かつて私の伯母が私にしてくれたように。

伯母は三次元というレベルにはもう存在しないのだが、今でも優しく微笑んで私を見守ってくれているような気がする。明日から、仕事がんばろつと！「はらはらと散る桜に伯母を見る」

## 嵯峨の虚空蔵さま

こくぞう

大阪市城東区 布施幸子（69歳）

私の十三まいりは、終戦の年の三月だった。京都の嵯峨国民学校卒業を前に、六年生全員が詣つた。修学旅行の代わりであった。防空ずきん、モンペばきの決戦スタイルで、学校から半時間ほどの道のりを、空襲警報のサイレンを気づかいながら歩いた。

「サガのkokozōさん」と親しまれる法輪寺は、嵐山の中腹にあつて、十三歳になった少年少女がお詣りすると、虚空のごとき大量の知恵を授けてくださることになっている。

「けど、帰りにふりむいたらあかんえ。もろた知恵み

「んな落としてしまふさかい」といわれていて、神妙にまっすぐ前をみて帰ったのを覚えてる。が、拝んだはずの虚空蔵さまはどんなお姿だったか全く記憶になくて、

「うわのそらだったに違いない」と、先日あらためて拝観に出かけた。

ところがご本尊は秘仏であり、長年ご開帳のないことがご住職の話でわかった。記憶にないはずやわ、と何やら安心した。

お姿は隠しておられるが、虚空蔵さまはお見通しで、十三まいりにかぎらず、誰がいつ拜んでも知恵をくださる。知恵に乏しい人は拝み方が足りないのだとご住職はうまいことをおっしゃった。

昔から聖、僧侶の祈願も多かったそうで、今昔物語にもご利益の話が出ている。

——むかし、比叡山で学ぶ青年僧がいた。頭はよいのだが気が散りやすく、とくに女性に弱いのが玉にキズ。そのキズを治してほしいと法輪寺に詣っては「勉強に集中できますように」と祈っていた。

その日もお詣りをすませてすぐ帰るつもりだったが、知り合いの僧としゃべったり、美人の参詣者に見とれているうち思わぬ時間がたってしまった。急いで帰りかけたが、道のりの五分の一も行かぬ西の京で日が暮れてきた。とても山まで帰れそうもない。僧は困

ってその辺を見回すと、灯りのついた立派な家がある。門の前にお手伝いさんが現れたので宿を乞うと快く承知してくれたからホッとした。だが家の中に入り、その家の主人が若い絶世の美女とわかったとたん、ホッとした心がたちまち乱れてきたのである。

「この人と結婚しなければ生まれてきたかいがない」今しがた法輪寺詣でをしたことなどあつさり忘れて僧はずうずうしくも美女にプロポーズした。

すると美女は、一つだけ条件を叶えてくれたらOKしてもよろし、と言うではないか。

「あなたは法華経がすらすらと読めますか。条件というのはそれです」

勉強不足で半分も経が読めない僧は、仕方なく明るる朝お山へ戻り毎日、一心不乱に法華経を暗記した。人が違ったほどの励みようだった。

まもなくお経読破に成功した僧は急いで山をおり、法輪寺へ詣って虚空蔵さまに勉強中止、婿入り実行の報告をした。そして、飛ぶように西の京へ向かった。

「さすがに秀才ですこと」

美女は大いにほめたが、

「ではもう一步、並の僧でない『学僧』になつて下さい。学僧のお嫁さんになりとうございます」  
とにつこりした。

僧はがっかりしたが仕方がない。再び山へ戻り昼夜

を問わず勉強した。ふつうなら五年かかるところを二年で学僧になったのだから大したものである。ついにもう一年がんばって優等賞をもらった。これなら文句の出しようもあるまい。

僧は山をかけおり法輪寺へとまっしぐら。学僧賞受賞と縁結びのお札をのべ、今度こそスイートホームとなる西の京の彼女の家へと飛んでいった。



ますます美しい彼女は心から僧をほめ、お茶やお菓子をすすめながら、

「ではちょっとテストをしてみましょう」

と学校の先生のような口ぶりになった。そうして突っ込んだ質問を次々とするので僧は、

「なんというむづかしい趣味を持つ女性だろう。でもこんなに賢くて美しくて、その上お金持ちの妻を持っているとは幸せだ」と胸をときめかせながら全問正解にこぎつけた。

ところがテストがすむと疲れがどつと出て眠くてたまらなくなってしまう。立派な夜具に美女とともに横たわるやたちまちぐっすりと眠りこんだ。

ふっと目がさめて僧は仰天した。美女も屋敷も消えていて、あたりは草ぼうぼう、ススキを抱いて寝ていたのである。起きあがってみると嵯峨野の野原らしく西のほうに法輪寺の屋根が見える。ゆうべ脱いだ衣は、枯れ草の上にほったらかしになっている。なさげなくて僧は泣きだしてしまった――。

これは、虚空蔵さまのはかりごとだった。勉強のうちこみだいという僧の願いを叶えてやりたいと思われたが、いかに神だのみ仏だのみをしたところで、つまりは本人次第である。思案のすえ、みずから美女に変身して僧のやる気を引き出されたのだ。「私は虚空蔵さまに失恋したのか」と悟った僧は、後に比叡山第一の

名僧になったそうなの。

「私をたのむ人が、まさに命の終わろうとする一期にあたって、病のため目も見えず耳もきこえず仏を念ずることができなくなったならば、私がそばにつきそい共に念仏を唱えてあげる」

とお経の中に仰せられているとか、虚空蔵さまのお導きはとおりいっぺんではない。

僧の美女好みの欠点を逆に活用なさったお手並みはさすがで、茶目っ気がありになるのも楽しい。ま、茶目っ気が少々過ぎるように思えなくてもいいけれども。

……どちらが

気に入りましたか

東京都東久留米市 森 みどり

若いころチューリヒに前後三年暮らしたというだけの理由から、またスイスに行くということになったときは、もちろんチューリヒに住みたいと思いました。ところが、主人がバーゼルに住む留学時代の友人に連絡を取ったところ「それならバーゼル大学にいらつしやい」ということになり、住まいも大学の宿舎に入れ

ていただけになりました。

バーゼルはチューリヒから列車で一時間ほど、ドイツ、フランスに接する国境の街です。悠々と街の中央を流れるライン川、そのライン川に影を映す色彩豊かなミュンスター（大聖堂）、中世の面影を色濃く残す家並み、エラスムスやホルバインも歩んだであろう石畳の道……どこも長い歴史に育まれた趣があります。

ここに住むようになった私はすぐにバーゼルに魅せられてしまいました。そして暇さえあればあちこちと街を散歩して歩くようになりました。そんな中である日偶然親しくなった老婦人に、私がずっと以前チューリヒに暮らしていたことがあると話すと「バーゼルとチューリヒ、どちらが気に入りましたか」との質問を受けました。

私は一瞬たじろぎました。というのも、そのときまで考えたこともない問いだったからです。この老婦人が「もちろんバーゼルです」という答えを得たいのだということは、私のわずかな滞在経験からでもすぐにはわかりました。

バーゼルの人たちの郷土愛は格別です。「バーゼルは文化、芸術の香りが高い街」を旗印に、市民は一致団結してチューリヒと張り合っている感があります。確かに市立美術館はかの有名なホルバインのルター像、エラスムス像をはじめとして、レンブラント、セザン

ヌ、ピカソ、クレーなど、あらゆる時代の名画を多数所蔵していますし、他に現代美術館、歴史博物館もそれぞれに充実しています。先ごろには郊外に建物、展示物の両方を誇るバイヤーファウンデーション美術館がオープン、ここでの昨春の前衛芸術家ロスコ特別展にはヨーロッパじゅうから鑑賞者が訪れたといわれています。この文化、芸術を重んじる精神は偉大なる人文主義者エラスムスが、バーゼルに魅力を感じて訪ねてきた時代からずっと、何百年も引き継がれた筋金入りのものなのです。

一方のチューリヒは金融都市、観光都市としてその名を世界にとどろかせています。チューリヒ湖に臨む明るく、美しい街で、中央駅から湖まで伸びたバーンホフシュトラッセは銀行やヨーロッパの名店が軒を並べ、観光客が溢れていて活気があります。夏の一時期などは日本人観光客が右往左往し、さながら東京の銀座のようですが、この光景を見ますとバーゼルの人たちが、チューリヒの人たちを「お金儲けばかり熱心」と揶揄するわけもわかります。それに対してチューリヒは、芸術だけでは生きてはいけない、生活基盤が整わなければ……とバーゼルからの批判も、どこ吹く風と聞き流しているような感があります。

私に言わせればチューリヒにはチューリヒのよさ、バーゼルにはバーゼルのよさがあり、優劣はつけがた

いと思っています。けれども、どうもバーゼルの人々はそのも言っていないふしがあります。

バーゼル州がスイス連邦加盟五百年記念祭を行なったとき、その記念式典をミユンスターに見学に行き、隣に座っていたご夫婦と親しくなりました。話が弾むうち奥さんが「どこでドイツ語を習いましたか」と聞



## ただいまアメリカで失業中

カリフォルニア州ロサンゼルス

ヒヤシンス淳子（41歳）

いてきました。私は何も考えずに「若いときにチュウリヒで……」と言いました。するとその奥さんはウインクしながら「私たちはチュウリヒとこれなのよ」と右手の人差し指と左手の人差し指でバツテンをつくりました。ご主人まで乗り出してきて「そう、チュウリヒは金儲けばかりサ。そこへいくとバーゼルは芸術の街でネ……」と、バーゼル札讀をユーモアを交えながら語りだしたのでした。そしてお決まりの「バーゼルとチュウリヒ、どちらが気に入りましたか」という質問が私に向けられたのでした。

その後もなにかとこの質問を浴びせられました。その度に私は内心ニヤリとして「どちらも好きです。でもバーゼルのほうが少しいかしら……」と答えることにしていました。これはバーゼルに滞在させてもらっていることへの感謝の意を込めた答えのつもりでした。それに、実際のところバーゼルの街はすっかり私をとりこにしてみましたから。

夏も過ぎるころ、暑さと旅の疲れからダウンし、私は病院へ行く羽目に陥りました。ストレッチャーに寝せられ、国籍から病状、それにスイスと私のこれまでの関係などをそれはそれは詳しく尋ねられた後、医師から究極の質問を受けたのでした。

「バーゼルとチュウリヒ、どちらが気に入りましたか……」と。

「このままだと、会社はあと二、三か月しかもたないだろう。まず希望退職者を募ってから、リストラを行なう」

そんな内容のメモが配られたのは昨年九月ごろだった。

## 消えかかる邦字紙のともし火

ロサンゼルススの邦字新聞「羅府（らふ）新報」。来年で創刊百周年を迎えるアメリカ邦字新聞界の老舗も、時代の流れについていけず、ほかの邦字紙がひとつずつある。ちなみに、羅府とはロサンゼルスのことである。

戦前に移民した英語のわからない日本人にとって、「羅府」は貴重な情報源であった。ところが、英語がまるでだめという日本人がどれほどアメリカに移

民しているだろう。加えて、日本人への差別がなくなったとはいえないまでも、土地の購入を禁じるとか、アメリカに帰化できないなんていう、少なくとも二流市民扱いはなくなった。虐げられなくなった分、安全地帯だった日本人コミュニティの求心力は薄れる。と、同時に、日系社会の回覧板だった邦字新聞の役割もばやけていく。

さらに、読売、朝日といった日本の新聞の衛星版、そしてインターネットの普及、日本で編集経験のある若い人たちがはじめた日本語の無料雑誌の氾濫も「羅府離れ」に追い打ちをかけた。かつて三万人いたという購読者も、いまでは一万二、三千人を数えるほどに落ち込んだ。そのほとんどが、はるか昔にアメリカに移り住み、日系社会の土台を築いた一世パイオニアたちである。高齢化する読者。その死亡率と購読の減っていく率が比例する。

## これが縁の切れ目か

もうそろそろ潮時かな――

日本で働いたわずか二年のミニコミ誌経験をかわれ、記者で採用され八年が過ぎていた。その間、数十セント、日本円でいえば五十円ぐらいの賃上げがあり、辞めるときの時給は、九ドル六十セント。一ドル百円で

換算すると、九百六十円なり。日米問わず低賃金だ。

いっこうに上達しない英語も、背中をポンと押してくれた。八時間の就労時間はほぼ一〇〇パーセント日本語漬け。ハイチ生まれアメリカ育ちの夫とそろろじて英語で会話しているから、まるで話せないとはいわないが、「アメリカに住んで十五年になる」なんて、恥ずかしくて言えないお粗末な英語である。アメリカに二十年近く住んで、「How are you?」「I am fine. Thank you」程度の会話がやっとという、日本人と結婚した同僚たちも私の恐怖心を煽った。

と、いうわけで「いいきつかけだと思うから辞めて、フリーでやろうと思うんだけど」と夫に相談したら、「人生一度きりなんだから、思ったようにおやりなさい」と、あつさり。失業率五パーセントを上回る、不況のど真中に希望退職を願い出て、昨年、覚えやすいから十二月二十四日付で退社した。

## 失業保険が大きな味方

会社を救うため辞めるのだからその条件として、一時解雇（レイオフ）扱いにしてもらう。アメリカでは、自分で勝手に辞めた人には、失業保険給付はない。もらえるのは、レイオフされたときだけだ。さっそくカリフォルニア州の雇用開発局に申請して、今年一月か

ら失業保険をもらっている。

給付される額は、レイオフの一年前の稼ぎによって違う。ただし、どんなに高給取りでも、給付額の最高は一月千三百二十ドルまで。ラッキーなことに昨年は失業続きでいつもより稼ぎが多かったから、九百ド



ルもいただいている。いつもの年収だと、六百ドルのはずだった。

給付期間は二十六週間。それが、三月、連邦議会の法案通過でさらに十三週間延びた。これまでなら、どんなにえり好みしても二、三か月すれば次の仕事が見つかった。ところが、ニューヨークの同時テロ以来、「もうなんでもいいよ」と開き直って、六か月以上探してもまだ職にありつけない人があとをたたないからだ。三月三十日現在、全米で失業保険をもらっている人は四百六十万人。私もそのひとり。これだけ多いとなるとなく心強い。

かくして、フリーライターとして独立したわけだが、書く仕事の収入より失業保険の額がはるかに多い。でも、失業保険がもらえるこのチャンスを利用して、カレッジで五月からライブラリーテクニシヤンのコースに通う。図書館司書の下で働くポジションである。手に職をつけながら、ライターの収入が少しでも増えるよう、とにかくやるのみ。ただいま四十一歳。後ろをふりかえって後悔したり、将来に不安を抱く余裕などない。とにかく、Do my best で前進あるのみ。

ちなみに、羅府新報では、予想をはるかに上回る人が希望退職したためリストラなし。残った人が失業しながら新聞を出しているとのことでした。

(え・西宮さき)



銭湯の女神

星野博美 著

文藝春秋

二〇〇一年十二月十日第一刷発行

本体一五二四円＋税



東京都練馬区 井上暁子（42歳）

この本は写真家星野博美の三冊目のエッセイ集である。彼女は一九九七年の中国への返還をはさむ二年間を香港に暮らし日本に帰国したが、「まださちんと日本に復帰できていないような気がする。（略）香港という比較の対象が一つできたことで、自分の視点が一步後ろに下がり、これまで当然だと

思っていたことが当然だと思えなくなった」と語る。そんな視点から「燃えるゴミ」や「百円ショップ」や「癒し」や「ケイタイ」を見つめる作品集だ。

作者の日常生活は「アパート、ファミリーレストラン、銭湯の三地点の周遊生活」である。そして「ファミリーレストランへ行くと日本を憂い、銭湯へ行つては『日本も捨てたもんじゃない』と思う図式があるようで、ファミリーレストランでたまつたストレスや憂慮を銭湯で洗い流しているようなのだ」

その視線は静かで揺るぎがない。三十過ぎて独りで安アパートに住み銭湯へ通う暮らしを淡々と描き、しかも大いに笑わせてくれる。その視線の確かさは、鋳物の町工場を営み「鋳物というドアから、社会の仕組を見ている」

彼女の父親から受けつぎ、また母親から譲り受けたものも多分にあるだろう。家を出たいがこの収入では風呂付きの部屋が借りられない、家を出たい若者が一人暮らしをできない日本の物価は間違っている、とゴネる作者を母親は、「そんなに風呂に入りたかつたら、一生家にいて親のいうことを聞きなさい。風呂一つも我慢できない人間が偉そうな口をたたくんじゃないよ」とどなりつけた。

作者は最後に、アメリカによるアフガニスタン空爆について書く。自分だけでなく、遠くで暮らす他の人にも幸せで安全な暮らしを送る権利があるということを、世界が想像するのをやめようとしている、と。「想像する力を、私は武器にしたい」と記す作者である。

（え・栗田笑）

# 病氣上手の 死に下手

東京都青梅市 福島みさを (80歳)

## 巖の病氣

夫の巖が人生三回目の手術をして、快気祝いを持ってご挨拶に伺った折、

家族ぐるみお世話になっている先生から、

「おめでとう、よかったよかった、ガンさん（巖）のようなのは、病氣上手の死に下手と言うんだよな」とアッ

ハッハと笑われた。

褒められたのかけなされたのか分からないが、とにかく好意を持って喜んでくださったことに間違いない。

その先生も鬼籍に入られてしまっ



元気いっぱいころの夫・福島巖（昭和39年8月）

た。九死に一生を得た夫は、そのときから十九年後の現在、八十三歳になるが父森蔵の亡くなった年である。今では脊髓小脳変性症による体幹機能障害（二級）という「障害者手帳」をもらい「要介護二」である。二年前に大腿骨を骨折したが、こちらは順調に回復し、立って独り歩きはできないが、手摺りに掴まってトイレも洗面もできる。手先は、字も書けるし爪も切れる。食事も一人でできるので、あとは痴呆にならないように、二人で努力している。

「母さんがいなければ俺は生きていけない」なんて言っているかと思えば、「俺の目の黒いうちは絶対によつてくれるな」なんて今もかわらぬ亭主関白でもある。

夫は現役、召集と兵役五年余り務めたが、病氣一つせず健康で帰還した。家庭を持ち、仕事上幾つもの試験に耐え、子どもたちも成人しほつとした五十路、長年の苦勞、ストレスが溜まつたらしく、胃の不調を訴えた。近くの

開業医二軒、病院で検査したが「胃炎」で大したことはないとの診断であった。そのうち黄疸の兆候に気づき、最後につてを得て久我山病院に入院した。昭和四十四年のことであつた。

担当医の説明によると「十二指腸を取るだけでよいと思つたが、酸が非常に強いので胃液の出るのを少なくするため、胃の三分の一切り取る予定であつたが、やつているうちに、レントゲンに写らなかつたほかの場所がボロボロ破れて腸が出てくるようになり、そこも取つていたので時間がかかつた。もし気づかず縫合してしまつたら、その弱つた所に胆汁など集まり、圧力がかかりパンクするところであつた。胃も三分の二切除した」

術後三日目の夜本人が「大分楽になつたから、心配せず早く寝たほうがいいよ」と言う。部屋にもう一つベッドがあるので私はここに泊まり、渋谷にある会社へ通つていた。

九時、「あら、ゴムどうして取つてしまつたの」と言う看護婦の声に驚い

て目を覚ました。

「一時間前にガスが出たから取りました。先生がガスが出たら取れるとおつしやいました」と言う。口から胃へ入れているゴムで、先生以外誰も抜くことのできないゴムを自分で抜いてしまつたのだ。いくら苦しくて嫌なことでも勝手に抜いてしまうなんて、私が側についていながら、どうしてよいかわからなかつた。私を計略にかけて！ もう騙されないぞ、明日から厳しくしてやるからと思つた。

外科のほうの結果は一応成功したように見えたが、退院後後遺症が出た。夕食後、たいいてい夜中の一時ごろになると吐くことが多かつた。少しの油脂にも反応し、精神的にいらいらの後も必ず吐いた。医師に相談しても治療の方法はないとのこと。夜中の十二時か一時ごろ決まつてトイレに行き、腸のほうまで下がつたものが逆流するのだから、本人の苦しみは一通りではなく、冷や汗たらたら寝間着はびつしより、その都度背中をさすり介護する身も容

易ではなかった。こんなことが一生続くのかと、命は助かったものの不安は続いていた。ことに寒中三十分もこんなことに関わっていると、身も心も冷え切ってしまう。

これが十三年後、腸閉塞で腸を一メートル八十センチ切除するまで続いた。食事まで胃が小さくなってしまったので、柔らかいものを少しずつ何回にも分けて取り、じよじよに量を増やし、普通食になるまでどれほどかかったことだろうか。忘れてしまったけれど、こんな状態でも昼間はなんともないもので、仕事には行っていた。

## 胆嚢炎で入院

十三年後の昭和五十七年十二月十日過ぎ、夫は急に痛みを訴え診療所で診てもらったところ「胆嚢炎」と診断され「頓服」をもらって帰宅した。その夜苦しみ出し、ひっきりなしに押さえたりさすったりして、夜の明けるのを待った。

青梅総合病院に行き、検査を受けた。

「痛くなったら頓服を飲むように、三日後に来るように」と言われ三時半に帰宅した。その夜七時過ぎ我慢できず頓服を飲んだ。夜中一時半再び頓服を飲むも受けつけず、苦しみどおしで夜を明かした。

翌朝五時、病院に電話をする。

「順番を取る人は来始めているが、番を取らなくても一番に診てあげますから、九時に来るように」と当番の看護婦さんが言ってくれた。章博（長男）が国分寺から七時に来てくれた。十時に総合病院に入院。ICUに入る。

十五日 午前十時から午後五時まで終日点滴。

十六日 十七日 絶食、点滴。

十八日 朝点滴、昼流動食。

部屋が空いたので二階の四一二号室へベッドのまま移る。これより九日間レントゲン、透視、胃カメラと検査が続く。入浴。

二十六日 手術に備え処置室へ行く。

く。

二十七日 一時半、手術室に入る。

二時間後、「無石胆嚢炎で石はなく、潰瘍ができていた」と胆嚢の取ったものを見せられた。ICUで面会、意識は朦朧としているが苦しそうに見える。た。

二十八日 四一六号室へ。「結果良好」の由、傷が痛むらしい。全然動けない。腰が痛いと言う。背中の下に手を入れると楽らしい。

点滴四本、五本目は小さいので早く終わった。「吐き気がする」と言ったら、鼻からの管をブカブカしてくれた、おかげで吐き気も治まった。

二十九日 点滴は昨日と同じ。隣の方が「痛くても自分で体を動かすと早くガスが出て、管も取れて楽になるよ」と教えてくれた。

三十日 回診の折、鼻の管を抜いてもらう。本人も私もはつとする。

大晦日 水を吸い飲み三杯、二十四時間に飲んでよろしい。番茶でもよい。

南側の窓ぎわにベッドを移す。同室の二人は外泊なので今のところ二人である。髭を剃る。

「点滴が取れたら歩いてみるように、

腰がふらふらするから気をつけて」と言われた。

昭和五十八年元旦 晴れ、風なし。  
山川先生の回診あり。「明日は抗生



物質の小さい点滴二本朝夕だけで、五分粥になる」午後歩行練習、ベッドの周りを掴まって半回りやつと歩く。

「トイレまで歩きなさい。明日と言わず今日やらせます」と看護婦にハッパをかけられた。最初スリッパを履いて部屋から出るまで辛そうだった。私は甘やかしてはいけなさと自分に言い聞かせ、そつと後ろからついて行く。

二日 トイレに行けるようになった。朝、五分粥、白菜味噌汁、里芋、人参。昼、五分粥、スパゲティ、福神漬、マカロニサラダ、ふと菜の味噌汁。夕、鯖焼魚、人参大根味噌汁。

三日 回診、二分の一抜糸。

五日 二回目の抜糸、三食全粥になる。今日六日目でコロコロの便が出た。

六日 異常なし。毎日見舞い客あり、疲れた。

十二日 回診。「膿が出なくなれば退院ですね」と言われた。

十四日 手術後十九日。腰がふらつくが他に悪い所なし。ガーゼが汚れなくなればいいのだが、炎症がひどかつ

たので、少し日がかかりそう。

二十一日 便秘に苦しむ。

二十五日 今日からご飯になる。

二月一日 入院五十日。先生が「よく頑張ったね」とおっしゃった。「ただ待つのみ、希望を持って」と。

三日 節分。

四日 立春。食事が旨いと食べ過ぎて、三回も吐いたりトイレに行く羽目になった。

十日 山川先生回診。ガーゼの詰め替えはないが、消毒しながら「外部があと少しだな」と言われた。

十二日 傷口がバンソーコーだけに。なる。「そろそろ退院だね、十五日でもいいよ」とお許しが出た。外科部長先生は私に、「さてこれからが問題だ、これで全快というわけではない」と言われた。私はその意味が分からなかった。「ガンの疑いがあるのか」と山川先生に検査を依頼したが、結果は「疑いなし」であった。次の入院のときやつとその意味が分かった。

十三日 「今日は食事が旨かった。

今夜からあと四食食べれば退院だ。そう思うだけで元気が出てきた。あるだけのものを食べきって退院だ」と夫はうきうきしている。

十五日 退院の日。やつと家に帰ることができた。長い病院生活であった。先生、看護婦さんほか多くの方々のおかげで、退院できることを感謝しお礼の挨拶を済ませる。外科病棟は消毒のため、二階に下り、空いているソファーにかけて、二時間余り待つ。三時、栄養、胆嚢食指導の先生二人と、こちらも二人向き合ってお勉強。

「正しい食事療法を行なうために、脾臓病の食事」という印刷物を読みながらの説明である。ただでさえ病院食に飽き飽きしているところへ、もう見るのも嫌なおかずでは拒食症になり、栄養失調にもなりかねない。家に帰ってゆっくり考えることに決めた。

四時、迎えの車が待っていた。家に着くと親戚の方々が賑やかに迎えてくれた。私は明日からの食事のことを考えるだけで気が重い。毎日書き止めて

おいたメニューを参考に、五回の食事に挑戦しなければならない。

## 腸閉塞で再入院

ところが退院後わずか二か月で大変なことになった。

昭和五十八年四月二十日（水曜日）曇り。

夫はお弁当を持って機嫌よく会社へ行った。昼に早退帰宅した。「吐きそうだ」と言うので洗面器を用意する。

五時から夜中まで何度となく数え切れないほど、トイレに行ったり吐いたりした。退院してからときどき吐くことはあっても、こんなにひどくはなかった。

二十一日 午前四時から七時まで知らぬ間に二人とも眠った。この間吐くことはなかった。十時、野菜スープを作ったので「なにかあがりますか」と聞きに行くと、「いらない、上に出るか下に出るか分からないがトイレに行く」と言う。二度ついて行ったがどち

らも出ない。

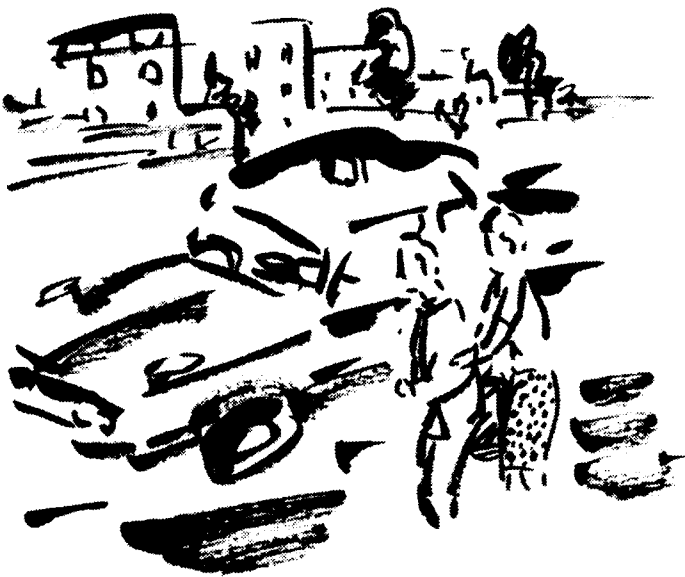
「みぞおちが痛い、押さえてくれ」と言う。少し押さえていたが急に苦しみだしたのですぐ病院へ行く決心をした。病院へ電話で容態を知らせ、タクシーを呼ぶ。「十分後来てください、支度して出ていますから」と言ってから、寝間着、タオル、ティッシュ、腹帯だけ持って車を待つ。

「手を貸してください」と言うと、運転手は「おんぶしましょう」と言っておんぶして車に乗せてくれた。

車の中でも横になったり、起きてみたり、少しもじっとしてられない。七転八倒とはこのことかと思った。私は押さえる手を休めることなく「どうぞ吐きませんように、少しでも早く病院に着きますように」祈った。

「頑張つて、あと少しだから」と励ましながらや々と病院の玄関に着いた。

私は夢中で診察券を持って走った。後から夫は背負われて入ってきた。運転手さんに心付けを渡し厚くお礼を言



った。

「ベッド、ベッド、どこかありませんか」

人目もはばからず私は大声で叫んだ。

看護婦さんは電話で承知していたので、すぐ先生を呼んでくれた。痛み止めの注射を打ち、ストレッチャードでレントゲン室へ行く。

十一時、入院手続きを済ませ、ICUに入る。窓際のベッドで助かった。痛みと吐き気で大変な苦しみ。ここでもすぐ痛み止めを打ったがいつこうに効き目がない。いつときも休まず押さえているので私も疲れた。

「腸閉塞は一刻を争う」と話には聞いていたが何とかならないものかしら。

一時五分、主治医の山川先生が見えたときは「地獄に仏」という心境であった。

再び痛み止めの処置を指示された。浣腸をしてほしいと言ったが看護婦に「二日くらいの便秘では駄目」と断ら

れた。

三時、外科病棟四〇三号室に移る。この間七転八倒であった。

四時半、血圧測定に見えた。何度も何度も上げ下げして見たが、読めないと言つて先生を迎えにいった。

「大分下がっていますね」とだけ言つていくつとは言わなかった。

「先生、切ってください」と夫は何度も頼んだ。

「前の手術をしてから間がないので、私も切りたくないし、福島さんもやりたくないでしょう」と言われた。

「先生、今晚家内泊まってもいいでしょうか」

とせつくように聞く。

「心細いですか」

「先生！ 願ひです、切ってください」。本人は切実の願ひであつた。

「それでは帰つても心配ないようにしましょう」と先生は注射を指示された。

今度は効いたらしく十分くらい経つて落ち着いて、眠つているように見え

たが、左の目が少し開いていて、白眼のようで少し変だと思つたが先生には言えなかった。ときどき大きく呼吸するときもあった。

六時、章博たちが来てしばらくようすを見ていたが、もう一度荷物を持つて来なくてはならないので、沢井へ行くことにした。部屋を出たとき、四歳の千紗（長男の娘）は「おじいちゃん、変な眼をしてた」と言つた。

後から聞いたことだが、夫はそのころ三途の川を渡りそうだったらしい。大人が口に出せないことを子どもは言うのだ。天真爛漫とはこのことである。帰るときナースステーションに寄り、「一度帰つてまた来ます。眼が離せないでときどき見てください」とお願いしてエレベーターで階下に降りた。

家の敷居を跨ぐと私の顔を見るなり旦江（章博の妻）が「病院からすぐ来るように」と電話があつたと言う。私は非常持ち出しの箱から一式を鞆に詰め、洗面器と紙おむつを持つのに五分





とはかからなかった。保険証を持ち車に乗る。旦江たちも帰りかけたが、どんな状態か分からないので、おばあさんと留守を守ってもらうことにする。

車の中で「どうぞ個室に行ってくださいように」と祈った。部屋に行ってみるとガラーンと空いていた。ああやっぱりと思う。医務室に行くと先生が、「血圧が大分下がってしまったので来ていただきました。命にどうというほどのことはないが、状態はよくないのです」と。そして昨日からのことを詳細に説明された。

四一六号室に入る。呼吸が苦しそう。点滴二本と酸素吸入をし、上下二本管が入っている。血圧を上げるらしい。先生の指示で次々と注射をしている。夫の弟に電話で知らせ、稔（次男）と幸代（長女）に連絡を取る。

「山川先生が来てくださるわよ、福島さん」と看護婦が教えてくれた。帰宅の途中を呼び戻してくださったようだ。ああよかった。天の助けと思う。

山川先生が入ってこられた。もう一

人の医師が見え三人立ち会いで「血圧が上がり次第手術」と決まった。

「手術します、しかし危険が伴います」

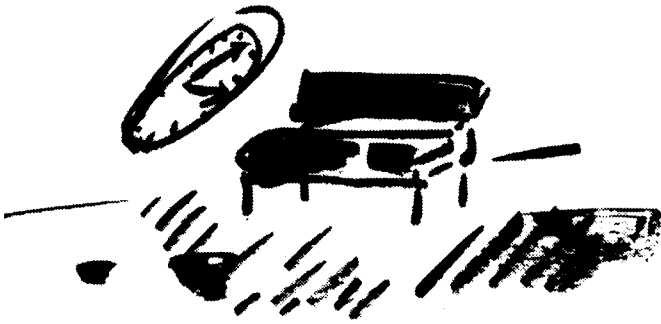
「どうぞお願いします、手術してください。早ければ明日早々にもですか？」

「いいえ、すぐ始めます」

もう一刻の猶予もなかった。看護婦が剃毛を始めた。気がついて見ると点滴が四つも下がっている。首にも繋がっている。運を天に任せるほかない、できる限りのことはしたのだから。寝間着を鉢で切り開き、手術着に替えた。ストレッチャーに移すとき、三人がベッドに上がり、章博が足を持ち四人がかりである。今までは上向きに寝ていられなかったのに、今はもうのびたという感じ。

九時三十分、手術室に入る。

稔も幸代も幼子を預けて夫婦揃って渋谷と八王子から駆けつけてくれた。夫の弟妹も見舞いに来てくれた。十人もの顔が揃った。こんなとき薄暗い廊



下の長椅子で二人くらいで深夜長時間待つとしたら、どんなにか心細いことだろうと思った。

私は朝食を取った後水も飲んでいなかった。今後どのようなことが起ころうとも、絶対しっかりしていなければならぬ。さつき持ち帰ったお弁当を食べようと思った。章博がお茶と弁当を取って来てくれたので二人で食べた。

「手術中にこんな所で弁当食べるなんて強い人だ」と章博が独り言を言っていた。

一時間はわりに早く過ぎた。稔がジョア、ビスケット、あんパンを買ってきたが皆あまり手を出さなかった。ゴトンと音がしても見にいったり、ときどき覗いてみたりしたが、ただこうこうと明るいだけで、物音一つしない。

十二時三十分、手術終了。

ちょうど三時間。ベッドが出てきた、がそのままICUに入ってしまった。助かったのだ。

しばらくして「福島さん」と呼ば

れ章博、稔と三人で手術室に入った。四十センチ以上あるかと思われる大きな楕円形の盆（宴会用のオードブルの皿のような）に直径五センチもある太いレバーのような色をした腸がうず高く盛られ、下に鮮血がある。うわーと思った。気の弱い人なら貧血を起こすか、卒倒するところだろう。私は全く冷静であった。少なくとも非情の人間かと自分で思うくらい落ち着いていた。

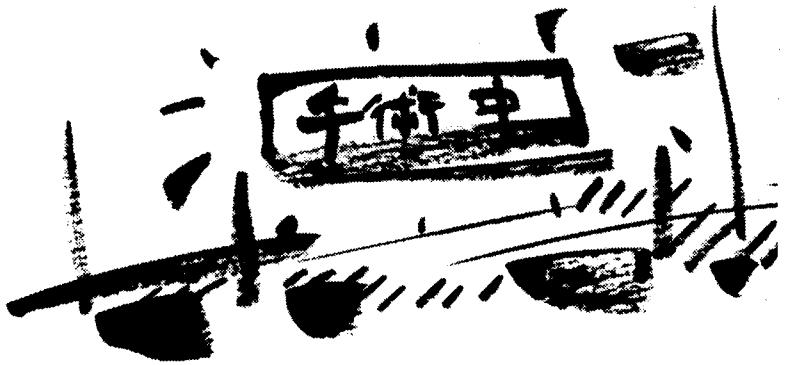
「有り難うございました。命拾いをさせていただきました」私は深々と頭を下げお礼を言った。

「一メートル八十取りました。小腸です。あと二メートルくらい残っていますが、これでよいということではありません。栄養を摂取する所が半分になったのですから」

「短くなったら便秘にはならないでしょうか」

「それもいきません」

とにかく命を拾った、助かったのだ。手術は成功した。先生に心から感謝を



捧げた。

激痛を訴えてから一時間後には入院して、手当を受け始め、その日の夜、開腹執刀の時まで、十三時間の間に、生きている人間の腹の中で、腸が一・八メートルも腐っていくのを、現実を目の当たりに見て、全くなんとも言いようのない気持ちであった。

一刻を争うといわれている重症も、医学の進歩した現在でもやはり止めることはできなかった。幸いその夜のうちに手術できたからいいようなものの、「明日」などと言っていたら一巻の終わりになるところだった。

二十二日 午前二時十分。

私たちはようやくICUに入ることができた。章博と私は白衣とマスクをして奥のほうのベッドへ行った。酸素吸入のマスクをして眼はパッチリしていて安心した。ほかに重症患者がいたためとか、ずいぶん待たされたが、時間が経っていたのでかえってよかった。意識もはっきりしていた。「面会者は二人だけ」と看護婦に言われたので、

親戚の方には訳を話しお礼を言ってお引き取り願ひ、私たちも帰ることにした。

二十三日

早く行ってもまだICUにいるのだらうと三時に四階に來た。驚いたことに午前中に部屋に戻っていたという。

「ああ俺は生きていたと思った。身動きができない。点滴の管、下のほうも管が繋がっていて身動きできないが、そんな苦痛も生きている喜びに比べれば、物の数ではない」と言う。

二十五日

毎日点滴で明け暮れ、前日の分が翌日午前一時に終わり、六時半には今日の分が始まる。

「七日から十日は要注意、お小水の管は取れたがガスはまだ出ない」

二十六日

点滴と袋を持って歩かされた。点滴六本だったのが七本に増えた。

二十七日

回診。管が抜けた。着替えして髭剃りし、ドアまで一人で歩いた。水分四

五〇cc飲んでよいと許可が出た。

二十八日 流動食になる。トイレに行く。

二十九日 抜糸。「危険はない、順調」

三十日 点滴全くなし。五分粥になる。

五月一日 ガーゼもバンソーコーも取れ、腹帯だけになる。入浴も可。

八日 食事が来ても全く手をつけない、命を拾ったのだからとは思いいながら、これから先のことかと思いやられ、気が遠くなりそう。

十四日 せっかくご飯になったというのに、食欲全くなし。この分では退院できないよ。

十九日 もう三週間にもなるのに、病院の食事は食べないので、そばをゆでて持って行き、二人でつるつる食べ、ご飯はゴロ（犬）のためにもらってくる。

いよいよ明日は退院だ。

二十日 十時半、入浴して着替えていた。山川先生から今後の養生につい

てお話があり、「もう普段の生活をしてよろしい」と言われた。外科のナースステーションに挨拶に行く。顔なじみになるほど長くお世話になった。若い看護婦が「福島さん、もう来ては駄目よ」と励ましてくれた。

以前から「どうせ死ぬのなら旨い物、食いたい物を食ってやる」と居直っていたが、今日この期に及んで、家に帰る途中市内の「金時」で鰻重を食べると本気で言っている。言いだしたら聞かないのは分かっているが、それにしても無茶を通り越している。タクシーで「金時」へ行く。「鰻重の上」を注文し一人前全部平らげた。あれほど食事を拒否していた人が！ 大丈夫かしら？ 奇跡というほかない。

心配をよそに何事もなく家に着いた。いちばんほっとしたのは私だと思う。一か月ぶりに玄関に入るなり「線香臭い」と言う。実感ではある。息子たちもそう言うから。それはおばあさんが毎朝何本も線香を上げ、ご先祖様にお経を上げているのだから。この度

「九死に一生を得る」ことができたのも皆そのおかげさまでしように。

夕飯はいらないと言いながら、ぶりの照焼を美味しいと食べた。吐かないのが不思議だ。

二十一日 退院後初めての朝。

栄養の先生の説明からすると、「豆乳」でも作るほかないと思った。新たに買い求めたジューサーミキサーで豆乳を作った。一口飲んで「こんなまずいもの飲めるか」と怒鳴られた。せっかく作ったのに、涙があふれた。向こうもやっと自由に振る舞うことができたくもしいないが、私だって今まで涙なんか我慢してきたのに。次に「だんごが食べたい」と言う。固くなつてはいけないとわざわざ白玉粉を混ぜて、柔らかく作ると、「米の粉だけの田舎のだんごでしょっぱいのがいい」と言う。

生きて帰って来られたのだから、しばらくは言いなりにしてあげようと心に決めた。この時から私は三度三度その都度、食べたいと言うものを少しず

つこしらえた。医師から禁止されているものでも、かまわず作って食べさせた。(油脂類は駄目、少しでも入れるとすぐ吐くのだが、本人がいいというので食べさせていた)

パン教室に通い食パンを焼き、うどん、そばも手打ちで、とにかく一日五回の食事、一回の量といえ茶飲み茶碗に一杯やつと、それをあせらず、ゆつくりと少しずつ量を増やし、二年かけては普通の量、並みのメニューに辿り着いた。

腸を一・八メートル切除ということ は生きられる限界で、たいてい栄養失調で亡くなるそうである。退院してみ て、ご一緒だった多くの方がその後亡くなられたと聞いた。

多くの方々と家族の愛情に支えられ、その後十九年も生きることができて、八十三歳を迎え、てんぷらもステーキも平気で食べられるなんて、感謝感激である。

(写真提供・筆者)  
(え・カステラネンコ)

● 病氣上手の死に下手

### ★わいふバックナンバー

(特集テーマ)

269号 再就職で得た仕事、得られなかった仕事

272号 カウンセリング体験

273号 子どもとテレビ

274号 引越越し騒動

275号 料理と私

277号 不妊治療・私の場合

278号 「おけいこごと」との格闘

279号 あなたの夫は何番目の男?

281号 思い出の地・再訪

283号 私の読書歴

285号 美容と私

286号 私の健康法

288号 車と私

293号 特集なし

294号 夫婦げんか

295号 わが家の犬物語

シリーズ最後の巻だし

お年寄りが安全に暮らすために

変わる主婦・変わらない主婦

一五〇〇円  
一五〇〇円

お申し込みは〇三—三三六〇—四七七—

あ  
なたへ

ス  
マッシュ

## 部活今昔、にしひがし

東京都世田谷区 後藤 晶 (43歳)

二九五号の「私の意見・あなたの意見」に、神奈川県の中学校部活動の練習量と先生の指導についての投稿があった。

私の子どもの通う世田谷区立中学校の部活動の練習は、運動部も文化部も週三日くらい。担当教師がついていないと活動できないので、先生が会議のときなどは休みになる。休

日は、試合やその直前以外は練習がない。自分の経験（吹奏楽部）と比べると、ものすごく活動量が少ないのでびっくりした。

たとえば昔は、先生なしで自由に練習していた。毎日夕方まで、夏休みもほとんど一日じゅう部室にいた。校庭も広がったのか、運動部の声にもぎやかだったつけ。曜日を決めなくても、活動の場所があつて、自由にできた。

今、子どもの中学では、一学年三クラス、常勤の先生が全部で二十人ほどなので、部を指導できる教師がつねにいるとは限らない。校庭や体

育館も運動部が交代で行なう状況だ。先日もある部の存続を巡って保護者が、「ぜひ続けて欲しい。外部団体に月謝を払って行かせることもできるとはいえ、学校という地域での活動の場は子どもに必要なだ」と訴えていた。

勝負至上主義の厳しい部活動は望めないが、毎日通う学校に活動の場があると安心だと私も思う。

埼玉に住む友だちの「公立中は部活動の練習量が多すぎるので、私立に行かせる」という言葉を思い出した。公立もところ変われば違うものだ。

教師の指導については、からだと言葉の暴力は、許しがたいと思う。息子は先生の怒り方がイヤだと言つて、入っていた部を一年でやめた。「親の前と子どもの前では態度が違う」とか「なんでも連帯責任にする」と言うので私もしかたないと思った。先生の言動が気にならないほどその

部の活動が好きの子もいるし、いろいろな人との付き合いも必要かもしれないが。

いくら強くなるためとはいえ、異常なしごきはおかしいし、コーチの強制わいせつまであるのだから、保護者も生徒も冷静に判断すべきだ。

部活動での苦勞と喜びの経験、仲間と共有する生き生きとした十代の時間をぜひわが子にも味わわせたい。本人の意見を尊重し、保護者もつねに見守りたい。

## 幸せの基準は 人それぞれ

奈良県生駒郡 高松恭子（50歳）

二九五号「フリートーク」の鳥初美様の文を読み、結婚していない人、子どもがいない人、一人暮らしをしている高齢者を気遣っておられるこ

とにとってもやさしい配慮を感じました。

しかしその反面、そういう方々は寂しいとか気の毒というふうに見える。いらつしやるのではないのでしょうか。

恋愛結婚した一人娘を手放した叔母様は、お孫さんが相手のお母様と写っている写真を見てショックでしょう。か？ よほど子離れしていない方ならともかく、娘も幸せにやっているな……と案外ホッとされているかもしれません。

「結婚した娘を持つ私は寂しく思う」と書いておられますが、親なんてみな哀しい存在です。子どもにしてやれることを精一杯してやり見返りは何も求めない。子どもが幸せなことが親にもいちばんの幸せなのではないでしょうか（だから私は親が好き）。おばあちゃんの椅子なんて鳥様が考えておられるほど座り心地のよいものではなく、窮屈なものかもしれません。そんな用意された椅子に座

るより自由に気楽に一人で住まわれるほうがずっといいですよ。

幸せの基準は人それぞれだと思います。

ところで家族写真の年賀状はよくいただきます。鳥様がおっしゃるように出す相手によって多少の配慮は必要だと思っています。

私にはそういう趣味はありませんが（高いからもったいない）、もらうのは好きですよ。相手のようすがよくわかりますので。

子どもの写真が多いですが、かわいい子なら自慢したい親の心が見え見え、そうでない子なら親なればこそと思える愛情が見え見え、どちらにしても、親の心がじんじんと伝わってきて、ほのぼののします。

家族写真は、「ふーん、幸せなんだなあ」という思いで眺めます。そして「子どもはいないけれど充実した毎日で私もまあまあ幸せよ」と言える自分でありたいと思います。

# 家族の スケッチ

## 二度目のどわんぷん

東京都国分寺市 大西ユキコ（38歳）

夢を見ていた。

息苦しい夢だった。世の終末、水が一面に押し寄せてきて息ができない。苦しさに、徐々に意識が浮かび上がり「あー、夢なんだな」と分かってても、何だかまだ息がおかしい。喉がヒリヒリする。目を開けると午前四時。どうやらこれは、ダンナが下の階の台所でまたハンダづけでもしてるのだろう……と思ったが、それにしても臭う。変だ。ややしばらく布団にいたが、眠気よりも「何だか確かめよう」という気持ちで勝って寝室を出た。とたん、うつすらと霧が立ち込めたような廊下。しかも焦げ臭い。「これはもしや!」と「まさか……」の入り交じった思いで階段を下り、台所へ。戸を開けた瞬間、目に飛び込んできたのは真っ茶色な煙が充満した室内だった。コンロの

上には、火にかけたままの鍋が!

すぐに火を止め、換気扇を回し、「ここにいるはずのダンナは?!」とふり返ると、台所つづきの和室で、あろうことかうつぶせ状態でいつものごとく寝ている。まったくこの状況には気づいていなかったのだ。窓を開けると見る間に煙が外へ流れ出ていく。家中の窓をあわてて開けまくっている私に気づいたダンナは、正座でしばしばう然としていた（まだ目覚め切っていない）が、ようやく状況がのみにこめたと見えて「ごめん!」と平謝り。

（あたり前だ!）私は内心怒りで満ち満ちて震えていたが、あまりのできごとにも声も出ない。

コンロまわりの白いタイルは、煤で汚れ変色していた。おそうじシートで拭くと茶色の焦げが付いてくる。無言でそうじしていると、「明日やるから!」と、まだ半分眠気のとれぬダンナの怒鳴り声。私は思わず「逆ギレできるの!？」と怒鳴り返した。まったくこんな状態になっているのに、よく眠ってい



られるものだ。「ごめん！ 本当にごめんなさい」。あんな、本当にそう思ってる？「もう寝ていい？」だって!! づくろ呆れ果てた。

思えばダンナはこの正月、田舎へ帰省する際高速道路で事故を起こしかけた。居眠りだ。そのときも私が大声を上げてダンナが気づき、中央分離帯に車体をこすっただけで済んだ。でもダンナは車体の修理ばかり気にして、私と子どもたちに「ゴメン」の一言もなかった。危ない目に遭わせておきながら！ 逆ギレなんかできる立場じゃないだろうに！

怒りと同時に、私にはまたこんな考えも浮かんでいた。神様が私たちを夫婦にした理由。ダンナが気づかないから、気づく私が傍にいるよう配慮されたんだ、たぶん。家庭内離婚に近い状態の私たちが、これでは離れるにも離れられぬ。

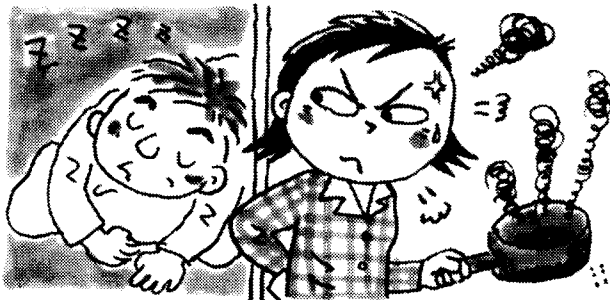
一時間窓を開け放しにしてみたが、煙は消えても煤けた臭いは全然とれやしない。とりあえず少しだけ窓を開け

たままにして、もう一度寝なくては。布団に入ったものの「カーテンは朝一番に洗おう。ダンナはああ言っただから、天井と壁を拭いてもらうぞー」などと、神経も興奮してしまっただけで眠ることができない。うとうとしたのもつかの間、子どもたちのためにフラフラでも起きねばならない。ダンナはと見ると、平気であのときと同じく腹ばいで寝たままだ。まったくその無神経ぶり、信じられない！……とにかく片付けだ。ステンレス製の鍋はふたのプラスチックのつまみ部分が溶けかかり、

中身は完全に炭と化していた（どうりで刺激臭がしたわけだ）。食器棚の中、押入の布団にまで臭いが染みついてしまっている。私はため息がとぎれない。

あのとき、鍋の中にはみそ汁の残りが入っていた。ダンナは深夜に帰宅後、みそ汁を飲もうと鍋に火をかけたまま、疲れ果てて眠ってしまったのだ。

ダンナの行動はよく分かる。「仕事ご苦労さま、たいへんね」の一言が欲しいのも知ってる。だけど、それはお互



いさま。私だって毎日必死でやっているのだ。ダンナには私の苦勞など、一切分らないらしいが。今回のできごととは、自分たち夫婦の関係が影響していると思っている。しかし、それを改善する気力は、私には既がない。

家中のいぶされた臭いは、二週間以上経てもとれないままだ。とにかく大事にならずに済んで、本当によかった。子どもたちを見て、そう思う。『一度あることは……』という言葉があるが、二度も死にかけているわが家、「今後何があるか分からないから、気をつけようね」と息子に話したら、「内緒だけど、お父さんこの前車のバンパーを、木にぶつけたよ」と言う。聞けばボヤ騒ぎ以前の不幸事である。そうか、これが三度目のできごとだったのか。ならばもう打ち止めと願いたいところだが……。

無事でいられたことを、改めて神様、仏様、ご先祖様、その他自分を助けてくれる周りのすべてに感謝を込めて、祈った。最後に記す。あのとき、逆ギ

レするダンナに私が言った言葉。「私も気をつけるから、あなたも注意してちょうだい」と。

## かき餅

東京都練馬区 安達みずき（43歳）

愛おしむように炭火に手をかざす母の背中が、知らぬ間にこぢんまりとなっている。

「懐かしくてねえ。炭も探して買ってきたの」

静岡の実家へ帰ったときのことだ。それまで見たことのない藍色の瀬戸の火鉢が、六畳の和室の真ん中に座布団まで敷いて、でんと座っていた。

エアコンのスイッチを切り、炭火のぬくもりをあえて楽しもうと、母はこゝの大きな火鉢を裏の物置から引っ張り出してきたという。

「へええ、うちでもこんなの使ってたの」

鉄製の重い火箸で炭をつつついてみた。

「あなたがうんと小さかったころだもの」

一瞬ぱちぱちと小さな火花を散らしたかと思つたら、すぐに内にその思いを隠すように静かになった。灰をいじるのは、小さいころの砂遊びのようで楽しい。

「昔は、こんなので暖とつたんだからねえ。寒かつたわけよねえ」

母は私の手から灰ならしを取ると、私がせっかく描いた石庭の庭のような模様を壊してしまい、炭にそっと灰を寄せ始めた。

「炭はこうやってごきげんを伺いながら扱うのよ」

背中をよりいっそう丸め、火鉢を覗き込みながら、手首だけを小さく動かしている。立ち消えがしたり、燃え尽きたりしないよう、しよっちゅう世話をするのだという。

「ほんとに昔は何もかもが大変だったねえ。なーんにもなかったんだから」

母はその時代のことをいうとき、いつも同じことはで締めくくる。

「でも世の中全部そうだったから：。あのころは、周りが助け合って暮らしていたからねえ」

母は、この火鉢の上に何を置いたのだろうか。

朝から煮含めたお豆の味はどうですか？といつて、垣根越しにお隣さんにおすそ分けしたのだろうか。ぷくくと膨れて転げ落ちそうになるお餅をあわててお椀に入れながら、お汁粉を父に差し出したこともあったかもしれない。

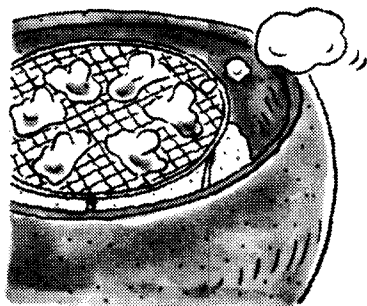
ようやく世の中が落ち着き出した昭和二十年代の後半、母の新婚時代に思いをせながら火鉢を覗き込んでいたら、何を思ったか突然母が立ち上がった。

「そうだ。かき餅があった」

台所から薄く切って干したかき餅とお醤油の入った小皿を持ってきた。五徳の上の丸い金網の上に置く。豆が入ったのやら、のり風味の薄緑色したの

やら、かき餅が六片の花びらの形に並べられた。

「いいあんばいに膨らむねえ」



私は、食べかけのミカンの皮を花びらのちょうど真ん中に置いてみた。すると、どうしたことだろう。突然、思いつきの風景の中に火鉢が浮かび上がってきたのだ。

ちりちりと皮が水気を失い、老人の肌のようにしぼんでいくにしたがって香り立つ匂い。

「あっ！ この匂い。汲み取り屋さんが来たときの匂いだ」

臭い臭いと小声でいつて、あわてて傍にあったミカンの皮を火にくべたものだった。消臭効果は抜群である。とりわけ炭焼はかぐわしいようだ。

「そう、そう。そうだったわねえ」

ミカンと火鉢は冬のわが家にあつて、なくてはならない必需品だったのだ。町から炭屋さんと汲み取り屋さんが消えたのは、ほぼ同時期だったのかもしれない。

私は、さきほどのかき餅を手づかみで持ち上げ、「あちつあちつ」といって頬張る。母も同じように指で摘まみ、上を向いてお餅を伸ばしながら舌の上のせ、喉の奥に送り込んでいる。顔を見合わせくすくすと笑いながら、一つ二つと休みなく手が伸びる。

かき餅はお醤油をたっぷり含み、実にいい具合に焦げていた。

## ある別れ

川崎市麻生区 小池芳美 (52歳)

「お母さんの推理なんだけどもさあ、最近、ケータイが鳴ったら、自分の部屋にすっこんでドア閉めて話すっていうの、ないみたいだし、明日バレンタインなのにチョコレート作らないし……ひょっとして喧嘩別れした？」

「別に喧嘩はしてないけど……」

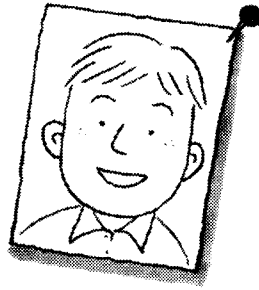
という具合に、娘がカレと別れたことが発覚した。初詣には一緒に行つてたから、バレンタインデーまでの一か月余りの間に何かあったのか。でも別れた理由は聞かなかつた。娘とはいろいろ話をするが、こういうことは話したくないのはわかつていた。

私は急に寂しさを感じた。もうN君に会えない。おそらくもう一生会えないんだ。

N君は娘と同じ大学のサークルの先輩で、娘が入学してしばらくしたころ

からだから、一年半ほどのつきあいだった。何度か、わが家へやってきた。

趣味はパソコンや音楽、おしゃれにはあまり関心がなさそうに見えた。茶髪は嫌いで、娘にも、茶髪にしないでと言ったという。朝起きるのが苦手で、



授業に間に合わなかったり、娘と会う約束のとき、「今、起きたところ」とケータイをかけてくることもあったようだ。

彼の家はテレビはあるが、家族みんなほとんど見ないらしい。その分、本はよく読んでいて、知的な青年だった。

礼儀正しく、しかし堅苦しい感じではなかった。ユーモアのセンスもあった。

私の好きな安野光雅さんの「旅の絵本」をひろげて、娘そっちのけで「ね、ここに○○の物語の場面が描かれてるのよ」「あ、これは○○じゃないかな」と、絵本の中に仕掛けられた絵を見つけては楽しんだこともあった。

娘はN君のお母さんから、お母さんが若いころ着てらした（といってもほとんど新品の）コートをいただいた。浴衣を買ったことを話したら下駄をくださったこともある。そして娘は花火大会の日には、お母さんに浴衣を着せてもらった。その何日前から、私は実家に用があつて留守だったので、娘は服を着て行くつもりになっていた、お母さんが浴衣姿を見たいとおっしゃったという。それで娘はインターネットで浴衣の着方、帯の結び方を調べて練習したが、着せてあげるから浴衣を持って服でいらつしやいと言ってくださったのだそうだ。

一昨年の秋、彼はお母さんからだと

言ってチューリップの球根をたくさん持つて来てくれた。お母さんは小学校の先生で、教材の球根を買うとき、自宅用にも買われたのだそうだ。大小五つのプランターに植えたチューリップは去年の春、あざやかな花を咲かせてベランダを彩った。

咲き終わって掘り出した球根は、ある程度以上の大きさであれば翌年また咲かせられるというので、秋の終わりにプランターひとつ分だけ植えてみた。芽はいくつか出たが、葉は一部が縮れたようなびつな形にしか育たなかった。ところがたった一本だけ、すくすく伸びるのがあって、これだけは大丈夫かもとと思っていると、蕾が見えてきて、やがて薄赤く色づき、三月に花を咲かせた。

それを見ると私はまた胸がキュンと痛んだ。目頭の奥もキュンとなった。

娘が二人で、息子のいない私は、N君のような息子がいたらよかったなと思っていた。もしかしたら、将来、身内になるかとも思っていた。いや、中

学生や高校生ではなくて、二十三歳と二十歳だから、もしかしたらくらいじやなく、その可能性は高いと思っていた。

でも、N君、もう会えないんだね。

## ネクタイ

東京都新宿区 林 直美

正月に実家へ帰ったとき、一本のネクタイを見つけた。母が婦人会の何とかでもらったらしい。父はいないし、兄は職業柄ネクタイをあまり必要としないので、私が母からもらって東京へ持つて帰っていた。夫の趣味にはまったく合わない、ほんの少しはでなデザインである。

ところで、夫は服装にはまったく無関心で、私がすべて用意して出したものを当然のように着ていく。私が不精して一週間くらいはあったかしにして

いても、何も思わないらしく、汚れの首輪でこてこてのワイシャツを平気で着ていく。さすがにコーヒーをこぼしたりして帰宅すると自己申告してくれるが、きっと夫は一月でも二か月でも同じ服を着ていくだろう。そう、思わせる。

実は彼が心身不調状態になってから丸五年になる。一時期のような深刻さはなくなったが、それでも今一歩が抜け出せないで、日々、悶々としている。そこで、私は黙って、例のネクタイを用意しておいた。何も考えていなければそのネクタイをしていくだろうと思っていた。ところがそれを無視して、前日のネクタイを捜し、していった。三日同じことが続いたので、今度はその例のネクタイ一本きりにしてようずを見ると、夫は開けたこともないタンスの中を捜して、別のネクタイを締めていった。

なぜしていかないのかという私と、好みじゃないという夫との口論になった。正直なところ、常日ごろ何もかも

させるくせに、こういうときに限って頑固に意志を通す夫に、少々腹が立ったこともある。そのネクタイが夫の好みでないことは百も承知である。だが、私としては、現状を打開するためにも、あえて挑戦することで、気持ちも変わるかもしれないの思いからである。たかがネクタイである。周囲には何の影響もない。自分の気持ちの問題だから、いつもと違った好みのものを使う

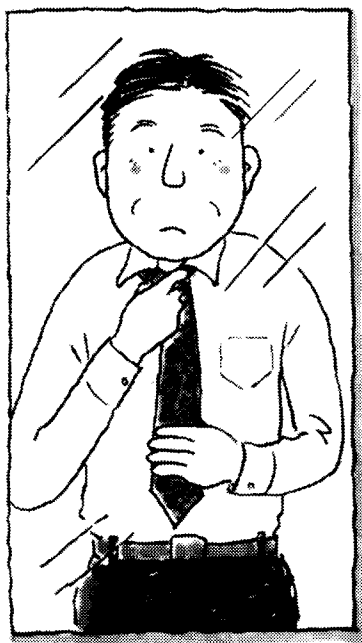
ことも、今の夫には必要なのではないかと私は訴えた。彼は嫌なものは嫌で、ネクタイごときでやる気が出たら誰も苦勞はしないと、そう言って譲らなかった。会社へ行かない、休むとまで言い切った。が、結局、どう説得したかはつきり思い出せないが、とにかく私が勝って(？)夫はしぶしぶそのネクタイをしていった。一度すれば後はどうってことはない。三日、そのネクタイ

イを使った。いつもながら、ネクタイの柄などで会話ができる夫ではなく、結果的には何も変わらなかった。

それが約一か月前のことである。先日、夫は会社の上司との面談を受けた。その中で、例えばスーツを新調するかネクタイの柄を変えるだとか、小さなことから気分を変えてみるのも大切だと、上司が夫に話をされたそうだ。夫はしぶんとして帰ってきた。

いつもそうなのだ。私が言ったとき、夫は、最初は必ず馬鹿にしたような態度で聞く耳を持たないのだが、結局は医者あるいはカウンセラー、今回は上司から、私が言ったそっくり同じことを言われ、ようやく理解、納得する。もし、私が他人だったら、夫は初めから話を素直に聞いたに違いない。私にはずいぶん昔とはいえ、精神科看護のエキスパートを目指していたころもあったのだから。

妻という存在は、いったい何なのだろう。ときどき、ものすごくむなしきときがある。



## ストップ ザ コミュニケーション

川崎市中原区 和田美代子

私には二人の息子がいる。二人ともいっぱしの社会人だ。長男はすでに結婚し、これまた二人の男の子（現在高二、中三）の親である。従って、私は二人の孫を持つ姑だ。

嫁さんとは十数年の付き合いになるわけだが、いまだにうまくいかない。女の子がいないので、彼女をわが娘と思って付き合おうとしたのだが、言うこと為すこと『いすかの嘴』と食い違い、たびたび気まずい思いをしてきた。それでも何とか平和を保ってこれたのは、彼女が不平不満を言ってきた、私がどうしていいか分からなくなり、落ち込んでしまったたび、いつも夫が、「ほっておけよ！」

と、忠告してくれてきたからだと思う。私の本音としては、できるだけ彼女

とコミュニケーションをとり、よい関係をつくっていきたい気持ちでいっぱいなのに、間にはさまる夫や息子は問題が起ころのを恐れてか、なるべく接触させまいとする。これではいつまでも私の理想とする状態に近づくことができない。

折も折。またいつものように電話がきた。彼女からの電話で明るく楽しい気分になったことはほとんどない。

「困ったものね、どうしたらいいかしらねー」

と悩まされることが多いのだ。

今回は最も深刻な話を相談された。彼女の夫、つまり私の息子が仕事から帰ってから家でお酒を飲み、量を越すと家族に当たり散らす。

「外で飲んできてくれればいいのに……」

と、こぼす。彼女としては、ほとほと困って私にどうにかしてほしいと言ってきたのだが、もう四十過ぎた息子にいまさら説教して効き目があるかどうか。

その上、彼は私たち両親の前では実に礼儀正しく、さわやかなのだ。彼女からきく人物とは別人のようなのである。

「ほんとうなのかなあ」

といった半信半疑の気持ちもわいてしまう。彼は仕事のこと、家族のこと、そして家購入のこと、などなど全部が肩にかかって、今いちばん苦しいときなのだ。家に帰ったら気分転換に飲みたくもなるだろう。彼女のほうはずっと第一主義で、亭主のことは『達者で留守がいい』といった感じだ。可哀想に……と、親として思ってしまうのだ。まさしく親の欲目である。

「彼のこと、小さいころの可愛がり方が足りなかったのではないですか？」

と彼女に言われたとき、私は胸の鼓動が高鳴った。

確かに充分とは言えないけど、その時代なりに一生懸命子育てをしてきたつもりだ。今そんなこと言われても、過ぎてしまったこと、どうしてあげよ

うもない。私は傷心し、夜も眠れない日が続いた。

この姿を見て夫はおもむろに言った。

「彼女とのコミュニケーションを、しばらくストップしたほうがいいな」

そして一呼吸おいて、

「これからの我々には、息子のところのごたごたなどに神経をすり減らす時間はない。もっと自分のためになることをやったほうがいい。もう人生の第四楽章に入っているんだから」

しみじみ語るこの言葉に、私は素直に耳を傾ける気になった。

（淋しいけど、しばらくこのまま静かによすをみよう。そしてそのうち「ストップ」が解けたら、

「大変だと思うけど、息子のことこれからもよろしく頼みますね」

と言ってみることにしよう。彼女もつらくて私にいろいろこぼしたいのだから、大きな気持ちになって受け止めてあげよう。

「うん、うん」

と聞き、一言一句神経質にならないで、聞き役専門に徹しよう）と、心に決めた。



早春の空を見上げると、ぬけるような青さだ。「清濁併せ呑む」の言葉が、ふっと私の脳裏をよぎる。

## ダンベル買いに

東京都三鷹市 内藤由美

「健康」という言葉に弱い父は、健康のためなら何でも買ってしまう。先日、テレビを眺めながら「ほお」と口を開けた父の視線の先には、握りやすさを強調したダンベルがあった。

テレビショッピングは、怖い。どうでもいい商品なのに、会場にいるおばさま方のため息にも似た歓声で、買い物心をそそのめるのだ。

「ダンベル、いいなあ」

父はすっかりその気である。

「買ってどうするの？」

と冷やかな私。

どうせ買ったって、使わないことは目に見えているのだ。「毎日続ける」と宣言して購入した縄跳びは「雨が降っているから」「外、寒いから」という理由で一度も使っていない。ぶら下がり健康器は、物干しと化している。



その他「いったん出すと、片づけるのが面倒」という理由で、しまいっぱなしになっている健康器具がいったいどれだけあることか。

「鉄アレイがあるじゃない」

ソファの下に転がっている鉄アレイを引っ張り出すと、父はむきになって首を振った。

「それは重すぎてだめだ。持ちにく

いし。ダンベルなら、間違いない」

軽いほうが長続きするのでは、という助言を無視し「重いほうが効果がある」と言い張ったのは、どここのいつだ？ おまけにダンベルなら、どんな間違いがないと言うのだろうか？

余談ではあるが、この鉄アレイは先日、テーブルを組み立てる際にかなづち代わりに大活躍。本来の目的と全く

違うとは言え、やっと日の目をみたのである。

「一個あれば、みんなで作えるし。な」

と、父は妹に助けを求めた。

父の影響か、妹も若いのに健康が目的となつてしまっている。歩けよ、という忠告に耳も貸さず、ステッパー（足踏みをする器具。ウォーキングと同じ効果を狙うもの）を購入。だが、使っている気配なし。

テレビではレオタードのお姉さんが腕を突っ張るようにして、ゆっくりと回している。

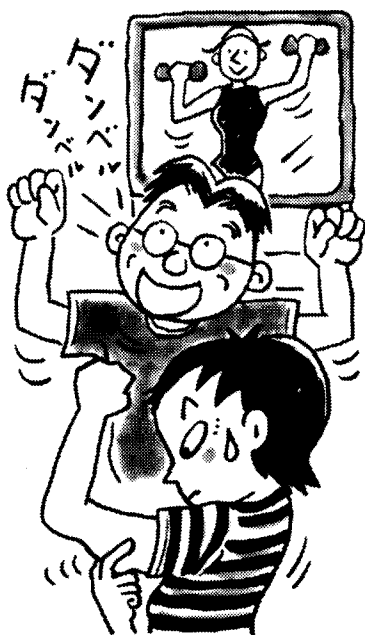
「腕が引き締まるんだ。へえー」

妹は弛んできた二の腕を反対の手でつまみ始めた。

「最近、ぶよぶよしてきてさ」

年を取ると引力に逆らえなくなるんだよ、と言いたいのを堪え、私は穏やかに諭す。

「でもさ、これ、結構大変だよ、この体操。二十分もやらなきゃいけないだよ」



「簡単だよ、二十分くらい。すぐだよ」

ステッパーで十五分の足踏みを面倒がる人に、簡単だなどと言ってほくはない。

「ほら、見てみる。お腹だって、引き締まるんだぞ」

「あ、本当だ」

こうなると、もう、何を言ってもムダである。買うまでダンベルと、騒ぎ続けるだろう。

で、買ってきた。その日のうちに。八個も。

「こんなに買ってきて、どうするの？」

ダンベルは、一個ずつ握る物だと思っていた。とすると、二個あれば両手は塞がるではないか。

「いや、ほら、誰かが使っていたら順番を待たなきゃいけないし。待ち切れないだろう？」

心の底から呆れてしまった。たかだか二十分を待てないのだろうか？ この人は。

父は得意気に続けた。

「どうせ百円だし、みんなの分も買っておこうと思って、つい」

百円ショップの思惑に、まんまとはまっている父が悲しい。どうせ百円とはいえ、いらぬ物を「つい」買って、どうする？

こうして、わが家には八個ものダンベルがやってきた。たかだか二十分を待ち切れないほどの人気ぶり、なはずである。

が、その後、誰一人としてダンベルを使っている姿を見かけることはない。

## 今を生きたい

千葉県船橋市 三枝きよみ

「いい加減にしてよ」思わず声を荒げてしまった。後から考えると、何もそんなに力まずに静かに言えばいいのにとと思うのだが……。

何のこともない夕食後夫が蜜柑を一個食べてしまったときのことだ。

夫は腎臓を悪くし人工透析をしている。したがって自ずと食事も制限される。三時間半の透析を終わり六時半ごろ家に帰り着いた。

「リンの摂取は問題ないが、カリウムの量が高いと言われちゃった」と言った。

「それで」と問うと、「蜜柑、伊予柑の取り過ぎかなと言ったら、カリウムのための薬を出してくれたよ」と言った。「でも薬に頼るより食べ物に気をつけたほうがいいよ」と言ったばかりだったのだ。蜜柑と言われて手渡すとき、「控え目にしてね」と言ったのだが、「そう言われると、もつと食べたくなる」と返ってきた。それで手元を見ていたら一袋も残さず食べてしまったのだ。

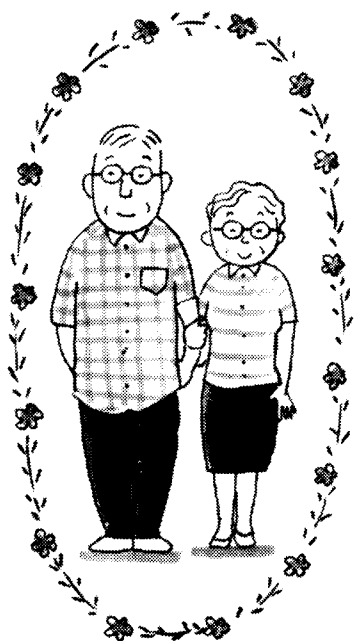
それでとうとうたまりかね、最初に書いた言葉が出た。「そんなに食べたいのならいくらでも食べればいいのよ」「二個めも三個めも皮を剥いた。夫

は慌ててビニールの袋にそれを入れ隣の居間へ消えた。

「昨夜だって咳が出るので心配で、二時間おきくらいに部屋の温度に気を使い、見に行ってたのに少しは分かってよ」

言ってしまったって、どうして私ってこんなに激情するんだろうと嫌になった。

でも、今までこの一年間は大きな声も、激しい言葉も出せなかった。発病



以来ただひたすら大変だ大変だの思いばかりだったような気がする。それがこのごろは、見かけだけでも少しずつ元気に、健常人みたいになってきているのがわかる。それで私の心も緩み、つい強気に言ってしまったのだ。

夫には、もっともっと身体に気をつけて頑張ってもらいたいと思っているのに、「強く生きて」と言う、「そう言われても、辛いものがあるのだよ」と言うが、「そんなことは知っている、

それでも生きてほしいの」と私は言う。

いつとき時間をおいて考える。それって私が自分のためにだけ考えていることなのだろうか。夫がいてくれれば淋しくないから、いてくれるだけで安心できるから……いやそれだけではないと思う。この世から消えてしまうということは、何もかもなくなるということにはかならない。何でそんなに生にこだわるのかと問われたら、私には今を生きるということがいちばん大事なことになるのだ。どんなに辛いことが毎日続こうが、悪い日ばかりではない。たまにある友人との会話、穏やかにそつと吹く風の感じ、これから咲くであろう花の芽吹き、生きているからこそ見れるものではないか。

「ねえ、お父さん（夫のこと）今日一日を頑張っていこうよ、いや今年一年を、ほら今日は朝から陽が射しているよ」

本当はもっと、もっとと優しい言葉をかけてあげたいのに。

（え・小沢恵子）

インタビュー・「21世紀母親研究所」坂本<sup>くに</sup>洲子さん

# 人間にレッテルを貼らない アドラー心理学



インタビュアー 柳沢順子

## 親子のあり方を援助する研究所

**柳沢** 「21世紀母親研究所」ではカウンセリングや専門講座以外にも様々なセミナーをいくつか設けておられるんですね。

例えば、SMILE（愛と勇気づけの親子関係セミナー）やCOSMOS（1は乳児、2は児童、3は思春期向け）、WINGS（子の社会性を育てる親子セミナー）、APPLE（子ども社会性訓練）など、カウンセリングを受けることには抵抗のある人も、すんなり参加できそうですね。

**坂本** アドラーは会話重視のカウンセリングなので、相手が口を開かないうちは進まないんです。そこで聞き方、話し方、つまりコミュニケーションのトレーニングプログラムを作りました。大人向けと子ども向け、両方にです。

**柳沢** 日本人のコミュニケーションのましさはすいぶんいわれてきましたが、相変わらずなのでしょいか。

**坂本** 表現したいものはあっても表現するすべを学んでいませんですね。親子間

でもコミュニケーションがうまくいっていないとは限らない。

昨今、多くの子どもたちの心身にいろいろな問題が現れて、そのことがとりざたされていますが、子どもに起こる問題は実は親の問題なんです。

**柳沢** 子どもを援助するということは親に対する援助が不可欠ということですね。

**坂本** 私のところに見える子育て中の多くの母親を見ていて感じることは、勇気をくじかれているなあ、ということですね。不安に陥ってしまつてすべてに自信が持てなくなっている。「子どもには勇気づけが大切です」というと「その前にまず私を勇気づけてください。やる気が出るためにはどうすればいいんですか」という母親が多い。

**柳沢** セミナーやカウンセリングのプリンスブルをいかにつまんで教えていただけませんか。

**坂本** しつけや教育を含む家庭内でのトラブルを民主的な家族関係の視点から援助することですね。さらには子どもの教育にかかわる保育士や教師などの専門家を心理塾を通して援助してゆきます。

**柳沢** 「民主的な家族関係」をはきちがえている親が多いと感ずるのですが。

## 甘やかされると人は神経症になる

**坂本** それはもう、非常に多いですね。これはしつけや教育をする側に正しい一貫した理論的基礎がないために起こります。

「民主的」や「尊重」とは何であるかわからないまま「とにかく民主的なんだから叱つてはいけない」などと勝手に思いこむ。だから親のための教育や援助が必要なのです。

最近でしたか、十代の男の子が母親の作った食事がまずいという、ただそれだけの理由で母親を殺した事件がありました。これなどまさに親が、しつけや教育どころか長いこと子どもの奴隷になっていた例でしょう。自分というものがなく、相手が子どもなのに依存してくる人間を子どもは見くびります。自分より下の人間だから何を言っても、してもいいわけです。この子独自の理論では「まずい食事を作って自分を怒らせた母親は殺されてもしかたない」とい

うことだったのでしよう。この子のプライベートルジックをこのように形成させたのが親を含むまわりのありかただったわけですね。子どもを甘やかすことは子の成長にとって重大な障害となります。

**柳沢** アドラーは「甘やかされた子どもは神経症になる。神経症とは社会からの逃避手段である」としていますね。

**坂本** 人生に対する哲学をもたず、自分に甘い親は子どもに対して毅然とした態度をとることができません。子どもに嫌われたくないうえに子どもに依存していたりするので、欲しがるものを与え、子どもに不快感を味わわせないよう行動する。これでは子どもが自分を干渉だと勘違いするのも無理はありません。

やがて子どもは家庭内のボスでいることに執着し、親を巧みに操るようになる。こくなる悪循環に陥ります。

愛情を注ぐことと甘やかすことは全く違うのです。

**柳沢** アドラー心理学は、人間はもととすばらしい存在で、社会に貢献して生きることによって幸せになれるとしています。性善説

なんです。もともとの問題児は存在しない。問題児になつてゆく環境とプロセスがあるはずで、カウンセラーの援助によって軌道修正は可能である、と。

**坂本** ええ。カウンセラーは一人の問題児がいたらその人を取り巻いている環境全体を理解する必要があります。そしてその問題行動を促す目的が何かを明らかにしてゆきます。

## アドラーの「目的論」

**柳沢** アドラー心理学では病気や行動には原因があるのではなく目的があるという考え方をしますね。

**坂本** そうです。それがアドラー理論の大きな特長の一つです。「目的があつてそうなっている、そうしている」と考えます。

病気や症状は過去の何かが原因なのではないのです。本人にとって未来に存在するはずのなんらかの目標がある。そこに向けて今の行動や不具合が起きていると考ええます。

**柳沢** 例えば、幼いころ親に愛されなかつ

たので自分は人間関係がうまくいかない、という人をアドラーではどう解釈するのですか。

**坂本** 「今の自分の人間関係がうまくいかないのは、かつて受けた親の愛情とは無関係である」ということを本人が気づくように援助します。今うまくいかないのは今の自分に問題があるのです。過去の自分や環境のせいではありません。

**柳沢** 確かに、幼いころ親と死に別れた人でも、あまり愛されなかつた人でも、逆に親からベタベタに甘やかされた人でも人間関係をうまくやる人はありますよね。

**坂本** そうです。今、本當にうまくやりたかつたらうまくやろうとするはずです。それなのに人間関係で問題を起こす人は、実は問題を起こしたいのです。なぜそういうことをするかというと、本人が今とらわれている目的が、人間関係をうまくやることではないからです。

**柳沢** 自分を全面的に受け入れてくれる人が欲しい、とか？

**坂本** あるいはまわりの人間を自分の支配下におきたいのかも知れません。何にせよ、

その目的は不毛であると本人が気づくように援助をするのです。

**柳沢** 全面的に依存させてくれたり、無条件で尊敬してくれる相手など現実にはありえない。ありえない人を探すことは不毛であると気づかせるんですね。

**坂本** 「人間は共同体に貢献して生きるとき、幸福になれる」というのがアドラーの考え方ですから、クライアントが自分の不毛な目的に気づいたとき、不毛な行動もなくなります。

悩む人の特徴は過去に起こった何かに執着してそこから抜けられないか、あるいは起きてもない未来のできごとを心配して気に病んでいるかのどちらかなんです。いずれにしても今を生きていない。

もし（過去や未来の）何かにとらわれていても、生きる目的が社会的で建設的であれば生きづらさは感じないはずですよ。

## 「21世紀母親研究所」を立ち上げるまで

**柳沢** この研究所を設立するまでの経緯を

お話しくださいますか。

**坂本** 大学を出て養護施設に勤務しているときに、親子間のトラブルをたくさん目にして、それに対して自分は何ができるか試行錯誤していたんです。書籍で調べたり、いろいろな勉強会に参加してみたりしましたが、どうもどこへいっても自分の知りたい答えがなかった。

あるときに知り合いから、子育てのためのプログラムを学ぶ会があるからそれに参加しないかとの誘いを受けたんです。それが当時日本ではあまり知られていなかったアドラー心理学によるプログラムとその講義でした。私が知りたかったことはまさにこれだ、と、すっかり引き込まれました。で、養護施設の問題のある子たちに実践してみたら、その子たちがどんどん変わっていったんです。

例えば告げ口ばかりしてまわりを引っかきまわすので手を焼いていた子など、アドラー心理学の対応をしたらびたっとおさまってよくなった。で、ああ「対応のしかた」というのがすごく大事なんだと気づいたんです。それまでは「どうしてこの子はこ

カウンセリングを勉強中のみなさんと



なんだろう」ということにはかなり気をとられていたんですね。

私が誘われたのはアドラーのカウンセラーを育てる講座だったので、そのまま二年間通って、試験を受けて初級、中級と認定書も取りました。その同じ講座に、後に「ビューマンギルド家庭教育研究所」を設立した人がいたんです。その人から設立後はそこで働かないかと誘われまして、そこでカウンセラーをやりつつ研修を重ねてゆくうちに、本格的にアドラー心理学をきちんと学びたいと思うようになり、シカゴへ渡りました。

シカゴではアルフレッド・アドラー研究所（現アドラーズスクール・オブ・プロフェッショナルサイコロジ）に入学し、そこでブローニャ・グランウォルド先生と出会いました。

ブローニャ先生はアドラーの高弟ライカースから直接カウンセリングを学んだ人です。私の人生にとって重要な出会いでした。

二〇〇一年、独立して、現在の研究所を立ち上げました。

## カウンセラーの養成と活躍の場

**柳沢** 「21世紀母親研究所」ではカウンセラーの養成も行っていますね。

**坂本** はい。アドラー心理学による家族カウンセラー養成講座を設けています。

まず論理と実践を、三十時間（二時間×十五回）かけてきっちり学びます。これを修了した人はトレーニングコースに進むことができます。ここでは実践を二年ほど、しっかりとやります。これがプロとして仕事をする上での基礎となります。

**柳沢** 養成講座を修了した方たちはどのような活躍をされていますか。

**坂本** 私のところへは、女性センターのカウンセラーや会社の電話相談員、スクールカウンセラーなどをしてくれる人を紹介してほしいといった依頼が結構あるんです。ですから皆さんそういうところでカウンセラーや電話相談員をしています。

**柳沢** いろいろと活躍の場があるんですね。

**坂本** スクールカウンセラーになるとし

たら、臨床心理学会というところの試験を受けて資格をとるか、あるいは日本カウンセリング学会理事長の国分康孝博士が、九九年に立ち上げた「日本教育カウンセラー協会」というのがあるんですが、そこが初級、中級、上級の認定証を出しています。ここの試験に合格して認定証を受けた方はスクールカウンセラーになることができます。私はその上級教育カウンセラーの資格を持っていますから、私の講義をうけるとそれが初級、中級資格のための必要単位として認められます。

この認定を受けにくる人は今のところ学校の教師が多いようです。教師がカウンセリングもできればそれに越したことはないですからね。あとは大学で心理学を専攻した方とかね。

## カウンセリングは実践が大切

**柳沢** 大学・大学院と心理学をやって臨床心理士になった方がカウンセラーになった場合、どうでしょうか。

**坂本** カウンセリングは学問ですのでは

ありません。実践ですから。学問だけして実践のトレーニングを積んでいない人には無理と申し上げておきましょう。

アメリカの大学の心理学部は最後の一年はかなりきびしい実践トレーニングに明け暮れます。大学院になるとさらにスーパーバイザーが付いて、実践の経験を積むということをしつかりやられます。だから卒業と同時に現場で通用する人材ができて上がっているのですが、日本の大学はまだそうなっていないですね。

プロを目指すなら二、三年の実践トレーニングを積むのは当然で、これをした後によくやくプロとして仕事をするとは口にくると心得るといいでしょう。

そしてプロになってからが実は本当の勉強の始まりなのです。仕事自体も勉強です。プロの勉強の場として様々な研究会などの受け皿も用意してあります。

**柳沢** 巷では短時間ですむ簡単なプログラムによるものや、きちんとした理論の裏つけないメソッドでカウンセラー養成を行っているところがあるようですが……。

**坂本** そういうところは確かにあります。



しかしそれで本当に効果的なカウンセリングができるはずはありません。

**柳沢** あと、個人的に感じるのは、心理学の大学や、大学院を出たカウンセラーといっても二十代半ばの若い人に、自分の家の夫婦や子どもに関するごたごたした問題を話す気にならない人のほうが多いのではないかと。

## カウンセラーと精神科医の違い

**坂本** そういう感覚を持つ人は多いかもしれませんが。日本では心理的トラブルが生じた場合、たいてい医者（精神科）に行ってしまうんです。精神科医はいわゆる心理カウンセリングは行いませんから。中には自発的にそういう勉強をして患者さんの治療にカウンセリングを活用しているお医者さんもありますが、あくまで少数派ですし、診療時間も長くても十五分とか取ればいいほうでしょうね。

**柳沢** 病院ではストレスのせいで眠れないとなると、睡眠導入剤を出す、といった対応にしかないわけですね。とりあえず

目に見える辛い症状が抑えられるだけ。

**坂本** 心理的なことで病んでいる人は身体に出てくる症状の治療と内面の援助との両方が必要ですが、医療だけでは内面の援助にはならないですよ。

人間の心理が分かっている精神科医といふのもあって、不用意なことを言ってしまうのを傷つけてしまうことはありますね。

ただ日本ではカウンセリングというのは国が定めた基準がほとんどない分野です（労働省が認定している公的な資格は「心理相談員」と「産業カウンセラー」のみ）。だから「心理的援助の知識や実践」が大切であるということが、認識されていないのも無理からぬことなのです。

**柳沢** では、どういった機関がカウンセラーの認定証を出しているのでしょうか。

**坂本** 各学会の団体や協会です。教育カウンセラー協会などもそのひとつです。メンタルヘルス学会というのがある、教師や保育士が会員になって勉強会などしていますが、そこは認定は出していません。ただその会員ということで心理に関する問題を扱うときに説得力がある、といったメリ

ットはあるでしょう。日大心理学部なども卒業生や心理学のプロが集まって作っている学会があります。なかなかいい内容の勉強会ですよ。

**柳沢** ところでカウンセリングの勉強において気をつけなければならないことはどういうことですか。

## アドラー心理学の特長

**坂本** そうですね、思想的にはまり込み過ぎてはいけないということですね。人の心をあてもない、こうでもないといじくり回し分析し過ぎることです。そういう作業は結局机上の空論に過ぎず、それをしている人間が自己満足に陥る危険性をはらんでいます。で、クライアアントの建設的援助からは離れていってしまうんですね。

**柳沢** あくまでも生身の人間とその悩みに向き合うことが大切なんですね。

**坂本** 私がアドラー心理学を選んだのは、シンプルでわかりやすいからです。そしてクライアアントに対して固定化、サンプル化、レッテル貼りといった無意味なことをしま

せん。

この症状だと分裂症だの神経症だのという、分析や病名付けはいっさいせずに、ただ人を援助する。

例えば「眠れず食欲がなく辛くしてしょうがない」という人が訪れたとき「それは鬱ですね」という診断を下す医者やカウンセラーがいますが、アドラーでは、鬱的な症状を持つてはいるが鬱である、という断定はしない。それよりその鬱的な症状がいつから、どこから来たのか、どう援助していくかに照準をあてます。病名を付けたところでクライアントは治りません。

## 分析のフロイト・治療のアドラー

**坂本** アドラーは人間心理を理論的に体系づけるのはあまり意味がないとして書物はたいして残しませんでした。それよりは実践による援助を大切にした人なのです。そしてわりに早く亡くなりました。

日本であまり知られていなかったのはその辺の理由があるかと思いますが、最近アドラーの心理学が教育現場のなかで使え

るということがわかり、教師や保育士、看護婦さんといった方たちによって勉強が盛んになってきました。

アドラーの理論は彼の弟子のルドルフ・ドライカースによって体系化されたのです。

アドラーはフロイト派に属さず独自の心理学を展開したので、フロイトからしたら多少気に入らない人物だったかもしれませんが（笑）。

しかしフロイトに盾突いたとか、あえて対立したわけでもないのです。ただ神経症患者を対象としたフロイトの理論と、心理的援助が必要ではあるが健康な人を対象にしたアドラーの理論は根本的な考え方が違うのは事実です。

アドラーはその実践において関わった多くのクライアントをほとんど治しました。フロイトは理論づけには長けていたのですけれど治療はうまくいかなくて二、三人しか治せていません。

**柳沢** そうなんですか。フロイトは治療というより分析の人なんですね。

**坂本** なんといってもフロイトは心理学を

体系づけた大家ですから。著書も膨大ですね。大学の心理学科ではまず初めにフロイトありきです。

フロイトの理論なしに心理学の勉強は成り立たないし、理論好きな人には魅力的な学問です。私は個人的にはシンブルで分かりやすいのが一番だと思っていますし、アドラーの魅力はその辺でしょうね。この仕事の目的は分析ではなく援助ですから。

## 親が親であるために必要なこと

**坂本** 先日、乳幼児を育てている人に向けた講演会があつて、そこに来たお母さん方に「皆さん目的を持って子育てをしていますか」と聞いたんです。すると皆、然然となつてしまつて。そんなことを考えたこともない、と。

中には「健康が第一です」とおっしゃった人がいました。それは健康は大事ですが、それ自体は目的にはならないんですね。

母親は子どもを持つたら、いかに自立させるかを常に考えて子育てをしなくてはなりません。赤ちゃんというのは小さくて何



21世紀母親研究所  
連絡先 0422-44-8702

もわかっていないかと思っている人が多いですが、そうではありません。日々成長して  
いて変化していますから。

言葉が話せないからといって言葉を理解  
していないかといったそれは間違いで  
す。

ところが皆さん育児書はよく読んでらっ  
しゃる。最高五冊読んだ方に「育児の指針

は定まりましたか？」と聞いたら、「いえ、  
それどころか混乱してしまつて。育児書に  
よつて言うことがバラバラで何を参考にす  
ればいいのか、かえつてわからなくなしまし  
た」と。

さらに話を聞いてゆくうちに結局皆さ  
ん、自分というものが無い。母親として以  
前に、自分はこういう人間でどう生きるか

というビジョンや芯がないんです。

子育てとは子どもにあなたの生き方を伝  
えるということなんですよ、というたとま  
びつくりなさる。

**柳沢** 生き方なんていわれても、そんな大  
そうな生き方なんてしていない、と感じる  
方は多いでしょうね。

**坂本** そうなんです。でもね、生き方とい  
つても何もすごい高尚な人生のことを言っ  
ているのではなく、お母さんは今までこん  
なふう生きてきてこれからはこう生きて  
いきたいの。だからあなたも自分の生き方  
をみつめていってね、といったことですよ。  
**柳沢** 学校を出て結婚できて、住む家も買  
えたからそれでもいい、といった次元で  
は生き方とか子育ての指針にはなりえない  
ということですね。

指針がないから、とりあえず目の前にあ  
るコマーシャルイズムに乗せられて、子ども  
に大量のモノやアミューズメントを与え  
る。当然子どもは喜びますよね。で、親も  
楽しいし、これで別に問題ないんじゃない、  
ということになるのでしょうか。

**坂本** そのままいくと、先ほども話に出た

親と子の権力の逆転が起こる。親が子どもの奴隷になってしまふんです。あるいはそこまでいなくても、自分のお父さんは何を考えている人か、お母さんはどうか、何も伝わらない親子関係になってしまふ。

### 親の閉塞感

#### 子どもの心に影響する

**坂本** 子どもに食事の文句や好き嫌いを言わせる親というのが、まずよくない親の特色です。食というのは生活の最も基本的部分ですから。好き嫌いの多さは社会性のあると合い通じます。

**柳沢** 身近な例でも極端な母親をときたま見受けます。片や子どもに、産地や生産者や農法を限定した食物しか与えたくない。だからよその家の食事や外食などいっさい禁止。

かと思うと朝から晩までスナック菓子やファーストフードのようなものばかり与える親。

**坂本** 中庸という感覚がなくなってきたいる。社会性ということを考えれば親が子ども

にも伝える食文化は、好き嫌いというわがままは慎むとか、生産者や食事を作った人、食物の恵みそのものへの感謝といったことになりこそすれ、極端なことにはならないはずなんです。

**柳沢** 食以外に気になることはありますか。

**坂本** 子どもの学校や幼稚園でのようすを逐一知ろうとする親も不毛なことをしていると感じます。

母親同士の付き合いは面倒でストレスが多いのだが、でもその輪の中にいないと情報が入ってこないと言う。情報とは何ですか、と聞くと先生のやりかたや接し方だ、と言うのですがそれを知ってどうなるのか。

親がすべきことは、子どもと接しているとき、その子が安定したようすか、あるいは気持ちが悪く沈んでいるか、などを気にかけてやることです。で子どもが何か話したいふうなら、それにきちんと向き合ってやることです。

**柳沢** テレビの報道特集でランドセルに装着する盗聴器が流行っていると聞いたこと

があります。利用者は、子どもがいじめや仲間はずれ、先生からの不当な扱いにあっているか知するために着けるのだと言っていました。が、私はそれを聞いて神経衰弱になりそうな世界だと感じました。

**坂本** 親が子どものストーカーになったところで、親子関係が悪化するだけなんですからね。

子どもに起こる問題は大人の問題なんです。社会をこんなふうにしたのは自分を含めた大人の責任ですから。日本でもようやくカウンセリングの必要性和大切さが広く知られるようになったのはいいことだと思います。

ただ、まだまだカウンセリングに対する偏見——そんなことをしていると知れたら頭がおかしいと思われる——と困るから絶対関わらない——といったものはありますけれど。

**柳沢** 風邪をひいたかなと思ったときに内科に行くように、ちよつとした生きづらさを感じたときにカウンセリングに行く、ということが普通になればいいですね。

## アドラー心理学と古典フロイト心理学との比較

アドラー	フロイト
<p><u>人間は社会的存在である</u> 社会への所属欲求が人間行動の源泉である。 集団の中に自分の居場所を見出すことをめざして人間は行動する。</p>	<p><u>人間は動物的な存在である</u> 動物的本能が人間行動の源泉である。 本能的衝動に突き動かされて人間は行動する。</p>
<p><u>個人と社会は基本的に調和する</u> 社会は人間が幸福に生きるための場である。 人間は共同体に貢献して生きるとき幸福になれる。</p>	<p><u>個人と社会は基本的に対立する</u> 社会は個人の要求や衝動の満足を禁止しようとする。 人間は社会と妥協して生きるしかなく、ほんとうに幸福にはなれない。</p>
<p><u>人間行動の目的を理解する</u> すべての人間行動には目的がある。 行動の目的は未来にある。 人間行動は未来に向けての創造的な活動である。 人間には選択・決断の自由がある。</p>	<p><u>人間行動の原因を理解する</u> すべての人間行動には原因がある。 行動の原因は過去にある。 人間行動は衝動への受動的な反応である。 人間は本能や環境の犠牲者である。</p>
<p><u>人間は分割できないひとつの全体である</u> 意識と無意識は協力して目標を追求する。 人間の心の中に葛藤はない。</p>	<p><u>人間は部分の寄せ集めである</u> 意識と無意識は矛盾対立する。 人間の心の中には常に葛藤がある。</p>
<p><u>人間精神は基本的に合理的である</u> 人間は目的のために感情を作り出して使用する。 人間が主人であり、感情は道具である。 目的を知れば感情は制御できる。 無意識は信頼できる。 理性は強力である。 人間はすばらしい。 楽観的。</p>	<p><u>人間精神は基本的に不合理である</u> 無意識が感情を作り、人間に行動を強制する。 感情が主人であり、人間は奴隷である。 感情を制御することは困難である。 無意識は悪の源泉である。 理性は無力である。 人間はみにくい。 悲観的。</p>
<p><u>人間が性を支配する</u></p>	<p><u>性が人間を支配する</u></p>

<p>性は対人関係である。</p> <p>性は人間行動の一部である。</p>	<p>性は本能である。</p> <p>性が人間行動のすべてである。</p>
<p><u>神経症は社会からの逃避の手段である</u></p> <p>社会の中で建設的に生きる勇気を失って逃避的になるのが神経症である。</p> <p>神経症とは社会との葛藤である。</p> <p>甘やかされて育つと神経症になる。</p>	<p><u>神経症は衝動への防衛機制である</u></p> <p>無意識の力に圧倒されてしまうのが神経症である。</p> <p>神経症とは内的葛藤である。</p> <p>親の愛情が不足すると神経症になる。</p>
<p><u>治療とは勇気づけである</u></p> <p>建設的に生きる勇気と手だてを持たせることが治療である。</p> <p>現在の問題と人生の目標との関係を分析する。</p> <p>憶えていることに意味がある。</p> <p>感情を扱わない。</p> <p>短期治療。</p> <p>助言を与える。</p>	<p><u>治療とは洞察である</u></p> <p>内的な問題に気づかせることが治療である。</p> <p>現在の問題と過去の出来事との関係を分析する。</p> <p>忘れてしまったことに意味がある。</p> <p>感情を重視する。</p> <p>長期治療。</p> <p>助言を拒否する。</p>
<p><u>人間を援助しようとする</u></p> <p>心理学は技術である。</p> <p>教育学的。実践的。</p> <p>治療に役立つかぎりにおいてのみ理論には存在意義がある。</p>	<p><u>人間を理解しようとする</u></p> <p>心理学は科学である。</p> <p>哲学的。思弁的。</p> <p>理論はそれ自体として存在意義がある。</p>

#### 《参考文献》

- 「実践カウンセリング」野田俊作監修、ヒューマン・ギルド出版部
- 「人間知の心理学」アルフレッド・アドラー著、春秋社
- 「人生の意味の心理学」アルフレッド・アドラー著、春秋社
- 「現代アドラー心理学」上、下巻、マナスター&コルシーン著、春秋社
- 「勇気づけ」ドン・デインクマイヤー、ルイス・ローソンシー著、発心社
- 「やる気を引き出す教師の技量」ルドルフ・ドライカース、パウル・キャッセル著、一光社
- 「どうすれば幸福になれるか」上、下、W. B. ウルフ著、一光社
- 「勇気づけて躰ける」ルドルフ・ドライカース、ビッキー・ソルツ著、一光社
- 「知能を高める育児プログラム」G. ペインター著、一光社
- 「援助する面接」アルフレッド・ベンジャミン著、春秋社
- 「子どものやる気」ドン・デインクマイヤー、ルドルフ・ドライカース著、創元社
- 「やる気を起こす」ルイス・ローソンシー著、創元社
- 「サイコセラピー入門」(財) 安田生命社会事業団

# 子育てフォーラム

NMSのページ



## イマドキの幼稚園

川崎市多摩区 鈴木貴子

幼稚園選びには一歳から情報収集をしても早くはないと思う。「お受験」ではない、普通の幼稚園の話である。

少子化と保育園児の急増で、幼稚園はすでに淘汰の時代に入っている。どの幼稚園も生き残りをかけて個性化をはかっており、その教育方針もさまざま。どこに入れても一緒というわけではない。それだけに事前に近隣の幼稚園の特徴をリサーチしておく必要が

あり、幼稚園選びは以前より難しいものになってきている。そして全体的に園児は不足しているのに人気の高い幼稚園にだけ希望者は集中し、入るのも困難を極める。

ではどういう園が人気かというと地域によって異なるが、教育的な園よりも「のびのびとした」外遊びの多い園のほうに人気があるようだ。敷地が広く、畑があったり、動物を飼育していたりするとさらに人気は高まる。もちろん、「親に」という意味である。

また俗に「三種の神器」といわれる、園バス、預かり保育、給食も親の都合を考えた不可欠な人気アイテムである。給食も毎日だったり、週一回だっ

たりいろいろだが、地域に完全給食の園がひとつしかない大変な高倍率になる。

そんな人気園に入るためには、親は多少努力をしなければならない。いちばん確実な方法は兄姉が在園児、卒園児である場合だが、第一子の場合はない。在園児の「ご紹介」という方法を取っている園もあるが、たいはいひとりしか紹介できないので早々と在園児の知人を探してキープしておく必要がある。

また未就園児クラスから入るという方法がある。入園に際し、優先権がある場合があるからだ。週一回の親子教室の形を取っているところが多いが、

三年保育の場合その前年の二歳の四月から入れなければならない。そのために一歳から情報は何得ておかなければならなくなる。入り方は抽選だったり、チケット取りなみの電話予約だったり、とさまざまである。この未就園児クラスが存在を知らなかったために、希望の園に入れなかった人も多く知っている。たとえ優先権がなくても、事前に通ってれば子どもも慣れるのが早いし、親も園のようすがわかりやすい。入園金の割引もあったりする。

また、早朝から並んだり何日も泊まり込んだり、親が大変な苦勞をしないと入れないという幼稚園もある。そんなふうに「わかりやすい」ところはよいが、水面下で事前に内定を出す園に對しては知っていると知らないのでは差が出てしまう。願書配布の時期に慌ててもすでに遅いこともあるのだ。

と、人園の入り方について述べたが、もちろん大してこだわらないという人はこんなに頑張る必要はない。だが、どうしても子どもを入れたい園が

あったら頑張ったほうがいい。いずれにせよ、親の考えと園の教育方針は一致したほうがよいと思う。たとえば子どもに英会話を身につけさせたいと思っているなら、英語のレッスンのある園を選んだほうが満足度が高いし、逆



にのびのびさせたい親であればそんなものは不要だと園に不満が出るし、まわりの親と話も合わない。だが、そうは言ってもどんなに素晴らしい園だとしても、園バスルートから外れた遠い

ところに通うのもどうかと思う。最近のお母さんは運転がうまいので、とんでもないところから通って来たりするが、二人目になると面倒になって近くの園に入れてしまうのもよくあるらしい。

私が子どものころは幼稚園はこんなに個性豊かではなかったようだし、いちばん近くの園に当然のように通っていることが多かった。そのため近所に同じ園の子がたくさんいて、降園後もそのまま遊ぶことができた。今は子ども数が少ない上に、園バスと自家用車の普及でそれぞれいろいろな幼稚園に通う時代である。降園後にお母さんは、お友だちのうちやおけいこごとへと車の送迎で忙しい。幼稚園が個性化することで、教育上いろいろな選択ができるのはよいことだが、それが子どもにとってよいことなのか私にはわからない。

いずれにせよ、お母さんはタイヘンだ。

(え・海砂)



新連載

# 東エルサレムに住んで

1989年～99年の  
占領地での暮らし

カナダ モントリオール 二宮雅子



旧市街の入り口、ダマスカス門付近

## 二つのエルサレム

西エルサレムの目抜き通り、ベン・イエフダ通りはなかなかおしゃれでエキゾチックな通りだ。石畳の坂道は、歩行者天国になっており、洋品店、宝石店、みやげ物屋が並び、いくつものカフェテリアが店の外にテーブルと椅子を並べ、客は日光浴を楽しんでいる。その通りを抜け、ヤッファ通りに出て、二、三分東に歩くと、正面に旧市街の壁が見えてくる。ヤッファ通りを左に折れ、旧市街の壁を右手に五分ほど坂道を降りていくと、今までとは全く違った雰囲気になる。

ここからが、東エルサレムである。車のクラクションが鳴り響き、人は、走っている車の間を自由に横切り、ロバが背中に重たい荷物を背おわされ、むち打たれながらよろよろ歩いている。旧市街への入り口、ダマスカス門のあたりでは、野菜や雑貨を扱う露天商が並び、人々で溢れている。店の看

板も、人々の会話も、みんなアラビア語だ。ハッタ（白いショール状の布。宗教的な意味は特にない）をかぶり口髭を生やした男性も多く、女性もイスラム教のしきたりでベールをかぶっている人が多い。ここには、キツパ（ユダヤ教の男性が頭にのせる小さな帽子）をかぶったユダヤ人は一人もいない。インティファダ（イスラエルの占領に反対するパレスチナ人たちの抵抗運動）以前には、ユダヤ人も物価が安いとやってきたそうだが、今では、観光客とイスラエル兵以外はすべて、パレスチナ人である。

### 占領下の首都

イスラエルは一九六七年の第三次中東戦争で、東エルサレムを含むヨルダン川西岸を占領して以来、エルサレム全体をイスラエルの永遠の首都であると宣言している。

西エルサレムと東エルサレムの間には、目に見える境界線もなければ、普

段は検問所もない。だが、西と東とは、目抜き通りも住宅地も、同じエルサレムとは思えないほど違う。

西エルサレムの住宅地は、緑も多く、閑静だ。道路はよく整備されており、少し大きな通りになると必ず道の両脇に、歩道が設けられている。しかし、東エルサレムに入ったとたん、急に道が悪くなる。アスファルトの道は何年も修復されておらずでこぼこで、もちろん歩道などはついていない。幹線道路から少しはずれば、アスファルトさえしかれていない。そのおかげで、東エルサレムに住んでいる私の車はいつも土ぼこりに覆われていて汚らしい。東エルサレムを走っている限りは、どの車も似たり寄ったり、あまり違和感がないが、西エルサレムの友人宅を訪ねるときには、さすがに恥ずかしい思いをする。おまけに靴も土ぼこりでまっ白、かかとは泥だらけ。「あら？ いったいどこに行ってきたの？」と聞かれても、家の前の道が舗装されておらずぬかるんでいるだけなのだ。

また、風の強い日に窓を開けっ放しにしておくと、この土ぼこりは家の中まで入ってきて、黒っぽい家具はアツという間に白くなってしまう。初めてここにやってきたときは、

「ここは中東、砂漠の国、やはり、砂が多いんだなあ」

と、無知な解釈をして勝手に納得していたが、東エルサレムだけ道路が舗装されていないためだということに気がついて、ここが占領地であることを新たに認識させられる思いであった。

行政にないがしろにされている例は、他にいくつもある。

### 公園がない

子どもができて初めて気づいたのだが、東エルサレムには公園がない。

子どもにとって、外にでて砂場で遊んだり、知らない子に交じって公園にある遊具を交替で使ったりすることはとても大事だ。

そのため私は、自分の子どもを、西



西エルサレムの公園

エルサレムの公園にわざわざ車で連れていくことになる。

しかし、現地のパレスチナ人の多くは、イスラエル人の住む西エルサレムには行きたがらない。したがって子どもたちは家の中で遊んでいるか、ゴミの中から何か玩具になりそうな棒切れや何かを探して道ばたで振り回している。子どもにとつての環境は劣悪だ。

## ごみ箱にふたがない

東エルサレムの町に入ると、土ほこりが多く、家の壁がインティファダのころの落書きで覆われていて、雑然とした雰囲気になるが、それ以外にも街を汚らしくさせている物がある。ごみである。道ばたにごみが散らばっているのである。お菓子の袋や、普通の紙切れや、スーパールのビニール袋などが、風に舞っていることもある。アラブ人に衛生観念が欠けているのだろうか。決してそんなことはない。今まで四回、家を引越したが、私の大家さ

んは、みんな私よりもずっときれいだきで、毎日のように窓拭きをし、玄関に水を流して掃除をしていた。西エルサレムの小ざれいな住宅地と比べてみて気がついたのだが、東エルサレムの回収用の大きなごみ箱には、ふたがついていない。いったんごみ箱に入れたごみでも軽い物は、風に誘われ舞い上がり、風が止んで道の隅に溜まっていく。気がついて片づける人もいるが、ふたのないごみ箱では何度入れ直しても同じことだ。

また、ごみ箱の数も圧倒的に少ない。普通はそれでも通りの角ごとにあるが、ない場合は、ごみを捨てに行くのに家から五分も歩かなければならないところもある。そうすると、ごみの大袋を毎回担いでいくのが面倒になるのか、近くの電信柱を勝手にごみ置き場にしてしまう人もいる。そこに野良猫が餌を求めて群がり、ビニール袋をやり取りゴミがそこに散らかるというわけだ。ちなみに、私の友人の何人かは、実際、わざわざ車でゴミを捨てに行っ

ている。

## 住所のない街

ある日、西エルサレムの友人のアパートを訪ねたときに、彼女が、アパートの入り口で郵便受けをチェックし、手紙を取り出しているのに驚いた。

「え？ 郵便屋さん来るの？」

私の質問に今度は彼女が驚いた。

「え？ あなたの所には来ないの？」

東エルサレムには、郵便配達は来ない。各自、郵便局に私書箱を持っていて、郵便局に取りに行く。そもそも東エルサレムには、住所がないのである。イスラエルで売っているエルサレムの地図を見ても、東エルサレムのほうは、道こそ描かれているが、通りに名前がついていない。大きな通りの中には、名前がついているところもあるが、実際には、全く機能していない。住人自身が自分の住所を知らない。家までタクシーに来てもらおうとすれば、「ベイトハニーナのフアラア」家の向かいの

家」というようにその近辺の大きな家主の名を告げて来てもらっているようだ。

この事実をなかなかイスラエル人に信じてもらえず困ることがある。

例えば、空港のセキユリティチェックはそれでなくても非常に厳しいのに、パレスチナ人地区の東エルサレムに住んでいるとこんな具合になってしまうのだ。

「イスラエルで何をしているのか？」

「夫が国連で働いている」

「どこに住んでいるのか？」

「エルサレム」

東エルサレムと答えれば質問が長くなるのを知っているのです、なるべく詳しくふれないで、次の質問にいつかはいいと期待するが、なかなかそうはいかない。

「エルサレムのどこ？」

「ベイトハニナ」

イスラエル人にはこの地名さえ知らない人が多い。

「それは、どこか？」

仕方なく、

「東エルサレムだ」と答える。

「通りの名前は何？」

「知らない」

「知らない？ 知らないっていったいどういうこと？」というわけで、信じてもらえずにますます質問は長くなるのである。

### 電話の故障が直らない

エルサレムの冬は、雨が多い。風も強く嵐のような日が一週間も続くことがある。そうなると東エルサレムの電話はよく故障する。私も電話のある家に越してきて二回冬を迎えたが、すでに数回故障している。西エルサレムの電話線は、地下に敷かれているが、東エルサレムでは、黒い太い電話線が、電信柱から重たそうにぶら下がっており、町の景観を損なっている。そのうえ、雨水が電話線に入ったり、重い電話線が強い風に吹かれて、故障してしまう。

電話が故障するとイスラエルの電話局に連絡することになる。事情を話すと、

「できる限り早急に対処する」

と返事はいい。しかし二日経っても三日経っても何の音沙汰もない。仕方なくもう一度電話をすると、

「明日行く」

その言葉を信じて、次の日一日中家で待っていても結局来ない。そんなことを繰り返しているうちに、二、三週間が過ぎてしまう。

だんだんいらいらがつつり、知人のユダヤ人にそのことを愚痴ると、

「そんなことはありえない」

と信じてくれない。イスラエル側で電話が故障しても、普通は半日、長くて一日で必ず直るといふ。彼女は親切にもヘブライ語で聞いてみようと、私の電話番号を控えて帰ってくれた。

電話局からの返事は、

「場所が東エルサレムなのでユダヤ人職員は、そちら側には行きにくい。リストには載っているのを待っていて

ほしい。善処したい」

とのことであった。また、一週間が過ぎてしまった。今度は、夫が連絡をした。

「インティファダのため、こちらに訪問するには、イスラエル軍のエスコートがいる」

と言われた。そんな物騒な話も困る。うちの電話を直すためにイスラエル軍が入ってきて、家のそばで投石（インティファダ運動の象徴。武器を持つイスラエル軍に対し、何も持たないパレスチナ人が石を投げ抵抗する）が始まったりしては大変だ。

「他に方法はないのか」と聞き返すと、

「アラブ人スタッフの手が空いたときにやってもらうようにする」

との対応である。それでも何日経っても来ず、結局、大家さんの知り合いで電話局に勤めてる人に個人的に頼み、来てもらった。結局、イスラエル側で一日で済むものが、一か月余りもかかってしまった。

## 「西」から見た「東」

### ——テロリストと二級市民

西エルサレムと東エルサレムではこんなにも環境が違う。しかし、イスラエル側である西エルサレムに住む人は、このことを知らない。車で十分も走ればそこは東エルサレムなのに、イスラエル人は東側には入ってこない。

もちろんインティファダの影響もあるであろう。外国人、特に日本人である我々にとっては様々な不便こそあれ身の危険は感じないが、キッパをかぶったユダヤ人が、東エルサレムに入ってきてなんの衝突も起きないという保障はない。

だが、イスラエル内にいる限り、東エルサレムまたは占領地の人々やその生活は見えてこない。ニュースに流れるのは、イスラエル軍のジープに投石する覆面をしたパレスチナ青年の姿や、バスの爆破などのテロ事件ばかりである。そして、イスラエル内で見

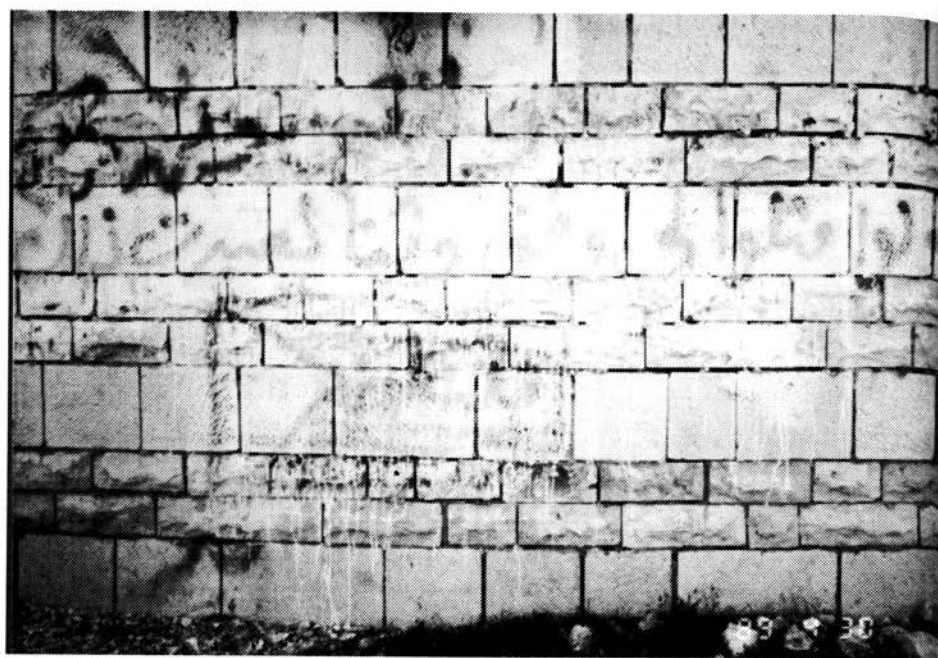
パレスチナ人は、工事現場やスーパーで汗まみれになって働いている労働者である。一般のイスラエル人にとってパレスチナ人とは、テロリストあるいは重労働をしている貧しい二級市民なのだ。

### アラビア文字が怖い

こういった状況のなかでイスラエル内に住む人のパレスチナ人に対する偏見は広がっていく。例えば、西エルサレムに住んでいる私の友人が訪ねて来てくれたとき、彼は壁一面に落書きさされているアラビア語の文字を見て、

### 「怖い」

と言った。しかも友人はイスラエル人でなく、私同様外国人である。冷静に判断して、それが偏見であることは自分でも分かると言う。しかし、毎日ニュースを聞いたり、近所に住むイスラエル人からパレスチナ人たちの悪口を聞かされていると、やはり、蛇のようになによりとした文字が怖いのだと



壁の落書き

言う。彼の正直な気持ちであろう。

また、彼が訪ねて来てくれたとき、たまたまイスラエル軍のジープが家の前に止まっていた。私の家のあたりはとても静かで、ほとんど軍のジープは巡回に來ない。しかし、ときどき家の前に止まっている。二階の窓から眺めていると、どうやら休憩しているらしく飲み物を飲んだりサンドイッチをかじったりしている。それでも、あまりいい気持ちはしない。普段は静かなところでも、軍のジープを見て石を投げ出す青年がいえないとは限らない。早くどこかに行ってくれないかと気にかかる。しかし、彼は「軍のジープがいるから安心だ」と言う。「自分の安全を守ってくれるのは、やはりイスラエル兵だ」と言う。占領地に住む我々にとってイスラエル兵とは、何の罪もない一般市民に圧力をかける恐怖の存在である。占領地自体は、イスラエル軍が入ってこない限りは静かなところだ。兵士が入ってくることによって衝突が起こるのである。彼には、私の説明が

理解できないようであった。二人の感覚の違いは、それぞれ西エルサレムと東エルサレムに住む人の感覚の違いを代表しているように思える。

## 疑われたイヌ泥棒

人々のパレスチナ人に対する偏見は、いろいろな言動に現れる。私の友人は、東エルサレムにある入植地（六年以降、占領地に作られるイスラエルの住宅地）フレンチヒルに住んでいるが、近所の子どもの飼っている犬がいなくなった。しばらくして見つかったが、その男の子は、

「パレスチナ人が盗んだ」と言っていたそうだ。

「見たのか？」

と聞くと、

「犬がいなくなった日に、近くの空き地にパレスチナ人の子どもがいたからそうに違いない」

となんの根拠もないようなことを平気で言う。

また、イスラエルにあるバス停などで、パレスチナ人がハッタをかぶって座ってバスを待っていたりすると、後から来たユダヤ人は、たいてい少し離れたところに立っていたりする。ハッタのパレスチナ人とキッパのユダヤ人が、肩を並べて座っている光景に出くわしたことはあまりない。バスの中でもしかりである。立っている乗客がいる中、空席を探して腰をかけると、隣にアラブ人が座っていることがよくあった。たとえ席が空いていても、アラブ人の隣には座りにくいということであらうか。私にしてみれば、銃口をこちらに向けて座っているイスラエル兵の隣に座るほうがもっと恐ろしい。過って発砲したりしないかとはらはらする。

## Oを発見はO？

エルサレムに来て間もなくのころ、イスラエルの国立大学へブライ大学の社会人講座でアラビア語会話を習って

いた。当時、パレスチナ側の大学はインティファダ活動の中心となるという理由で閉鎖されていたため、パレスチナ人の話す言葉、アラビア語を習いにイスラエルの大学に行くことになったのだ。それでもアラビア語の先生は東エルサレムに住むパレスチナ人、アイサという男性で、以前は中学校の教師をしていたそうだが、その後外国人にアラビア語を教えるようになったという、いつもにこにこしている穏和な人であった。生徒の顔ぶれもなかなか面白く、東エルサレムまたは西岸地区でパレスチナ援助のためやってきている外国人、イスラエルでピースナウという平和運動に関わっているというユダヤ系のアメリカ人、その他、様々なユダヤ人であった。

親子で参加していたユダヤ人のアンタとヤエルは、アメリカから移民してきたそうだが、イスラエルにやってきて、ここにはユダヤ人だけでなくアラブ人も住んでいるという事実を新たに認識した。ピザ屋などで働いてい



るアラブ人（パレスチナ人）を見て、かれらの言葉が少しでも話せれば、相互理解に少しでも役に立つのではないかと建設的、友好的な理由でこの講座に参加したのだと言う。

そうかと思えば、西エルサレムと東エルサレムのちょうど境目（六七七年の戦争以前は、ノーマンズランドだったところ）に住んでいるという熱心なユダヤ教徒のリフカは、「家の庭の葡萄の葉を食べに羊がやって来て困る。羊飼いのパレスチナ人にその旨を伝えようとすると、英語もヘブライ語も通じない。アラビア語を習って文句を言つてやる」と鼻息が荒い。

それからもう一人、キツパをかぶり髭を生やした宗教心の強そうなおじさんがいた。ある日の授業で、私たちはアラビア語の数字を習っていたのだが、先生が、

「数字の0の概念を発明したのは、アラブ人なんですよ」

といつものにこにこ顔で言うのと、キツパをかぶったそのおじさんは、

「先生、それでは、0の意味を知っているかね？」

と尋ねた。

「0の意味ですか？ 0とは、何もないという意味ですよね」

と先生が、ちよつと怪訝そうな表情で答えると、

「そうだろう。つまり、あんた方アラブ人は、何も無いものを発明したんだね。つてことは、結局、何も発明してないってわけさ」

と皮肉な笑いととともに勝ち誇ったように締めくくった。

普段、授業の雰囲気は友好的で、ユダヤ人もアラブ人も関係なく皆で平和を願つて仲よくやりましたよ、という感じで和気あいあいとやっていた。しかしこのときだけは、いつもにこにこしている先生の笑いもひきつっており、それ以上返す言葉もなく、気まずい雰囲気 flowed。

（つづく）

（写真提供・筆者）

● 東エルサレムに住んで

## 自費出版

「わいふ」へどござー

「わいふ」編集部では自費出版の制作をしています。本をお出しになりたい方はぜひご利用ください。

自分史、回想録、旅行記、童話、詩集、歌集、句集、同人雑誌、絵本、コミックまで、何でも作れます。

イラストも用意できますし、お書きになれない方のために、聞き書きのまとめもいたします。

費用はモノによりいろいろ違つてきますが、市価よりは確実に安いのです。事情を伺いご相談に応じますので、ぜひお問い合わせください。

ちなみに最近、読者からの依頼により、『紅の雲』、『春のかたみ』、『出会いに合掌して』などを制作いたしました。

皆さまも人生の記念に計画されてはいかがでしょう。

# ズバリ一言

## 「無理心中」という言葉

愛知県瀬戸市 武藤徳子（44歳）

いったい誰が考えたのか。「無理心中」というばかげた言葉。また今日も新聞の見出しに堂々と使われていた。借金苦の父親が小四の娘を連れて行方にくらまし、人気のない草むらで娘の首を絞め、自殺を図ったが死にきれず逮捕。涙が止まらなかった。同じ年ご

ろの娘のいる私には、新学期が始まって新しい生活にわくわくしている子どもが見える。クラブは何にしようとか、明日友だちにビーズの指輪を作ってあげようとか、そういうささやかな幸せが一瞬にして消えた。これは殺人だ。借金苦だの育児疲れだの病苦だの、自分が人生の困難から逃げるのに、「残された子どもが不憫」という全く甘えた、一人よがりの理屈で、子どもの人生を奪うな。子どもは、親の所有物ではない。子ども的人格も人生も自分とは別の大切なものだと考えられない愚かな親、愚かな精神状態で、抵抗できない子どもを殺すのは虐待だ。

子どもは、「神様からの授かり物」ではない。「神様からの預かり物」だ。りっぱな社会人にして巣立たせるのが親への天啓であるのに、それを放棄したら罪は重い。

しかしその罪をどこか庇うふんいきが、日本にはある。無理心中——あまりにも広く知られた言葉ゆえ見過ごしてしまいがちだが、この言葉くらい殺

された者にとって、無念な言葉はないと思う。「心中」とは、本来お互いに死のうという合意がある場合に使うものだ。近松の道行きに表わされる、絶望感の中で確かめ合う愛。私に言わせれば、究極の自己陶醉なのだが、私たちは異様に盛り上がっている。人の迷惑など考えもしない。男は封建社会の圧力に死んで抵抗したいのか、あるいは、すっかりしつばを巻いて逃げるのか、どちらかであり、女はその男への愛の証しに自分の命を投げ出す。男のために死ぬる自分に快感を感じている。近松の魔術で、愛の形として不動の地位を獲得した「心中」。現代に至っても、この言葉の持つ響きは、人々を魅了するらしく、「無理」という文字をかぶせてまで、一方が死にたくないただの殺人を「無理心中」と呼ばせる。親子、夫婦、恋人と愛情で結ばれた（事件が起きるときには、愛など消えているのに）関係で起きる殺人をこう呼ぶことで、事件は、どこか哀れを誘い、加害者への同情の匂いがする。

日本人は、家族、恋人間の暴力に甘い。他人がとやかく言うべきではないという不文律があり、そこには、家族は家長の、子どもは親の、女は男の所有物という考え方が、いまだ息づいているように思う。そのためドメスティック・バイオレンスへの対応が遅く、最悪の事態に至ってしまう。最近ようやくこのことが、社会的問題としてとりあげられ、横文字の力を借りて、新聞にぎわすようになった。その動きの隣で「無理心中」という、全く時代錯誤な言葉が、あぐらをかいているのだ。子どもにとって、最も信頼している親に殺されるというのは、どれだけ悲惨なことか、たとえ助かっても、心に残る傷は計り知れない。その罪の重さを社会が庇うのはおかしい。「無理心中」という言葉を、一日も早くなくし「子どもを殺害し、自殺」と言おう。あるいは「道連れ殺人」と言ってほしい。響きが悪くたってかまわない。大切な人生をむしり取った行為を、言葉でごまかしてはだめだ。

## 報道の偏り

奈良県生駒郡 高松恭子

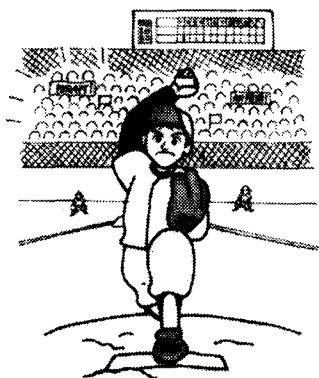
春の選抜高校野球が終わったらプロ野球のシーズンが開幕した。多くの日本人選手が大リーグでも活躍しているので、衛星放送でもそれらを朝から放送している。

確かに野球は人気の高いスポーツである。しかしなぜ日本では野球ばかりなのだろうか。高校野球が第一試合から決勝戦までひとつ残さずテレビで放送されるのに対し、高校生のスポーツの祭典、インターハイはどうだろう。教育テレビなどで夕方の一時間ほどハイレイトが放送される程度だ。

これだから日本は世界と戦えるレベルに、なかなか到達しないのだ。野球以外に目がいついていないから他の競技人口が増えない。言い換えれば、運動能力の高い選手の多くがプロ野球に取

られてしまうのだ。

一流選手への憧れからスポーツを始める人も多いはずだ。どんな種目でも一流選手の技や力には人を引きつけ感動させるものがある。そういうものを見る機会を数多く持つことがスポーツを目指す子どもたちの選択肢を多くし、多種目のスポーツ人口を増やすことになるのと思う。国もそういう底辺を広げる地道な施策を何もせず、オリンピックのときだけメダルの数ばかり云々するのはどんなものだろう。



公共報道機関であるNHKの姿勢にも疑問を感じる。どうもふるさと志向が強いようで、県の期待を背負って戦う高校野球、高校駅伝、都道府県対抗駅伝などは放送するのに個人競技はさっぱりだ。たとえスポーツ番組であっても途中でCMが入るのは興ざめだ。

高い受信料を取っているのだから、できるだけ多種目のスポーツ番組を報道してほしい。

三月のフィギュアスケートの世界選手権では二人の日本人選手がメダルに輝いたが、NHKでは競技が放映されなかったばかりかニュースでも申し訳程度に報道されただけだった。

イチローや新庄がホームランでも打ったならともかく、三振したとかノーヒットに終わったのを全国ニュースで流しているのに、この報道の偏りは何だろうと思う。

確かにスポンサーの協力を得られないNHKにとって、アマチュアスポーツの実況中継は難しい面もあるだろう。しかしニュースで、もう少し大き

く取り上げるくらいの配慮はあってもいいだろう。かりにも世界選手権である。

どんな競技でも、それに関心を持つ人が多くなり競技人口が増えることによつて強くなっていく。二十年前、世界では全く通用しなかった日本の女子マラソンがいい例だ。マラソン人気でこぞって報道したテレビ局も、レベルアップに一役買ったのではないだろうか。

現に人気のある野球、マラソン、サッカーなどが、マスコミの過熱によつて世界と戦えるレベルにまで達したことを考えると、スポーツのレベルアップに報道機関の果たす役割は大きいと思う。

民放も、くだらないお笑い番組やスキャンダルを暴くような番組にばかりお金とエネルギーを注がないで、たとえマイナーなスポーツであっても、一流のものを偏ることなく積極的に報道してほしい。

(え・佐伯和泉)

## お友達に「わいふ」をおすすめください

新しい定期購読者をご紹介くださった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

●定期購読者をお一人ご紹介くださるごとに誌代プラス送料とも一号延長。

## 「わいふ」年間分をプレゼントにお使いください

●御結婚、赤ちゃん誕生のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにどうぞ。お申し込みいただければ、新読者に、送り主のお名前とプレゼントのおしらせを同封の上、一年分、計六回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介の場合と同様に、お一人につき一号分延長させていただきます。

●また十冊以上ご購入くだされば割引がござります。

## みちこの更年期ポップライヴ



鈴木みちこ著  
自然食通信社  
本体1600円+税

八〇年代から性教育のツツパリおばさんとして活躍してきたみちこさん。七年間の更年期障害を脱出したら、現代の女性が次々相談にやってくる。

閉経を夫に告げたとき「ああ、一巻の終わりかよ」と言われて傷ついた女性がいる。コンドームを使うセックスがなくなった女性は、みちこさんに同席を頼んでや々と夫に話し、夫氏は一方的な性行為を他人の前で指摘されオタオタするのみ。彼ら五十前後の男女にこそ、人間の性のサイクルを学ぶ性教育が必要だったのだ！

体を冷やさずラクな服装で無理なく体操し、ひとりひとり違う更年期を乗り越えよう、と語る愉快な一冊。(S)

## ワークシェアリングの実像

雇用の分配か、分断か



竹信三恵子著  
岩波書店  
本体2000円+税

男も女も人間らしく働いて暮らせるのが「ワークシェアリング」？

この作品はこの言葉にまつわる私たちの甘い夢を木端微塵に打ち砕く。日本企業にとって「ワークシェアリング」という言葉は、実は「賃金抑制」の別名でしかないからだ。

著者は企業や自治体へのきめ細かな取材に基づいて、長時間労働にたずさわる正社員と、その下にパートや派遣社員が位置する日本的労働慣行のなかで、西欧的な「ワークシェアリング」が根づく困難を多角的に描き出す。この現実をどうすれば打ち破れるのか？働く女性、働きたい女性のすべてに読んでもらいたい力作である。(T)

## P、N、Gからの風



新井純子著  
新風舎  
本体1800円+税

パプアニューギニアという国は、どこにあるのだろうか、と地図を眺めれば南半球、赤道にほど近い。「楽園」「常夏」「海」「のんびり」というキーワードが浮かぶが、車を「ラスカル」と呼ばれる人に破壊されたり、著者のおつれあいマラリアにかかり、死の恐怖を味わったり。断水・停電・夜間の外出禁止令が発令され行動の自由も制限されるなど、今の日本の暮らしでは考えられない日常が繰り広げられている。悪戦苦闘しながらも、大いに異文化を楽しんでいるようすが描き出されている。世界は広く、多種多様な価値観で暮らす人々がいるのだ、ということを感じることのできる本。(A)

ブ

ツ

ク

情

報

# さよなら、 ミシン

東京都足立区 須賀まり子

「処分にお困りの、テレビー、ビデオー、ミニコンボー、CDラジカセー……などがございましたらあー……」

日曜日の朝、町内を家電製品の回収車が回ってきた。

「鳴らなくても結構です、映らなくても結構です。無料にて、お引き取りいたします」と。

スピーカーの声をそばだてていると、その回収品の中には、電気製品だけではなくミシンも含まれていることに気づいた。

「えっ、そうなの」、とその瞬間つい呼び止めそうになったが、(待て、待て)とはやる気持ちをたしなめた。

私はずっとミシンの処遇を考えていた。

わが家の庭に面した和室の六畳間の片隅には、ほぼ放置状態になった職業用ミシンが置いてある。家庭用

とは違い、折りたたむことができず、四六時中その姿をさらしている。

友だちはその部屋を覗いて、「ずいぶんクラシックなミシンね」と驚いていた。向田邦子のテレビドラマの中に出てくるようなレトロな雰囲気が漂う。買ったのは二十七年前だが、直線縫い専用の職業用なので、デザインはさらにひと昔、ふた昔さかのほったものと変わらない。

私はミシンを処分して、この部屋の模様替えをしたと考えていた。去年は辛いこと続きだったので、沈んだ気持ちを一掃するためにも、雰囲気を一新させたいと思っていた。ミシンの代わりにライティングデスクを置き、書斎ふうにとイメージは膨らんだ。そこで、年に一度使うか使わないかのこのミシンを、思い切っ

て手放そうと決心したのだった。

とはいうものの、ミシンの行き先は決めかねていた。区の粗大ゴミに出そうか、それともさっきのような回収車に持っていつてもらおうか……。すぐに思いつく方法はそんなところだが、私の若き日の思い出の詰まったこのミシンを、むざむざとゴミにするのはやっぱり抵抗がある。

できることなら誰かに使ってほしいが、しかしながら、二十七年前の代物では聞くにも気が引けてしまう。でも、もしかしたら、と私はかすかな期待を抱き、使ってくれそうな友だちに当たってみることにした。

電話をかけ始めてわずか二人目、

「そう言ってくれるのを待ってたのよ!」とワントーン高くなったK子さんの嬉しそうな声が返ってきた。

「えーっ、このミシン欲しかったの? だって二十七年前のよ」と私が驚くと、

「二十七年前なんて新しいよ。うちのお母さんののは五十年前のもの!」

「……………」

彼女の喜ぶ気持ちがこれで納得できた。

K子さんのお母さんは、ずっと仕立屋さんを営んでいた。まさにプロの洋裁師だ。

今は静かな隠居生活の身だが、知り合いの人に頼まれた分は請け負っているとのこと。その他にはパッチ

ワークを楽しんだりしている。猫をモチーフとした壁掛けや、花をあしらったランチョンマット、またキティちゃんのような猫を六匹ぐるりと丸くつないで底を張った小物入れ。私がいただいたそれらの作品群は、部屋に楽しい彩りを添えてくれている。

「お母さんきつと喜ぶよ。このごろミシンの調子がよくないって言ってたもの!」

彼女のあまりの喜びように、私のほうが感激するくらいだった。

二十代の若かりしころ、私も町の小さな仕立屋さんを夢見ていた。店を一軒構えた洋裁店ではなく、自宅を仕事場にして細々と注文を受ける仕立屋さんがいいと思っていた。

区立保育園の保母になって二年目、園の目の前の洋裁教室に夜間通い始めるようになって、そんなことを考えるようになった。

区立に勤める保母さんは、結婚しようが、出産しようが、辞める人は少ない。産休と育児休暇を取り、一年ほどするとみんな意欲的に職場復帰する。私もいつか結婚して子どもを産む。そうしたとき、先輩方と同じようにフルタイムの保母を続けられるだろうか、と不安に思っていた。労働時間のことや仕事のハードさに、両立の厳しさを感じていた。



かといって、専業主婦になろうという考えは頭の中に全くなく、何かしらの仕事を持ちながら、細い糸でもいいから社会とつながり合っていきたいと思っていた。

子どもを育てながら、無理なくできそうな仕事……。仕立屋さんはその条件にぴったりに思えたのだった。

洋服作りは中学生のころから好きで、普段着を自分で作ったりしていた。もっと小さいころは、近所の仕立屋さんのおばさんに何度か作ってもらったことがある。ミシンと裁縫台の置いてある部屋で、傍で子どもを遊ばせながら仮縫いをする。私の母は農作業で忙しく、学校から帰っても家にいることは減多になかった。母親が家にいてくれるその光景が、幼心に羨ましく映っていた。そんな体験も今回の転職に影響していることは確かだ。

私は近未来に訪れるであろう結婚生活のために、保母から洋裁師へと設計図を書き換えることにした。勤務二年目の冬、退職の決意をし、服飾デザイン関係の学校を探し始めた。

当時、区立の保育園は（特に私の園は）組合運動が活発で、園長との感情的対立なども日常的なことだった。先輩に同調しなければ意識が低いように思われ、白眼視される。そんな風潮に嫌気がさしていたこともある。



子どもは大好きで、活発な子やおとなしい子、二十人いれば全部違う個性だが、それぞれきらりと光るものがあつて一緒にいるのが楽しかった。子どもと別れることは唯一心残りではあつた……。

春、退職と同時に恵比寿の服飾学校に入学し、仕立屋さんになるための一步を踏み出した。二年ぶりの学生気分が新鮮でちよつと若返つた感じがする（二十二歳ののだが）。

保母は一見堅い感じの人が多かつたが、目指すものが違ふと人の雰囲気も違つてくることに気づいた。肩の力が抜けていて、心が自由な気がした。もちろん、ファッションはそれぞれが自分流にアレンジしたものを身につけている。それを見ているだけでも刺激になり、また、勉強になった。

夏休みを迎えるころ、私は先生から仕立て物を頼まれた。作品の仕上がりがきれいだと誉められ、腕を信頼されてのことだった。

ちよつと認められた気分になつた私は、この機会に縫い目のきれいな職業用ミシンを買おうと決めた。今使っている家庭用ミシンは機能はたくさん付いているが、針目はあまりきれいではない。その点、直線縫い専用の職業用ミシンになると、針目に安定した美しさがある。保育園の前の洋裁教室で使わせてもらつて、それは体験済みだった。ついでに、ロックミシンも購

入することにした。仕立屋さんへの道にまた一步進んだ気がする。あとは腕を磨くだけ、だ。

スタイル画や色彩の勉強も含めて三年、私は服飾学校に通つた。ウェディングドレス以外はひととおり経験した。コートやロングドレス、結婚も決まつてないのになぜかマタニティドレスまで作ってしまった。

入学時そこそこあつた貯金も乏しくなり、夜のアルバイトをしながらの通学だった。徹夜をして作品を出すこともときどきある。それでもまた授業を受けて、夕方からアルバイトをして帰つてきていた。あのころはそんな元気があつたのだ。

学校が修了すると、私はひょんなことからスタイリストの道に足を踏み入れることになつた。本当はメーカーのデザイン室に入りたかつたが、二十五歳という年齢がネックになつて振り落とされた。入社して何年もしないうちに結婚退職では困るというのだ。私も今は予定はないが、いざれしたいとは思つていたので、強く出ることはできなかった。そんなとき、新聞広告で見つけたのがスタイリストの仕事だった。仕立屋さんはいくまでも結婚してからの仕事。それまでは社会に出ていろいろな経験をしてみたかつた。

このころ、スタイリストといつても一般的にはさほど知れ渡つてはなく、まだはしりの時代といつてもいい。私自身、具体的な仕事の内容もよく知らないまま

飛び込んでいた。

三か月ほど有料の講習を受けさせられ（内心うさんくさく感じたが）、初めて就いたのがファッション雑誌の仕事だった。確か、冬物のニットの特集だったと思うが、ファッション関係は半年のずれがあるようで、冬に水着のファッションショーがあるように、夏の暑い最中にウールのニットの撮影がある。それを着るモデルさんは、我慢大会みたいなものだ。私はといえば、もちろん、アシスタントからの出発である。

一つのニット製品に対して、スカートやパンツなどをコーディネートしていくのだが、帽子、手袋、マフラー、靴などもすべてメーカーさんにアポイントを取って借りてくる。もちろん、借りてきた物は、汚したり傷をつけたりしてはいけない。靴の底にはガムテープを貼る作業もある。とにかく丁寧に扱い、借りてきたときと同じ状態で返さなければいけない。両手いっぱい荷物を下げて、電車でメーカーさんを行き来する姿は、流行の先端の職業というよりも、肉体労働者そのものだ。

その次に、知人の口利きで某有名出版社の婦人月刊雑誌編集部に所属した。いろいろな現場を見て勉強したほうがいいと、先輩スタイリストのアドバイスだった。ここでは、男性編集者について勉強させてもらった。

仕事の内容はほぼ同じだが、大手の出版社の大きな違いは、足が電車からタクシーに代わったことだ。借り出しや返却にえっちらおっちら重い荷物を下げて歩く必要がなくなった。気持ち的にも肉体的にも大助かりである。

アシスタントの最終修業は、主にテレビ関係の仕事をしているフリーのスタイリストに付いた。フジテレビ「夜のヒットスタジオ」の女性司会者の衣装を担当していて、お供で初めてテレビ局に潜入したときは、すっかりミーハーになっていた。コマージュでは「ヒデキ感激！」のカレーや、「サップポロ〇〇」のラーメンなどだが、どれもイメージにあった衣装を探すためには、絶対妥協しないことを教わった。足を棒にして店から店へ見て回る。どうしても見つからず、閉店後の店に裏口から入れてもらったこともある。

そういえば、スタイリストになって初めてミシンの出番があった。あるコマージュでイブニングドレスが必要になったのだが、それを私に作ってほしいと言う。仮縫いをして一晩で仕上げなければいけない。私は、服飾学校時代の友だちの家に泊まり込んで、手伝ってもらいながら間に合わせた。仕上がったばかりの真っ白なサテンのドレスを持って、スタジオに向かうころは頭も体もふらふら状態。しかし、現場に着けばそんな顔もできない。つくづくハードな仕事だと思っ

た。

でも、完成したフィルムがテレビで流れたときの感激はひとしおで、そこにこの仕事の魔力があるのかもしれない。

その後、一人立ちして雑誌の仕事を一本終えたころ、父が半身不随になった。もともと肝硬変を患って入院を繰り返していたのだが、少し家に帰っていたと自宅療養していた矢先のことだった。

しばらくは母一人に介護を任せて仕事を続けていたが、父のおむつ交換は容易なことではなかった。兄弟夫婦も同じ屋根の下にいたのだが、あのころは若かったせいか、手助けは期待できなかった。



をすることにした。

このとき、母の言葉を振り切って仕事を続けていたら、少しは名の通ったスタイリストになっていた、かもしれない。私の先生のフリーのスタイリストの人が「もったいないね。いいセンスしてると思ったのに」と

やがて母が腱鞘炎になり、私に仕事を辞めてほしいと言う。折しも折り、スタイリストとしてこれからというときなのに……。私は判断に迷い苦悩した。

しかし、父の残された時間と私の人生の残された時間を比べたとき、今、何をすべきか、答えは必然と決まってきた。母と一緒に父の介護

言ってくれた。アシスタントをしていたところは誉め言葉などももらったことなかったのに……。でも、それだけでもほんの少し報われた気がする。しよせん私は、親を振り切れる性格ではないのだ。日の当たる場所に歩いていく人は、ある種割り切った考えもできなければいけない。

五か月後、父を見送った後、私は喪失感も手伝ってか、もうあのハードな仕事に戻る意欲は失せていた。二十七歳の夏だった。

二年後の冬、結婚生活に入ったが、現実には町の小さな仕立屋さんののんびりやっている場合ではなく、手つとり早く現金収入の望めるパートに精を出した。兄の喫茶店でコーヒーを入れながら、「いらっしやいませー」と笑顔を振りまいていた。まったく一貫性のない人生と笑われてしまいそうだった。

以降、何度か頼まれて仕立て物をしたことはあるが、ミシンはほとんど部屋のインテリアの一部となっていた。

その後、難病の一種を発病することによって子どもも断念せざるをえなかった。

根を詰める洋裁なども不向きとなった。

未来の結婚生活のために、保母から転身したあのころの夢は、本当に夢と消え失せていたのだった。

そんな思い出のミシンを喜んでもらってくれる人が見つかった、胸のつかえがおりた気がする。私がいきれなかった分、K子さんのお母さんの手元で、ミシンも存分に力が発揮できると喜んでいるはずだ。

私は最後の別れに、きれいに拭き、点検をした。ミシン屋さん呼び、ベルト交換や念入りの調整もしてもらった。初め、動きはよくなかったが、一生懸命踏んでいるうちにリズムカルな動きになった。「ミシンは踏んであげるのがいちばん」服飾学校の先生の言葉だ。

うらかな春の日、運送屋さんの手によって丁寧な梱包され、トラックに積み上げられた。青春の日々に別れを告げるようで、私はしんみりした。「さよなら、ミシン」

重い扉ががっちり閉められ、車はゆっくりと走り出した。私はその場所から一步も動かず、追いかけたりはしなかった。

しばらく、ミシンのあった場所に置くライティングデスクを物色していたが、半月ほどしてやっと適当なものが見つかった。和室にマッチするシンブルなデザインで、甥にもらったインターネット機能付きワープロもセットした。「うーん、なかなかいい雰囲気！」私は遠くから眺めては悦に入っている。

設計図がまた新たに書き換えられた。

(え・荒田ゆり子)

# FREE TALK

## フリートーク

### お日様のような子

埼玉県新座市

木原紀子

お日様のような子が来て苺もぐ

この句は、最近ある日のテレビで見たNHK全国俳句大会大賞に入選した作品である。

作者は東京の七十歳の女性。苺狩りをしたとき、まっかなほおのとても明るく元気な子を見かけ、思わず口をついて出た句ということだ。私もこの句を見たとき、何かすがすがしい感じを受け、その光景が目につかぶようにさえ思えた。

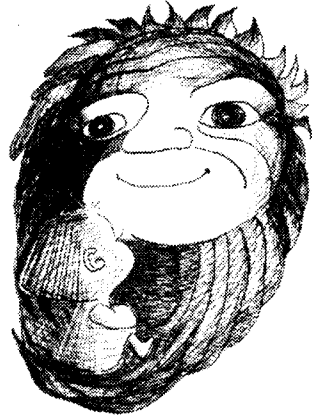
実際にお日様のような子はすぐ近くにもいた。小学生の学級崩壊など叫ばれる昨今であるが、そんなことには全く無縁な邪気のない子どもがときどきいることも事実ではある。

まっかなほつぺたをした小学二年生のA子ちゃん、素朴なおかつぱ頭は、

昔の子どもを思わせる。彼女とは二年間、放課後保育室でつきあったが、ただの一度も悪びれた態度など見たこともなかった。いわゆる子どもらしい子どもを最近見かけなくなっているが、彼女は数少ない無邪気な子なのだ。

まちがっても「むかつく!!」「うざったい!!」などという言葉をはくことは聞いたこともない。そうかといって大人に媚びるわけでもなく、天真らんまんという言葉がぴったりの彼女は、お日様そのもののなのだ。

昨年の夏休み、保育室からみんなで映画「フランダースの犬」を見に行ったときのことだ。物語の途中で、一緒に暮らしていたおじいさんが死んでしまい、少年と犬のパトリシアが家を追い出されるシーンになると、彼女はおいおい泣き出し、とても席にすわってられない状態になってしまった。泣きじゃくる彼女をいったん外に連れだしたが、他の子どもたちは、わいわいとはやしたてる子もいた。それを見て、障害のある子たちもいつせいにもらい



泣きしてしまった。

今どきの子は、さめて、あっけらかんとしている子が多い中に、このような感受性の強い子どもを見ることは最

近では珍しかった。すっかりその物語の中に入りこんでしまっている彼女を見て、その純な心に、そっと抱きしめてやりたい気持ちだった。

その数日後、校庭で見かけた彼女は、明るく元気な、お日様みたいな顔をして走っていた。太陽のさんと降り注ぐなか、赤いスカートをゆらしてボールを追いかける彼女を見て、将来どんな娘さんになるのだろうかとはほえましい気分になった。

ふと立ち止まったお日様は、ふり返り、白い歯を見せて元気に笑っていた。

## 故郷の家と 良ちゃん

大阪市鶴見区 家守恭子（72歳）

瑜伽山蓮台寺は、岡山県の児島半島一帯に檀家を持つ由緒ある名刹である。

春秋二回、お彼岸の前後にお寺が刊行する「蓮の台（うてな）」には貴主の法話を始めとして、行事、寄進、新檀家の紹介や、檀家の訃報を知らせる

欄もある。

昨年、郵送された「蓮の台」の物語者の中の一行に、知ったような名を見つけ目がくぎづけになった。

松香良平 七十歳 倉敷市児島上ノ町……あの良ちゃんだ。大工見習いの良ちゃんに違いない。姓はたしか松香と聞いていた。一時期、自転車で毎日わが家へ来ていたが、上ノ町からとか言っていた。なんだ、年は私と同年だったのか……。

昭和十七年ごろ、大阪で商売をしていた父が（故郷に錦を飾る）思いもあつて、生家の倉敷市児島に家を建てようと思ひ立つた。地の利を考えて、ローカル線の小さな駅ではあるが交通に便利、国道に沿ったところへの意向だった。祖父は先祖伝来の地を離れないと反対したそうだ。やむなく山の中腹の古い家を一掃し、土台の石垣から新しくするのは戦中、戦後の十年近くを要したと思う。

私が疎開して田舎の女学校へ通い、卒業し結婚、出産の期間にも重なる。



良ちゃんの「おはようござんす」と挨拶して仕事準備にかかるのを横目に学校へ行き、帰宅ごろには片付け、掃除をして「さようなら」を日課のように耳にした。

体格がよく、本来の大工仕事に加え、大八車で坂道を木材、石、瓦を運び上げるのも良ちゃんの力を借りていた。仕事をいとわず、きびしい棟梁によく仕える真面目な人柄に、祖父母はいたく気に入っていたらしい。すでに寝たきり起きたりの祖父が私に「良ちゃんを婿にしては」と言ったこともある。

祖父が亡くなったときのことも忘れられない。容体の急変に、良ちゃんは自転車で川をさかのぼって伯母（祖父の姉娘）宅へ、私は坂を下って電車に乗ってまた歩いて叔母（妹娘）宅へ知らせに行ったが、叔母を伴って戻り着いたのは昼になっていた。何しろ電車の回数が少なく、少し年上の叔母と五月の陽気に誘われお喋りが弾んでしまった。坂の上で待つ良ちゃんの「ご隠居亡くなられたよ」と少し怒ったよう

な悲しげな顔が目には浮かぶ。

祖父の葬儀や、年が明けての私の婚儀も自宅で行われたので、棟梁が良ちゃんを指図して、テント張りや臨時の柵を取り付けたり、職人お抱えのイベントとなり、その意味では父の（故郷へ錦……）もいくらか実ったことになる。

良ちゃんの訃報を知って後、児島へ帰った折、上ノ町、松香を頼りに電話を入れてみた。奥さんの話では、家守さん宅の建築で修業期間を終え、その後独り立ちして一軒建てたのみで地場産業の繊維縫製に替わり、その商売も近々閉めるとか。見知らぬ未亡人に悔やみを述べ、香料を送った。

時としていぶし銀に輝く屋根瓦の、故郷の家も半世紀を経て古びてきたが、離れ座敷に寝て、えもいえぬ安らぎを覚えるのは、もう私しかない。

亡父の思惑よりも世の変遷は激しくて、もしも国道沿いに家を建てていたら、さぞかし騒音と埃に悩まされたことと思う。

## 幼児と ボランティア

東京都立川市 畑中珠美

息子も一歳を過ぎ、そろそろ働きたいなと思っていたところに、二人目を妊娠。ならば子連れOKでしかも何か人のお役に立てることをと、ボランティア相談室に問い合わせたところ、身障児のプレイルームとともに遊ぶ人を募集中とのこと。さっそく息子を連れて福祉センターに行ってみた。

そこは高齢者や身障者のデイサービスをやっている建物で、週に二回プレイルームを開放しているという。職員さんの話をうかがっていると、ちょうど車いすの方がロビーに入ってきた。職員さんがあいさつすると、車いすの方は折れ曲がった手首を少し上げて応じている。私は息子を抱っこして（私もあいさつしたほうがいいのかな、で

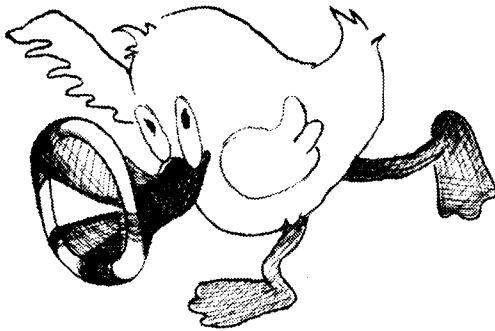
も知らない人だし）と思いながらあいまいな笑みを浮かべていると、息子はバイバイしているではないか。車いすの方もそれに気づき、笑顔で手首を揺らしている。初めての場所や人にはいつもなら緊張するのに、私より自然にコミュニケーションをとっている姿を見て、（これなら楽しく遊べるかも）とホッとす。

プレイルームには未就学児から青年までの数名とお母さんや、元養護教員、保育士を目指す学生らがいた。突然大きな声で意味不明の言葉を発する青年や、ずっとにこにこ顔で私に触れんばかりに近づき息子と遊ぼうとする青年。「この中に健常児が入ってくると、その遊び方を見て学ぶことができるんです」とボランティアの方が話す横で、にこにこお兄さんが息子をボールで誘う。私にぴったりにくついていた息子も、ボールを追ったりおもちゃ箱をあさったり、徐々に離れていく。ボランティアの方も「うわあすごいねー!」「これなーんだ?」とうま



く盛り上げてくれる。

(思ったより案に慣れてくれたな)と眺めていると、いきなり「グヴァーッ! グヴァーッ!」とけたたましい音。



アヒルのくちばし型のラッパをくわえた小学生の男の子が、息子の耳元で思いつきり鳴らしたのだ。「何やってんの! やめなさい!」「小さい子がびっくりするでしょ、だめだよ」怒鳴るお母さんとたしなめるボランティアの方。大泣きの息子を抱き締め「驚いちゃったね、大丈夫だよ。デイズニールンドの دونالد とおんなじ声だったね」と安心させようとしたが、いつもなら眠いときにしかやらない指しやぶりが始まり、それがなかなか止まらない。気分転換に男の子から離れて別のおもちゃで遊ばせる。

しかし、何度注意されても男の子は息子側に来てはグヴァーッ! グヴァーッ! で、まるで威嚇しているようなその音にまた泣く。新入りのチビがちゃはやされて、きつとおもしろくないのだろう。お母さんとボランティアの方が注意して、これで私まで注意したら男の子の居場所がなくなってしまう。息子には慣れてもらうしかない。「びっくりしたねー、Donald お兄ちゃん

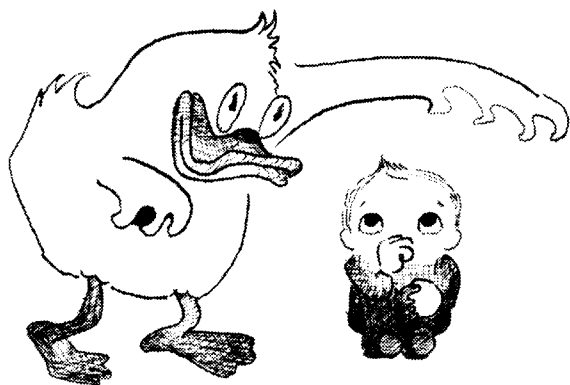
また来たねー」となんでもないふうを装う。

「ベッ!」男の子が息子につばを吐きかけた。「こらっ!」「だめだよそんなことしちゃあ」お母さんとボランティアの方の声が飛ぶ。私たち親子は、どうしてここにいるんだろう。場違いだったんだろうか。未熟な親子には無理なのか。

「あの、これ」にここにお兄さんから、折りたたんだチラシが入ったビニール袋を渡される。いつの間に書いたのか、手紙らしい。

「うわあ、ありがとう!」このお兄さんと息子は気が合ったのか、プレイルームが終わって退室するときも、二人で手をつないで廊下を歩いていた。

帰宅後、息子に変化が現れた。嫌なことがあると「ベッ!」とつばを吐くようになったのだ。これは一か月ほどでおさまったものの、家でも外でもやるので、少し面くらってしまった。それとお兄さんからの手紙にもギョッとした。「ママ(私)のおひぎでやさし



くえほんをよんでほしいです」「ママのおっぱいがのみたいです」

身障者が働く場で生活指導員をしている友人に相談すると、「気にしないほうがいいよ、こういうのは書いてる

本人もすぐ忘れちゃうんだから。身障者は一回、二回会っただけじゃわからないよ。そのうち慣れてきて、そういう手紙をもらわなくなると『なーんだもうおっぱいいらなくなっちゃったのお?』って逆にさびしくなるよ」と笑いとばされた。

「またぜひ来てください」とボランティアの方に声をかけていただいたものの、プレイルームが午後でちょうど息子のお昼寝タイムとかち合うことを言い訳に、それ以来足が遠のいている。

## 犬を食う男

奈良県大和郡山市

錦織むつ子（53歳）

「春が来た」。しかし待ち遠しい春といふほどのものでもなく、なんとなく春が来た。とでもいえないのか、それとも、いつの間にか春になってしま

った。とでもいったほうがいいのか。とにかく春が来た。

待ちに待った春、という感じが年々薄れていくように感じられるのが少々さみしい。

庭にでてみた。春のかおりに満ちた風がほおをなでる。霞がかった空に浮かぶまわた色した雲。母のぬくもりのような日差しに包まれて、花をながめる。ささやかな幸せを感じるひととき、かたわらには片時も離れようとしないう愛犬がいる。私をみつめる無垢な瞳。あの日と同じ瞳の中に、ほおをなでる風の中に、遠い日のできごとを思い出す。

私が小学生のころのことであった。たぶん、弟がどこからかもらってきたのか、ひろってきたのか小犬がいた。まっくらでコロコロしていた。黒くまんまるの瞳。それは今日の前にいる愛犬そのままであった。

「ただいま」といつものように家に帰った。ちぎれんばかりに尾を振り、

跳びはね、迎えてくれるはずのクロがいない。不吉な予感が走った。家の中にいたはずの父に、クロはと聞いた。いない。どうして。くれた。だれに。あいつ。あいつって、だれ。あいつさ。どうして。くれていったから。とりかえしてきて。もうおそい。うそだあー。

悲鳴とも、絶叫ともいえない、声にもならない声をだし、その場にしゃがみこむ。

あいつは突然あらわれた。名前も、家も定かではない。足にゲートルを巻き、カーキ色の上下、帽子。肩から斜めにかけてカバン。忘れようと思っても忘れられないあいつは、「犬買いが来た」「犬さらいが来た」、と村の人々のうわさになっていた。犬を飼っている家を見つけては安く買いあさり、その肉や毛皮を売っていた。

村や町、人の集まるところに傷病兵などが白い衣服に身を包み、手や足に包帯を巻き、物乞いをする姿が見受けられたころのこと。

クロのいなくなる数日前、とうとうあいつがあらわれた。数人の男たちの中にあいつは陣取り、戦争に行ったときのことを自慢しているようであった。聞きたくもない話が耳に入ってくる。「人間いざとなりやあなんでも食える。食えねえもんはねえ。人間の肉だつて。でも人間の肉はすっぱくてうまくねえ。猫の肉は煮ると泡がたつ。犬の肉はうんめえ。みそ煮にするとうんとうめえ」。

耳をふさいでもあいつの下卑た話は聞こえてきた。戦争に行けなかった父は表情こそ見えなかったものの、かなり熱心にあいつの話に聞き入っていた。あいつにクロをやったということとは、もう生きてはいないということ容易に想像できた。

そのころの田舎では肉食用のうさぎを飼っていた。正月近くになるとわが家でも父がうさぎを殺し、皮を剥ぎ、内臓を取りだし、解体するのを何度目にした。子どもにはとても耐えがたい光景であった。クロが同じじめにあっ

ている。それは、わが身を八つ裂きにされることに等しかった。ころころかわいい小犬から、成犬へとなりかかり、私の唯一の心の友となったやさきでもあった。

くれといったから、くれてやった。と父は言った。しかしただでやるわけがない。子ども心にそう確信した。それもわずかな金額にちがいない。わずかな金のために犬を売らなければならぬ貧しさも悲しかった。

いつもひとり、物思いにふける裏の土手にいった。思いっきり泣いた。泣くこと以外なにもできなかった。あとからあとから涙はあふれた。涙つてどうしてこんなにでるのだろう、そう思った。

今朝学校へ行く前に、ちぎれんばかりに尾を振り、甘えていた。じつとみつめる瞳、あのとときの黒い瞳を忘れることができない。言葉こそ通じあえないものの、いや、だからこそ通じあえたなにかが、魂といえよよいのか、心といえよよいのか、それはいったいど



こへ行ってしまったのか。生命あるものが、死んだらどうなるのかを考えた。考えても何もわからなかった。涙にかすむ空を見上げたとき、そこに確かにクロがいた。真綿のような雲が、クロの形をしていた。クロは雲になったのだ。そう自分に言い聞かせた。

その夜、夢を見た。あいつがまたや



ってきた。あいつにむかって、「クロをかえせ」と叫んだ。「しらねえな、いまごろはここだろうよ」とボンボンと腹をたたいた。あざわらう口から、まっ赤な血のしたたるのをみた。目は獣のように、ギラギラひかっていた。

「ひとごろしい」とさげびながら、男に跳びかかった。あいつはいともか

んたんに、私をはらいのけ、山の中へ消えた。たくさん毛皮を肩にかついで。

その後、あいつは二度と現れなかった。長い夜が明けた。もしや、クロが帰っているかも知れない。いそいで庭に出てみた。主を失ったくさは、そのまま残されていた。絶望的な気持ちで振り仰いだ空に、朝日がまぶしかった。「あーっ」とおもった。「あっ」ではなく「あーっ」であった。そして、いつものようなあわただしい一日がはじまっていた。なにこともなかったかのように。そこで初めて思い知った。どんなに大切な命がこの世から消えようと、何も変わりはないということ。たとえばこの私が死のうとも、太陽は昇り、すべての自然、人々の日常はなに一つ変わりはしないということ。

厳しい冬が終わり、まちわびた春がきたころのことだった。やさしい風の中に、日だまりの中に、あの日の記憶が、あざやかによみがえった。

# 憧れのオーブン

神奈川県座間市 青島典子（46歳）

私の年齢だと田舎者にとってオーブンは憧れでした。ケーキが、シュークリームが出てくる箱ですから。ところが私の父はうなぎのかば焼きを家で作らせるために、昭和二十年代から日立の電気オーブンを購入していました。

緑豊かな田舎ではうなぎさえも川へ行けば、畑のなすや胡瓜のように手にはいるのかというときにあらず、うなぎの生け簀が自宅の井戸のそばにあったのです。

子どものころ、「今晚はうなぎよ」と母に言われるとザルを持ってスカートの裾をパンツの中に入れて、生け簀のうなぎをすくったというわけです。この生け簀、税務署の職員をもてなすために作ったもので、今思うと、行った先でうなぎをご馳走になって正しい

税の査定ができるのでしょいかね。生きたうなぎを買ってきて生け簀で飼いながら、税務署のやってくるのに備えていた時代があったのです。

母のうなぎをさばくようすは面白く、毎回興味深く眺めていました。骨まで大切に料理して、オーブンの天板いっぱい骨せんべいが出てくると、おいしくかじったものでした。それなのに今の私は穴子やうなぎがさばけず、大変残念です。生きてるのが怖いのです。

中学生になるころにはオーブンは二代めのターダのガスオーブンになっていて、ケーキやグラタン、パンも作り始めました。高校生になると学校の自販機の牛乳の補充に来た業者に、今度来るときに生クリームを持ってきて、職員室の冷蔵庫に入れておいてと頼んではケーキパーティでした。自宅にオーブンのある人は少なく、生クリームの入手方法を誰も知らない田舎でしたから、ずいぶん鼻が高かったものです。生クリームの香りづけにラム酒を使

おうとビンのふたを取った途端、男の子が一人ぶつ倒れてしまい、「実はお酒、駄目なんだ」と言われて、飲みそうな顔をしてるのにと女の子全員で顔を見合わせたこともありました。

新婚時代は狭い台所でオーブンはありませんでした。それで子どものころのテレビ番組のアメリカのドラマ『ローハイド』に出てくる、料理番のウィッシュボンを思い出していました。

西部からシカゴの食肉取引所まで生きた牛数百頭を連れて、カウボーイたちの野越え山越えの旅の物語。ある田舎町を通過するとき、ウィッシュボンは未亡人に恋をしてしまうのです。しかも彼女の家の台所には素敵なオーブンがあるのです。オーブン付きの未亡人！ 毎日キャンプ料理を作っていた料理番のウィッシュボンは悩むわけです。たき火とポークアンドビーンズ、コーヒーがよく出てきました。

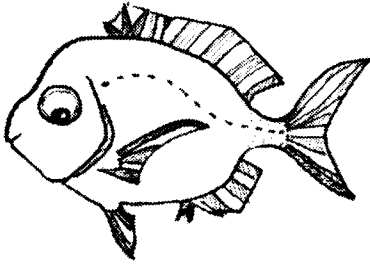
数年後フランスのショルテス社のガスオーブンを手に入れた私は嬉しくて嬉しくて、鶏の丸焼きをよく作りまし

た。料理書をあれこれ読んで、ウィツシュボンが本当に鶏の骨だとわかったときの面白さ。英語の辞書を引くと鳥の胸の骨、叉骨とあり、この骨を二人で引き合って長いほうを取ると願いごとがかなうという——と出ています。

鶏のほか、冷凍のターキーにも挑戦しましたが、いくら詰め物に凝ったところで肉そのものにあきてきて、今は鯛の塩焼きに代わりました。魚料理の本を読んでいて鯛のウィツシュボンに

会いました。

鯛の鯛という、鯛にそっくりな骨で鯛の頭の部分のカマに近いところに左右一対あって、縁起がよいのだそうです。鯛の頭をバラして見つけたときは、家族で素直に感動しました。面白くて図書館に行くと、ちゃんと『鯛の鯛』といういろんな魚のその骨を集めた写真集がありました。家庭のお祝いの食卓での楽しみは、外国にも日本にもあるものですね。



## 更年期 クライシス

千葉県船橋市 祥 まゆ美

その晩、朝から耐えていた生理痛が、激しくなつて怖くなった。こんな痛みは初めてだ。仕事場にいる夫に電話した。その間も子宮のあるあたりが、キリキリと刺されるほどでうずくまってしまった。陣痛に似た痛みだ。

帰るなり夫は私のような様子を見てけわしい顔で言った。

「夜間救急に行こう」

四年前に出産した病院なら何かと安心だと思い、車で三十分ほどにある大学病院へ連れていってもらった。

「こんなに痛い生理痛は初めてよ、何だろう」

「とにかくみてもらおう」

幸い、着いてすぐ、産婦人科外来で診察してもらえた。安心したせいか、そのときは少し楽な気がした。先生は

内診しながら言った。

「生理痛だと思えますよ。今は検査ができないから、明日いらしてください。痛み止めの座薬を出しておきます」

何だか拍子抜けしてしまった。痛みそのものは、ガマンできるくらいに治まっている。とりあえず家に帰った。

「入院かと思ったヨ」夫がポツリと言った。

翌日、朝一番で検査を受けに出かけたのだが、痛みもほほなくなり、見たところ、異状はないとの結果にとりあえず安心した。これはいったい何だ……。このところ、生理周期がバラバラで、そろそろ更年期に入ってきたようだと心づもりしていた。しかし更年期と激しい生理痛とは結びつかない。

昨年末、そんなことがあって以降、次々と体調が崩れてきた。普段、割と病気もせず、気力体力もあるほうだと過信がちな私だった。

朝、起きると頭痛。目まいやふらつきがする。肩から首すじまで、ゴチゴチに凝り固まって痛い。マッサージ、

湿布薬、風呂、アロマテラピー、リラックスさせる方法を試して、何とか楽になろうとした。吐き気と食欲不振が

てますから、ほぐしてください」。安定剤と筋弛緩剤をもらう。そのうち、目の疲れがひどくなり、目の玉の周り



続くので、医者に診てもらう。

「ストレス性の頭痛。肩凝りから来

が痛くて眼科に行った。検査では特に異状ないという。疲れ目くらいで来る

な、という口ぶりにガツクリした。私は必死なのだ。不安なのだ。苦しいのに分かってもらえないのは、本当につらくせつない。

五十歳を中心に、女性ホルモンが減少、停止する女性たちの多くは、更年期といわれる症状を体験する。自分の身体にそれらが起こるまで私はほとんど知識がなかった。あわてて情報をリサーチしてみると、女性センターなどで、更年期女性対象の講座や悩み相談の窓口が開かれていたのを知る。更年期前後の心身不調に対応するさまざまな方法を有効に活用することで、より快適に、この時期を乗り切ることができようだ。

女性のための生涯医療センターや女性専用外来も、近年ようやくオープンし、待ちかねていた女性患者が殺到しているという。「メノポーズを考える会」などでは更年期の知識と対策、交流会などの情報を広める役割になっている。

今まであまり表立って語られず、暗

いイメージを持たれていた更年期だが、女性の平均寿命八十四歳となった今、健康で長生きすることは自然な望みだ。不調をやみくもに我慢することはない。気づかぬうちに、自律神経の乱れに起因する多くの症状に私も悩んでいたようだ。ただでさえ女性たちのかかえるストレスは生涯を通して大きい。結婚、妊娠、出産、育児にと、激しく体力気力を酷使し、閉経前後に更年期障害。大切な心身をいたわって恥じることはないのだ。

このごろ私は、自分の心の声を聴くように気をつけるようになった。疲れたとき、目を閉じて、ゆっくり呼吸をする。できれば少し横にねて、体中の力を抜いてみる。五分か十分でもそうやって、心にみみをすましていると、自分が緊張していることに気がつく。

追われるように用事を片づけ、息もつかずに一日を走り抜ける毎日では体が悲鳴を上げているのにさえ気づけないだろう。まして人生の晩秋をむかえるころなら、そんなに無理はできなく

であたりまえだ。自分の心と体に、「ありがとう」を、一日一度はつぶやいてみる。この先、本格的なメノポーズ世代に入るが、自分自身をみつめるチャンスが来たと思ってじっくりつき合ってみようと思う。

## おばあさんの甘酒

埼玉県新座市 田口香織

師走の寺院は観光名所のせいか縁日が出ていて、大変賑わっていた。娘はチョコバナナが食べたいといい、私は甘酒を一杯買った。

お祭りや神社の境内で甘酒を売っていると、私はいつも買いたくなってしまう。それから紙コップになみなみと注がれた薄くてさらさらした液体を手にとり、また失敗したなあと少し後悔する。一口飲んで、後悔が失望へと変わる。



「ママ、何飲んでいるの？」

娘はチョコで口のまわりをベタベタにしながら聞いてきた。私はその熱すぎて甘すぎる液体をもてあましながら、甘酒、と短く答える。

「どうして甘酒なんか飲んでるの？」

いつもお酒を飲まない私が、お酒と名のつくものを飲んでるのを不思議がって、娘は無邪気に聞いてくる。私は娘の顔をハンカチでふきながら返事をした。

「ママの小さいころの思い出なんだあ」

「ねえ、どんな思い出なの？」

娘にせかされて、私は子どものころのことを上手に思い出そうとした。

「ママが小学一年生のときにね……」

幼稚園のときいじめられっ子だった私は、小学生になったら強くなろうと思っていた。

入学式の翌日「あそぼ」と声をかけてきたのが、かずちゃんだった。こん

なにあってなく友だちになれるんだ、と拍子抜けしたのを覚えている。私とかずちゃんは、毎日のように遊んだ。

かずちゃんの家は、お母さんが働いていたのか、おばあさんが留守番していることが多かった。和服を着て、いつもにこにこしていた。部屋でどんなにさわいでも怒られなかった。ときには近所の子が十人ぐらい集まって、庭でおにごっこをしたり、空き缶を集めて庭に山積みしたりした。でも一度も怒られたことがなかった。

冬になると、おばあさんは甘酒を出してくれた。それはミルクの中にほんの少しだけコーヒートをたらしただような色で、トロリとしていた。ピンクのバラの模様で金の縁どりがしてあるコーヒータ碗になみなみと注いでくれた。

おばあさんは、おいしいから飲みなさい、と言ってくれた。甘酒というものを一度も飲んだことのなかった私が少しためらっていると、かずちゃんは、「おえっ、すぐくまずいんだよ、それ」

と言った。飲まないほうがいいよ、とも言った。

私はそのくせのある匂いの飲み物に興味を持ったが、かずちゃんには逆らえなかった。

コーヒータ碗の上のほうを少しなめて「まずい」と言った。生クリームか濃い牛乳のような感じがした。実際のところはどんな味なのかよく分からなかったのだが、まずいというよりはむしろ、おいしい気がした。ただ、かずちゃんに調子を合わせたほうがいいんじゃないかな、と感じていた。

ほかの日に遊びにいくと、また甘酒を出してくれた。かずちゃんと私は飲まなかった。

次に遊びにいくと、その日も甘酒が出た。

ほんの少しなめた。おいしい気がした。

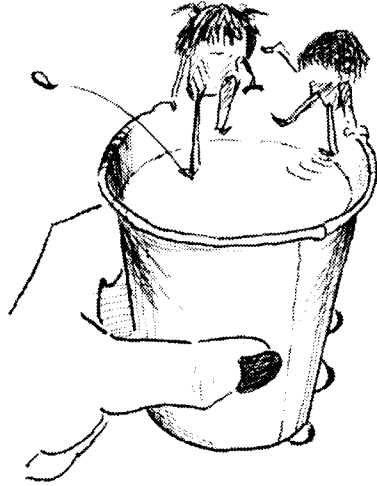
いつ遊びにいつても甘酒が出てきた。でも私はかずちゃんに、おいしいよ、と言う勇気が出なかった。とうとうかずちゃんは、

「こんなまずいもの、出さないでよ」  
と言ってしまった。

おばあさんは少し悲しそうな顔をして、それで、おしまい。

春になり、クラス換えがあると、私  
はかずちゃんとはほとんど遊ばなくな  
った。

ここまで話をして、私は自分がどう



して甘酒が好きなのか、やっと思い出  
した気がした。

今までは、甘酒を買ったり、自分で  
酒かすから甘酒を作ったりしていて、  
やっぱりあの味とは違うなと感じるだ  
けだったから。そして今は、おばあさ  
んの甘酒を飲めばよかったという後悔  
がある。

「結局ママは、甘酒を飲みそこねた、  
ただの食いしん坊なんだよね」

娘に、なまいきを言われた。

それは確かに正しい。だけれども、  
すんなりと認めたくない気がした。

「そういうところも半分はあるけれ  
どねえ。ママが本当に言いたかったこ  
とは、他人に流されないで、自分の意  
見を言いなさい。そういうことなのよ、  
わかった？」

中途半端なお説教をしてしまったの  
で、娘はどうでもよくなってしまった  
ようだ。あらぬ方向を向いている。私  
も残りの甘酒を飲みほして、そっとた  
め息をつく。やっぱりおばあさんの甘  
酒、飲めばよかったなあ……。

でも、いったいどうして飲まない甘  
酒を毎回すすめてくれたのだろうか。  
もちろん、かわいい孫に飲ませたかっ  
たからだと思うけれども、実は私が飲  
みたがっていたのを知っていた、なん  
で。

未練がましいって、こういうことを  
いうんでしょうね。

# ついでに占いの師

徳島県徳島市 N・K (27歳)

私の町の占いの師の話しよう。彼は昔からいる占いの師さんであるが、私は今までに一度も占ってもらったことはなかった。数年前までは商店街の路上で商売をしていたが、最近は通りが寂しくなったのか駅のバスターミナル前に移ってきていた。

ある日、仕事帰りの私はバスから降りると、歩道に陣取っていた占いの師のおやじさんに、

「お姉ちゃん、お姉ちゃん」と呼び止められつつうっかり興味を示してしまった。

彼は、すかさず私の手を握りしめると手相を見始めた。そしてどんどん私の未来の生活を暴いていった。

「うーん。あんたは五年のうちに結婚するな。結婚相手の年齢は一つから

三つくらい上の人がよさそうや!」

しかし、そのときおやじには知らない一つの事実があった。それはもうすでに私は結婚していたということだ。しかも夫は五つ上だ……。何と切り出そうかと思案しているうちに、今度私の名前を当てると言い出した。

そのマジックが成功したとしても必ずタネはあるんだし興味はなかったが、とにかく、「占いが当たってないよ」ということを言いたかったのでうすをうかがっている、彼はどんな自分のペースでことを進めていくのだ。

まず彼に見えないように私の名前を紙に書き、それを小さく折り畳んで机の上にある空き缶に入れるようにと言った。そのとおりにするとおやじはしばらく考えるようすを見せ、ゆっくりと重々しい手つきで私の名前を書き出した。

そこで問題が浮上した。私の名前は名字も名も漢字が非常に難しく読むのが困難なのだ。たぶん読めないだろう

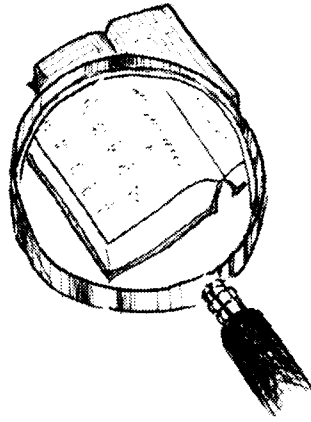
なあと思っていると案の定、読めなかった。意地になったおやじは辞書を開いてその漢字の読みを片っ端から指していった。

『そりゃ、そのうちどれか当たるでしょ!』

しかも私のことを未婚扱いしておきながら、書き当てた名前は改姓後の名字なんだから不思議じゃありませんか。

けど、料金はちゃっかり請求されてしまった。名前当てマジックも特別料金と称して五千円なんて言うから、さすがに頭にきて路上でおやじと言い合いになった。彼は道行く人の視線が気になったのか、占いの料金三千円だけでいいと言ってきた。その占いも実際は全然当たってないのだが……。

結局、私はおやじにそのことを言いそびれてしまった。何十年も前からこの町で細々と占いをしているいつものおやじが、ガツカリして寂しそうに肩を落とす姿を想像すると何だか忍びなかった。一応、マジックのタネは分か



## 指輪物語

(話題の映画とは何ら関係ありません)

横浜市都筑区 ゴル (37歳)

映画やドラマを見ていて、「なんと、間抜けな」と思うのは、不倫現場に結婚指輪を忘れてきたりするときだ。妻子ある男性が外出先に、というならまだ分かる。が、その逆パターン、すな

わち、夫も子どももいる女性たるものが、コトに及ぶに至っては、最初からそんな物は身につけていかない。もっと言えば、指輪ごときで夫や妻の影がちらつくくらいなら、そもそもコトに至らなければよいものを。

結婚指輪に、人はどんな想いを寄せているのだろうか。

女四人で夜の飲み会に集まったときのこと。指輪をしてきたのが二人。してこないのが二人。全員既婚者なのに、なぜ?ということになる。

普段は指輪をしているけれど、こう

いうときはあえてはずしてくると言っていた彼女は、私たちの中でいちばん若い。髪や肌の色艶といい、体型といい、まだまだ『お嬢さん』の域だ。とても一児の母には見えない。

「せっかくこんなおしゃれなところで飲んだもん。夫や子どものはことは忘れて、今だけでも独身気分に入りたい」

彼女一人だけで飲んでいたら、十分イケてる。その可能性を限りなくゼロに近づけているのが、その他三人のあたしらなんだけど……。

そこへ普段から指輪をしているコンサバ系の別の彼女がぴしゃりと、

「あら、結婚してるんだもの、当然してくるでしょう? 今さら、女同士で飲むからって、独身を装ってどうするのよ。万が一にもよ、男の人が『おっ』と思ってくれたとするじゃない?

関心持たれたとしても、指輪をしていれば『結婚してます』って言わなくても分かるから、面倒なことにならないし、そのほうが親切だわ」

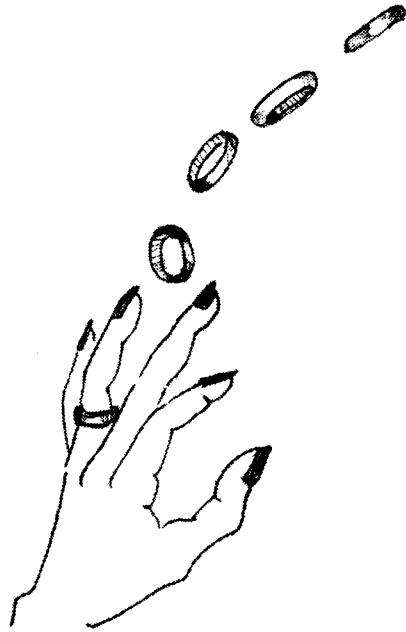
らなかったで面白い芸を見せてもらったと思うことにして……。

でも私のパートの時給は七百円なのだ。一日五時間の労働。今日の労働の代金がこれではばパーになったと思うとちよっぴり辛かったなあ。

彼女が、私たちの意見番たるゆえ  
んである。

炊事、洗濯、掃除の度に、指輪が傷  
つくからと、はずしたりするので、普  
段はあまり身につけないというもう一  
人の友人は「こういうときだから、あ  
えてする」と言う。

「あたしってほら、惚れっばいって  
いうか、情熱的っていうか。こんなと



ころでちょっとかっこいい人に声なん  
かかけられちゃったりしたら、自分が  
どうなるか分からない。というか、そ  
ういうとき、自分がどうするかよく分  
かるから（我を忘れる、流れに身をま  
かせるっていうこと）、あえて指輪  
をするのよ。『あたしには夫も子ども  
もいるのよ』と自分に思い出させるた  
めの、いわばストッパーのようなもの」

「若いころは、それなりに遊び倒した  
という彼女の、己を知り尽くした対処  
法というわけね。

さて、かくいう私はどうして結婚し  
ているのに、いつも指輪をしていない  
のでしょうか？

はずしたきっかけは妊娠だった。で  
も、はずすのは簡単だったが、再びは  
めるのがこうも難しくなるとは想像も  
しなかった。

思い返せばまだ指輪をしていたころ  
のある日、自分の指輪と夫のを比べた  
ときに、夫のは新品のようにピカピカ  
なのに、私のだけ傷だらけで、輝きを  
失っていることにショックを受けたこ  
とがある。

「これって、あたしが家事をしてい  
るからってこと？」

結婚生活において、抱き始めたわだ  
かまりの発端はこのあたりからかもし  
れない。

「磨いてもらえばいいさ。そうやつ  
て磨いては減って、細くなって使えな  
くなったら、また新しいのを買おうよ」

指輪がすり減るくらい長いながーい結婚生活を夫は思い描いていたのだろう。でも、もう、その心配はない。あの日何気なくはずして以来、今日に至るまで一度も指輪をしていないのだから。

子どもが生まれた当初は指輪のことなどすっかり忘れていた。自分の指をまじまじと見ることすらなかったのだが、その余裕ができたころには、手指はがさがさで、日焼けし、節々が太くなり、れつきとした『おかあさんの手』になっていた。

それはいい。顔も手も、生活が作るものだから、好ましき変化と受け入れよう。でも、夫婦のことだけは、そう思えなかった。子どもが生まれたというだけで、夫婦の関係も変化した。私には家族でいることは楽しかったが、それは同時に、指輪を取り交わした男と女ではなくなったということでもあった。

どこでどうボタンを掛け違えてしまったのか、今でもよく分からない。で

も、今さら何をきつかけにどういう気持ちで指輪をしたものか、途方に暮れるばかりだ。あのころの私の気持ちからはほど遠いところまで来てしまったというのに。

「はずしたきつかけは、妊娠で太ったからなんだけれどね。今の私には、はめる理由も見つからないのよ。だいたいあたしは、指輪を見ただけで引っこむような思慮分別のある男は好みじゃないし。指輪があるうがなからうが、欲しいものは手に入れる、そのくらいの男がいいわ」

あれ、話題がずれている。  
「自分がそう思わせるだけの女になったら、指輪のサイズを直してでもするよ」  
と続けた。

それにしても、だ。全員、今でも男の人に声をかけられる可能性を捨てきれないでいるところが、あたしは大好きだ。

(え・橋本美智子)

## 専門の生命保険コンサルタントを派遣いたします。

(東京都内・近郊のみ)

お一人ではチョット心細い、  
でも何人かいれば心強いあなた…  
お友達・職場の仲間などなたでも結構です。  
3、4人でも何人でも  
あなたのお宅に、あなたの職場に、お集まりください。  
生命保険の専門家が皆さんの疑問にお応えいたします。



くわしくは「わいふ」あて 電話で資料請求してください

わいふ指定代理店 東京海上火災保険株式会社 東京海上あんしん生命保険㈱

杉本保険事務所 杉本侑子 ☎03-3260-4771

# 危ない同窓会

熊本県天草郡

松本とみよ

同窓会をきっかけに危ない関係にな

る、なんて話はけっこう耳にする。夫が聞いた話では、同窓会で意気投合して、女が男の単身赴任先までついてきた。彼女は泊まり込んで何日か家に帰らなかったで、女の夫があちこち調べた結果、同級生の男についていったことが判明した。女の旦那と男の奥さんが連れだってアパートに現われ一騒動起こったそうだ。

「奥さんが来た」と知らされた男はあわててズボンを穿くのに片方の穴に

両足つつこんだという。

「まあ、何はともあれ、同窓会ってのはいいよなあ」と夫。しかし、なんで俺が出席するときに限って女が少ないんだ？とぶつくさ。

同級生といえは思い出すのは、私が長男を出産した直後、髪ふり乱して子育てしていると夫に同級生の女から電話がかかってきたことだ。「会いたい」と言う。「奥さん、よろしいでしょうか？」と夫。「ああ、どうぞどうぞ」と私。何でも高校時代につきあっていた

た彼女だという。だけどやたら鏡をのぞいておしゃれするのは頭にきたなあ。「今の奥さんとはなんで結婚したのかと聞くから、いやあ大恋愛で俺と結婚できなかったら死ぬというんで仕方なくと大ボラふいてきた。ハハハ」と笑う夫を白々しく眺める私だった。

そうよね、もし同窓会に初恋の人でも現われたなら、学生時代とは比較にならぬほど厚かましくなった勢いで迫ってしまうかも。あるいは「実は君が好きだった」なんて告白されたらつい

フラフラッと……などと想像は膨らんでしまう。

ところで、四十歳のときに二十数年ぶりで中学の同窓会が開かれた。私は内気なほうで友達も少なかったのですがその種の会合は苦手。楽しめるか否かはメンバー次第。出席の顔ぶれで出欠を決めようと幹事さんに電話したら「そんな考え方は俺はすかんな」と怒られてしまった。

だってよくあるじゃないの、本当に会いたい人は来ない同窓会ってのは。それに私の場合いちばん会いたい初恋の彼は絶対に同窓会には現われない。途中で転校してしまっただからだ。

しかし、そんな心配は杞憂に終わった。もう同級生というだけですべての人が懐かしく話が盛り上がった。気持ちが簡単に中学に戻れることも不思議なら、みんながおじさんおばさんになっていることも不思議。タイムマシンってのは本当にあるんだなと思ったものだ。

その中で、中学時代は話したことも

なかったA君とけっこう話はずんだ。彼の住んでいる地に私は夫の勤務の関係でたびたび訪れたことがあった。かもめ大橋を渡らないで右へ折れると夫の乗船していた「しゅり」が岸壁に黒い巨体を横たえていた。彼は、その港によく釣りをしに通っていたそう。もしかしたら現場でニアミスし

たのかもしれない。

同窓会に行く前は、危険なチャンスでもあれば刺激的！と思わないでもなかったけれど、残念ながらそんなことは起こらなかった。「誰々が好きだった」なんて話はずんだけれど誰も私のことを好きだったなんて言う人はいなかったのだ。私のことを好きになる





人はきつと内気な人に違いない。

同窓会の終わつた後で、私はほんの趣味で同窓会のようなすを新聞にして配つた。その新聞にお返事をくれたのが唯一A君であつた。同窓会が楽しくてその夜は眠れなかつたと書いてあつた。

私がパソコンを始めてからはメールで、ケータイを買つてからはときにはケータイにと、彼は私のメル友になつた。

といつても別にドキドキする関係でも何でもなかつた。同性の友達と同じ感覚。パソコンの扱い方なんかも教えてくれるし、釣りという共通の趣味もあるので話も合うし、もしも夫に先立たれたら茶飲み友達にしようというのが私の野望なのである。

同窓会から六年が過ぎ去つた。去年五年ぶりにあつた同窓会には彼は来なかつた。そういえば最近はメールもしなくなつたなあと思つていた矢先、彼が三月に一人で帰郷すると突然パソコンにメールをよこした。

『会えたらいいね。何か好きな音楽があつたらCDを作つてきてあげるよ。足がないから自転車で行ける範囲の行動。よかつたら実家まで遊びに来て』

『どこか行きたいところあつたら乗せてあげてもいいよ、ただし運転はヘタ』と返信したがその実、それが現実になつたりしたらちよつと困る。二人きりで会うのはちよつと氣づまり。どうしていいかわからない。退屈なやつなんて思われるよきつと。だいたい男とつきあつた経験ないし。夫とは見合いで会つてすぐに家族になつたんで男のうちに入らない。

彼が帰郷するという前日、ケータイに「デートしよう」とメールが届いた。このデートの一言に私はクラクラツとなつた。何しろメンエキがない。女と生まれてこの方、嫌いでないタイプの男からナンパされた経験なんて全くなかつたから。

それにしてもこの前まで会えたらいいねえとどうでもいい調子だったの

に、この「デートしよう」には有無を言わさぬ強い響きがあつて、私はその一言で覚悟してしまつたのだ。

青春時代に恋の経験もないまま夫と結婚し、ずいぶん人生を損じた気分。不倫つていつたいどんな気分だろう。数年前、もう一度だけでいいから、恋をしてみたい病にかかつた夫を冷ややかに眺めていた私だが、今になつて氣持ちよくわかる。その後、夫は恋にもめぐまれず、もはやそんな元氣もない有り様である。「そんなじくさくしてるくらいなら、恋でもされたほうがまだましよ」と言つたくらい。

しかし、この不倫というやつ、現実にはなかなかもつて難しい。

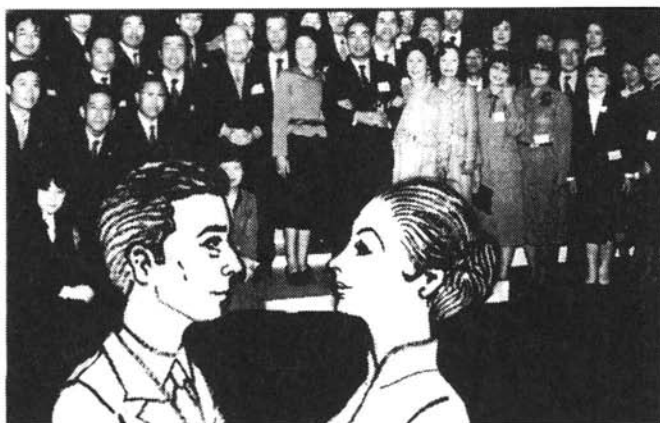
第一に夫以下の男であつてはならない。それでは危ない橋を渡る意味がない。夫はいい男じゃないが人間的には点数高いぞ。第二に絶対にバレない。第三にさりと別れられる。

この条件を満たす相手とそういうことになるチャンスはまずないな。A君はどうだろう。大事なのは彼のタイプ

が私のストライクゾーンの範囲内に位置していて、しかも遠い地に住んでいてまたそこに帰ってゆく。いわば異次元のタイムトラベラーみたいな人だということ。現実社会の人ではないとも言える。同じ生活圏にいないので罪の意識はきわめて低い。同級生で家も生活も知れているから危ないこととしても危なくはない。そうか！ それで同窓会不倫が多いわけだな、納得!!

いやいや誤解してはいけない。私はど貞淑な妻はいないと思う。話は大きいけど行動は質素なものである。もし、現実には彼が迫ってきたらそりゃあ困るに決まっている。あくまでも話である。デートをOKするからには、あらゆる可能性を考えて、それでもOKなのかと自分に問うてみたまでのこと。

一応夫ある身だし、こそこそするのは大嫌いなので、同級生のA君がデートしようというけどいいかと夫にメールした。反対されても意に介さず行っただけだが、正々堂々と行きたいのだ。しかし、A君は「ちゃんばん食



に行こう」と言う。ロマンチックな展開にはなりそうもない。ああ……。

夫の返事は「OKだけどいっぱい食って下痢しろ!」一線だけは越えないように(笑)とある。夫は私のことたかをくくっているんだな。でも笑ってる場合じゃないかもよ。私迫られたら断らないかもしれないもの。

さてさて、私たちのデートはいいどんなものであったのか。朝、彼の実家まで車で迎えに行くのと彼の両親はグラウンドゴルフの試合で留守。え! 彼の家で二人っきり? ドキドキ♥

「俺お茶入れたことないんだ。よくわからんなあ」

「あ! いいいいいよ、私入れる」と立とうとすると、

「あ! お湯でできた。ぬるいよこれ。ま、いいか」と彼。

彼は私の好きそうな音楽のCDをパソコンで作ってくれたが、それには私がメールで送った私の写真が印刷されていた。「あ! いいねえ、これ」  
「この写真、ちょっと細工したんだ

けどわかる？」

「えっ?! どこを? わからないなあ」

「実は、実物よりいくらか細くしてある」というので大笑いした。そういわれてみれば……。

中学時代、彼は悪友たちと友達の家にあった廃車の車で夜中ドライブして、毎日のように車にへこみキズを作って遊んでいたと言う。読書と昼寝しか趣味のなかった私と比べてなんてスリリングな青春なのだろう。青春を損じたかともいう私の思いはますます強まった。

その後、私たちは最近あちこちにいったばいできた温泉に行ってみることにになり、もちろん男湯と女湯に別れて入った。食事とドライブで夕方まで遊んだ。

彼を家まで送り届けたら、帰ってきていた彼の両親とまた話が盛り上がった。「あんたのお母さんとは友達なんだ」とお父様がいっぱいおみやげ持たせてくれた。親子で友達かよ。楽しか

ったけど何だかがっかり。もう少し危険なことがあってもいいんじゃないの? 子どもじゃないんだし。

夫へのメール「楽しかったけど危ないことは何ひとつなかったよ残念!」

ところが、都会に帰ったA君からメールが来て「今だから言えるけど、あの日はアイドルに会うみたいなのにドキドキでした。二人で写真撮らなかつたのが残念で、また今度行こうな」とある。「だいたいO型の男はB型の女を女とは思わんらしいよ。どうせ私の写真なんかほしくないんだと思ってました」と返信したら、

「俺は例外のO型」と言ってきた。「本当は強引にキスしてしまいたいそう自分と格闘してました。君とはずつつきあっていきたいから今の関係をこわすのは嫌だったし、君の幸せを考えるとできなかった。それともせまったほうがよかったり?」のメールに、頭をなぐられたかのようにクラクラしてしまった。そんなこと聞くなよ。強引にキスされている自分を想像してメ

ロメロになる私。

「だいたいチャンボン食いたいなんて、ロマンチックにはなりそうもないパターンだよ」

「そうか? チャンボンはロマンチックじゃないかあ。女心ってどうもよくわからんなあ」

やはり想像と現実の間にはなかなか渡れぬ大きな橋があるものだ。

その後、夫には「ねえ、不倫してもいいでしょう」と言い続けている。万が一のための布石というわけだ。

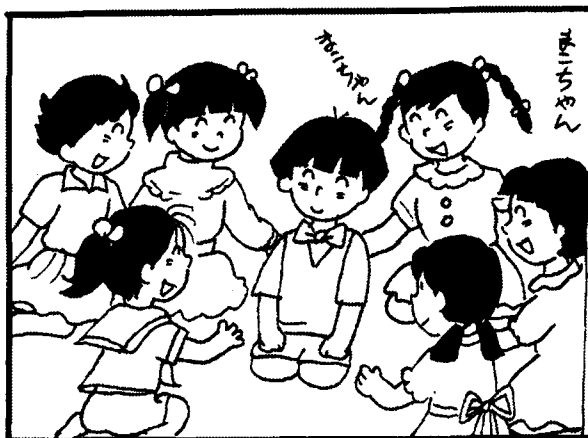
「コソコソするのは嫌だから、するならするって宣言してからする」と私が言っても冗談としか受けとらない。「ある日突然私が今から不倫するってメールしたらどうする?」と聞いてみた。

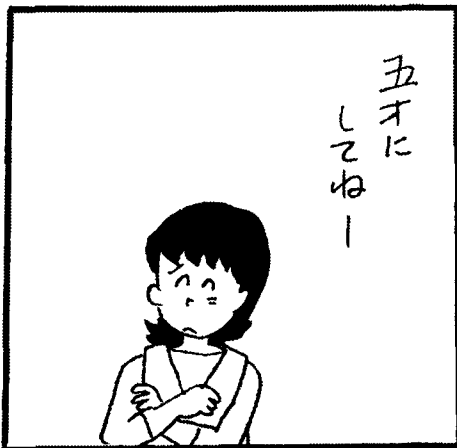
夫「同僚に、女房が不倫するってメールしてきたけどどうしようって相談したら『止めんか!!』って怒られるだろうなあハハハ」  
笑ってる場合じゃないんだけど。

(え・弘法堂建二)









# スデーのために

栃木県宇都宮市 真野由美子

「今日は私のお誕生日なんだけど、夫も子ども誰も誰も気づいてくれないの」

先日、友人からこんな内容の電子メールが届いた。

電子メールが日常的なものとなり、主婦仲間とのやりとりが増えてから、もう何度この手の文章を読んだことだろう。いや、読んだだけではない、私も昨年十一月に書いた。

「まあ、祝うようなトシでもないけどさ」

というオチまで同じ愚痴メール。

しかし私は幻滅を感じていた。このメールの差出人は、ほかでもない、アメリカで暮らす友人Sなのだ。Sよ、あなたまで！

Sとは子育てサークルで知り合った。ご主人がアメリカに単身赴任していたため、しばらくは、はなればなれで暮らしていたが、昨年ついに彼女は幼児二人抱え、夫のもとへと旅立っていったのだ。美人で才女、しかも強気、私の知る中で最もホットな夫婦関係に

あり、誕生日などと言えば、スペシャルな一日を過ごすに違いない女、そんなイメージを持っていたのに、何ということだろう。

まだ周囲に友だちも多くはないだろうし、本当に寂しい誕生日だろうな。しかし、何で気づかないのかなあ、ご主人！ 全く、だから駄目なのよ日本の男は。

深いため息とともに、私は思った。Sも、そのほかの友も、そして私も、このままではいけない、と。このまま、あてもないのに期待だけしてたらまた、「お誕生日なんだけど、夫も子ども誰も誰も気づいてくれないの」という日がめぐって来てしまう。ついに立ち上がるべく、私は今ペンをとる。「寂しい誕生日仲間」のみんな、次の誕生日を変えようではないか。

「祝うようなトシじゃない」「誕生日をみんなで祝うなんて、わざとらしくって照れちゃう」などと言うのはもうやめよう。私たちは、妻として母とし



# ハッピーバー

て娘として嫁として、家族の誕生日を盛り上げようと、いつも心を砕いている。ケーキを買い、ご馳走を用意し、プレゼントを買いに走る。家族でハッピーバースデーを歌うときの、主役のまんざらでもなさそうな笑顔に、ささやかな幸せを得る私たち。そうだが、もう誕生日の喜びは、私たちの生活にびったりと根づいているのだ。

それなのに。なぜ家族は誰も気づかないのだろうか、今日が私の誕生日であることに。

さらに、なぜ、私たちは家族に対して「今日は私の誕生日よ」の一言が言えず、深夜友人にメールで愚痴るのか。（ああ、しかもそのとき、たった一通届いていた『ハッピーバースデー』というタイトルのメールが、プロバイダからのどっちでもいいようなヤツで、ご丁寧にも『お友だちに囲まれて、素敵なお誕生日をお過ごしでしょうか？』なんともひとりばつちのバースデー？）なんて書いてあり、コードを食いちぎって暴れたい衝動に駆られたもんだった。

あのサービス、ホントやめてほしい）  
それでいて、翌朝になってから「あ、昨日誕生日だったね、何か欲しいものある？」なんて言う夫に、「別にいいよ、何も要らない」と平気なふりで答える……全く寂しい誕生日である。  
それなら、どんな誕生日にしたいのか、と私は自分に聞いてみる。

朝起きる。と、起きてきた子どもや夫が口々に「お誕生日おめでとう」と言う。「ありがとう」と答える私。「今夜は○○（わが家とおきのお洒落な洋食屋さんである）でお祝いしよう」と夫が言い、子どもたちが歓声をあげる……午後には「お父さんが、お母さんにお花買っておいでって、お金くれたんだよ」と言いながら、子どもたちが小さな花束を差し出す。

ああ、ささやかだなあ、この夢。でも、もうこんなもんで充分過ぎるほど幸せなんだけだなあ。

さて、現実と夢とをしっかりと対比してみよう。かなりの隔たりがある。現実を、どうしたらこの夢の高みへと

持ち上げられるのだろうかと考えた場合、絶対に押さえておかねばならないポイントが二つある。

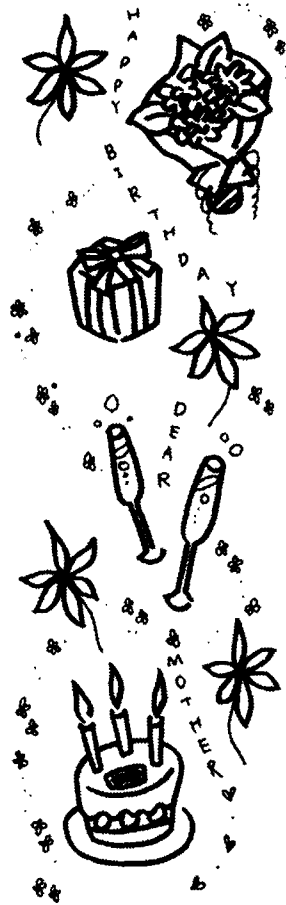
ポイント①

とにかく家族に私の誕生日だと気づかせなくてはならない。

ポイント②

「家族みなでお祝いをしなければ」という気持ちにさせなくてはならない。

①の問題は、プライドを捨て、カレ



ンダーに「おかあさんのたんじょうび」と、でかく記入することで多分クリアできる（もはや自分からは言いたくない、なんて贅沢を言っている場合ではないのだ）。

しかし、問題は②である。

より現実的な方法として、「この際、全て自分で仕切る」というのがあるが、これはこれで定着してしまうと悲しいのでやめたい。

家族の顔を一人一人思い浮かべてみ

る。夫と、息子二人。このメンバーをして、自然に、さりげなく、私が夢見るような方向に仕向けるというのはどだい無理な話であると改めて思う。

そうするとやはりこは、サクラが必要だろう。子どもでは、経済的にも能力的にも無理があるからして、残された道はただ一つ、ストリートに夫に頼るしかないのではなからうか。格好悪いけど、仕方あるまい。思いの丈を打ち明けるのだ。

そんなわけで、ついに私は、切り出してみた。

「今年から私のお誕生日を盛大にやってみよう」と。

夫の目が点になる。

以下は私の発言内容の大筋である。同志の皆様はどうか参考にしていただきたい。

○私は、家族で『おかあさんの誕生日のお祝い』をしてもらいたいとずっと思ってきたのだが、カッコ悪くて言い出せなかった。



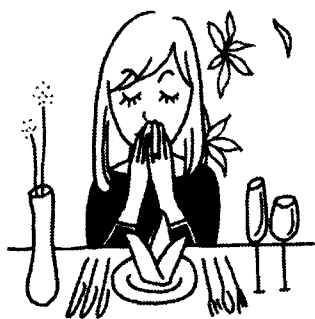
○他の家族のお誕生日はお祝いするのにお母さんであり妻である私の誕生日は特に何もしない、これはおかしい。お母さん、あるいは妻は、いつもサービスする側にいて当たり前なんていう家には絶対したくない。

○誕生日のお祝いは家族の行事として、死ぬまで祝っていたきたい。そのためにはお父さん、この日ばかりはあなたが隊長です。先頭に立ち、私を大切に思っていることを、子どもたちにも示してほしい。

※ちなみに、私の希望は「おしゃれな店で外食」「花束」の二点です。よろしくお願いします。

夫は、ちょっと驚いたような顔で聞いていたが、結局はあっさりと、「わかった」と言ってくれた。きつと、そんなふう考えたこともなかったのだろうな。

言わないと伝わらないことってあるものだ。いや、その前に私だって、毎年「気恥ずかしいみじめさ」を持って余すばかりで、こんなふうに向き合



えたことはなかったのだ。

さあ、次の誕生日が楽しみだ。きつと、一回やれば、そういうもんだということになっていくだろう。仲間たちよ、ハッピーバースデーは近いぞ、頑張ろう。

そしてもし、夫が忘れていたならば、今年はもちろんと言おうね。

「今日は私の誕生日よ！」  
と。

ところで私はもう一つ、やるべきことを見つけた。

何度か受け取った「寂しいお誕生日メール」、しかし、私はそれをいつも笑って読み流し、「おめでとう」と返信するばかりで、その誕生日を手帳に控えたことすらないではないか。

友の誕生日を祝おう。愚痴メールを受け取る前に！

私は小さな、私にしては上等の、日付入りの手帳を買った。そうして、そこに知ってる限りの誕生日を書き込んでおくことにした。

夫に、子どもたちに、義父母、両親、きょうだい、そして友人。「おめでとう」を言っておあげたい人の誕生日を全て記すのだ。わからない人のはもちろん問い合わせる。この手帳をいつも手元に置いて、大事な人に葉書や、メールでお祝いの気持ちを伝えよう。もしかしたらそれだけで、今までとはちょっと違う誕生日にしてあげられるかもしれない！

さて、こんな私の奮戦と決意を伝えて、励ましてやろうと思っている矢先、またSからメールが届いた。

なんでも、通っている英会話スクールのクラスメイトたち（いろんな国籍の若者たち、ナイスな男の子もいっぱいいるらしい）が彼女のお誕生日を祝って、サルサパーティーを開いてくれることになったそうだ。

サルサパーティー！  
同情して損した、と私は思った。

（え・イシノフミ）

## わいふ文章講座のおすすめ

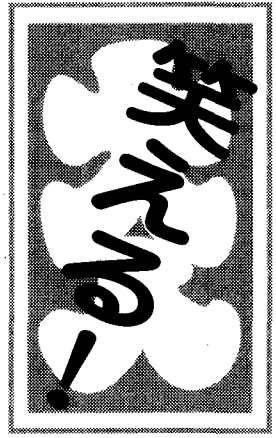
公民館、女性センター、社会教育課などのご依頼で、しばしば「わいふ文章講座」を開いています。

編集長田中、副編集長和田、「わいふ」から巣立ったライター達を講師とし、五回から十回までのコースがあります。

その他に、「子育て」「教育」「女性」「高齢者」「社会参加」など、各種の問題について講演をいたします。老人ホーム情報センター主任研究員の水落も担当します。

お住まいの地域で開きたい方は、お電話をください。資料をさし上げます。それを持って公民館、教育委員会の社会教育課などの開講を頼んでみてくだされば、引き受けてくれるところも多いと思います。

●PTA主催の成人教育、家庭教育学級での講師としてもご依頼ください。



## 取らぬ狸のなんとやら

岩手県北上市 菊池喜恵子（50歳）

やりたいことが山ほどある。手芸は特に好きで、常に手元に針箱があり、パッチワークなどしている。もしくは編み棒で何か編んでいる。天気がよければ散歩もしたいし、ペランダの土いじりも好きである。新聞も隅から隅まで読まない気が済まないし、本も読みたい。

これらのことを、家業と、夕方三時

間のパート、家事の合間に少しずつ、細切れ時間の有効利用で楽しんでいる。時間が余るほどたつぷりあったら、きつとどれもいつかできることだと、今ほどうしないのではないかと思う。

当然のように、することには優先順位があり、家事、家業、パート、あのことはそのときどきの体調や気分ですぐ変わる。わいふへの投稿も後回しとなり、せいぜい年に一回ぐらいというところ。

そんな私がしたいことをすべて切り捨てて、昨年の夏から九月の末まで、約二か月、夢中になっていたことがある。第一回読売、日本テレビ「ウーマンズ、ビート大賞」カネボウススペシャル21の募集の知らせだった。自分史を書くような気持ちで、苦労話以外の作品があってもいいし、「何をやってもオール3」という人の話も読みたいという選考委員のコメントに、書けるような気がしたのだ。

そして何よりやる気を起こさせたの

は、大賞賞金一千万円という金額。優秀賞、三百万円、入選三十万円。書きたいことがあってもわいふへの投稿が、私のすることの優先順位からはずれてしまうのは、書いて活字になつて、それで終わりだから、意欲がしぼんでしまうのだ。賞金金額に目がくらんでしまった。

嫁のくせにとさんざん言われ、小言や皮肉、いびりなどで、私の心を痛めつけてきたのに、言ったことも、したことも忘れたかのように、私たち夫婦に経済面から、家事労働すべて寄りかかって生活している夫の両親との三十年に及ぶ同居生活は、書くネタの宝庫である。五十枚以上の原稿を書けるような気がした。

長男の結婚、次男の自立、そしてこの不況でパートで働き始めたこと、パート先でのトラブルなど、自分史を書くようにと、せっせと書いたのである。ここ数年はたった一人しかいない姉夫婦の不運に心を痛めてきたので、それも書いた。姉の夫のガン闘病、そし

て姉のクモ膜下出血と、書きながら涙も流した。姉は生還し、姉の夫は、足かけ三年で命は尽きた。享年五十三歳。何度も何度も書き直し、ほぼ二か月で七十枚近くの原稿を書き、投稿した。九月末がメ切りで、翌年の二月末が結果発表だった。その半年近くの月日、結果待ちのその期間、私は夢みる夢子さんになってしまった。大賞はテレビドラマになる。もし、もし私の作品が大賞になったら、私の役は竹下景子で、夫の役は山下真司、姉は藤田弓子だといいいなあ。大賞もらったら、夫の両親のことなど、原稿のネタになっただけでもありがたい、すべて水に流して許してあげる。一千万円だもんね。そんな調子である。

一千万円の使い道も考え、優秀賞だった場合、入選だった場合の賞金の使い道も、考えた。宝くじと同じか、確率は宝くじより高いし、ひよっとしたら、ひよっとするかもしれないと、胸はわくわくした。結果発表が届くまでは、実に楽しい日々であった。

一月、二月の家業は気が減入るほど客が来ない。冬ごもりの生活になるからだろう。今年は気が減入ることもなく、たつぷりと夢に浸り、まるで当選確実のような気分でも過ごした。

岩手の長い冬に見切りをつけて、九州福岡県で仕事を見つけて働いている次男に、宝くじがよく当たるといって、篠栗南蔵院のお札を送ってもらい、作品番号のはがきをそのお札に包み、毎



日、毎日お祈りもしていた。

そう、結果は落選。夢が大きかった分、落胆も大きかったが、立ち直りも早かった。まるで現実味のない夢だなあ、薄々気も付いていたからだ。それにしても二千六百通もの作品が応募したというから驚く。

私の来た道など、所詮ありきたりの道なのだろう。辛い思いしかない義父母のことも、どこにでもあることなの

だろう。生老病死も誰もが体験していくことだし。

でもやっぱりまた、私のことだから賞金に目がくらんで、懲りもせずに書きたくなるにちがいない。

## 私に似た人

埼玉県人間市 土子史子（66歳）

美空ひばりが亡くなった直後、その人となり、回想の歌がしばらくテレビから流れた。

ある日、ひばりの全盛期を知らない三女とテレビを観ていた。「この人と似ている人、身近にいると思ってたけど、ママだよ、ママ。このえらそうな態度、ママに似てるよ」

「友だちも言っていた。あなたのお母さんこわいでしょって！ 家の中のママはサザエさんなのに、だからママが油の温度をみるのに指を入れてヤケ

ドした話や、他の家族がみんな便秘症だから自分の立派なウンチを見せたがる話をしたら、ウツソ！ ウツソ！ つて、大笑いしてたよ」

どんなところでもいい、大好きなひばりに似ているといわれたら素直にうれしい。

今まで誰にも話したことがなかったけど、ひばりは私の命の恩人なのである。

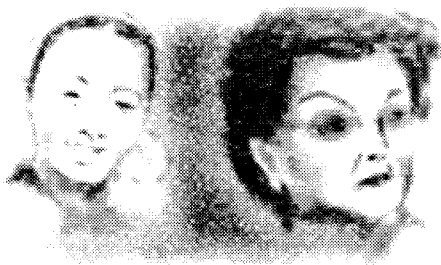
昭和二十四、五年ごろ、死ぬほどつらいことがあり、泣きながら死に場所を求めて住宅街を歩いていた。そのころはどここの家も小さな平屋ばかりだった。今のようには高層マンションがなかったことは幸いした。ある家の垣根越しに、ひばりのラジオ連続ドラマ『リンド園の少女』の主題歌が流れてきた。考える間もなく死ぬことよりひばりの歌を選んだというわけである。

そして昨年の暮れ、小二の孫が泊まりに来ていた。ちょうどテレビのニュースで野村沙知代が留置所から出所してくる姿が映し出された。すると孫が

「このおばさん、ババに似ている」と言うではないか、私は思わず悲鳴を上げた。

「やだ！ やだ！ どこが似てるのよ」と叫んだ。私の迫力に驚いた孫は申し訳なさそうに小さな声で「顔じゃないよ、態度だよ」

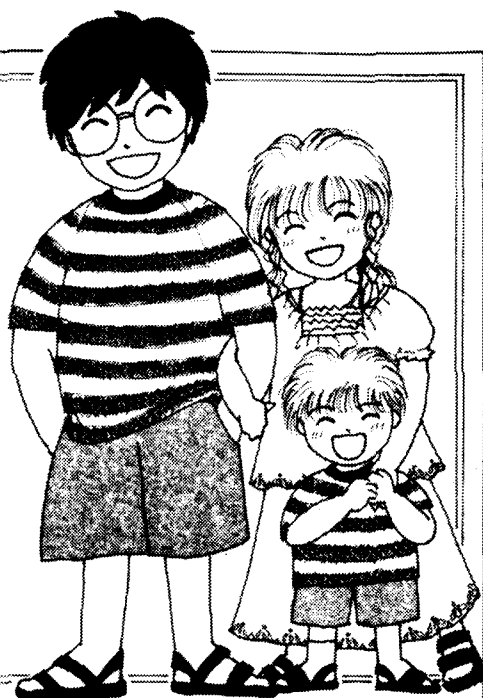
私はあとの言葉を失くした。



（え・渡辺美帆）

# 毎日が 平日

海砂



今年も梅雨がきました



ふっ...ふっ...  
なんとか濡れずに  
すんだわー

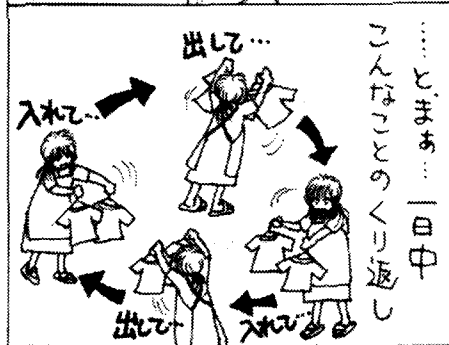
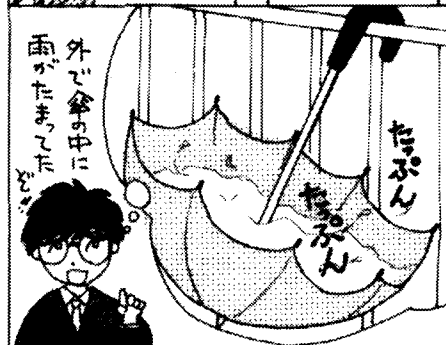
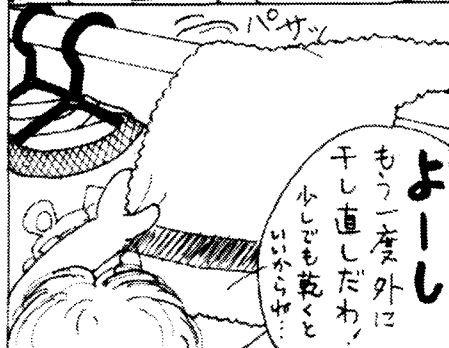
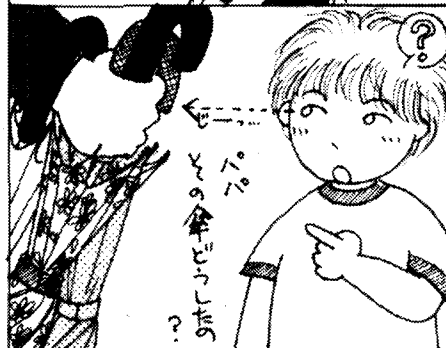
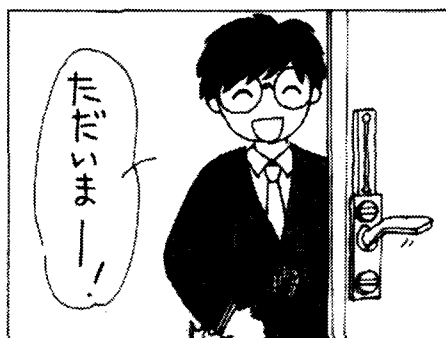


ママ！  
雨が降って  
きたよー！！



えん？！  
たいへん、たいへん  
急いで干してある  
洗濯物入れなきゃ！





# 私も ひとこと

## 手書き派

千葉県船橋市 祥 まゆ美

タウン誌の手伝いを始めたので、ファックスを買いワープロを始めた。イライラする……。ファックスを送信後、電話で確かめたい。だって信用できないもん。ワープロを打ちながら文章を作れない。原稿用紙をうめてからワープロに清書して二度手間だ。時計はアナログが好き。パソコンに興味がない。時代遅れもはなはだしい自分だがこの道をゆこうと開き直る。てくてく生きたっていいじゃん。

## 死にかけ?

愛知県春日井市 伊藤てる子

長男が、このたび大学をふくめて二十二年ぶりに、転勤のため東京から名古屋へ、わが家から通勤することになった。引き継ぎで後任を連れて、米国へ十四回飛行機を乗り継いだと話した。

緊張の連続だったせいか、三十九度三分の熱がでた。一日過ぎ夕食のとき「ふりかけ」と言ったが私は、ドキッとして「死にかけ?」と聞いた。「ふりかけをちょうだい」自分自身あきれかえった。反面ホッとした。

## よい母

鈴木みもぞ

息子が高校生になったのを機に小遣いを銀行振込にし、カードも作った。しっかりと小遣いを自分で管理してもらうためだ。暗証番号も私が勝手に決めた。4188「よい母」である。息子は「ふざけんな、金おろすたびによい母かよ」と怒っていた。でもカードがないとおろせないもんねー。こんな母を持つてさぞかし彼は困惑していることだろう。

## 日本語は奥が深い

東京都板橋区 山本雅子

「ハクシヤセイショウってどういう字を書くの」と小五の孫娘に聞かれて「ムムム……」七十年間日本語だけで生きてきたのに、はじめて聞くことばで見当もつかない。小学国語辞典にはのっていないという。私のにはあった。「白砂青松」広重描く三保の松原を彷彿とさせる四文字熟語である。この年齢になって小学生に日本語も教えられないとは。トホホ、ちなみにパソコンは一発で変換。マ・ケ・タ

## 専業主婦は逃げられない!?

東京都新宿区 林 直美

今年もとうとうPTA委員をすることになった。入学前の噂では、子ども一人につき一回ということだったが、話がまるで違う。一年は役員選考、二年は広報、三年は本部会計監査、そして今年は再び広報委員になった。決して協力が嫌だというわけではないが、ものすごく不公平感があつて、不満が残る。子どもが同じように学校へ通っている以上、こづかい稼ぎの仕事は理由にならないと思うのだが……。

## 教えることは学ぶこと

佐分姫子

一年余り前から、パソコンが楽しく、仕事に興味に与っている。初め苦労したぶんにも親切丁寧に教えることができる。

ずうずうしくも、インストラクターのパートまで始めた。必死で予習して、人様にお教える。わが経験と知識の少なさをボロを出さないようにと、自己研鑽の日々。もっと自信と本当の能力を身につけたい！

私は「学習」がつくづく好きなのかも。

## 「かわさきDOT」をよろしく

川崎市幸区 増井幸子

五年間スタッフとして参加した地元川崎南部の月刊のミニコミ「かわさきDOTペコム（ペーパーコミュニケーション）」が三月で幕を閉じた。人と出会うこと、書くこと、伝えることが好きだからやってこれたと思う。毎月の仕事がなくならさびしいが今はこれまでの集大成として、川崎南部でがんばっているお店紹介の小冊子「かわさきDOT」発行に向けてがんばっています。ぜひ読んでくださいな。

## 黄インコの「サクラちゃん」

奈良県奈良市 村田裕美

二九五号で、スタッフの野村さんの、たかがペットのインコが死んだと、お思いでしょうを読んで、私も中二のころ、友人が一人もいなくて、いじめに遭っていた私に、今は亡き母が、一匹の黄インコを買ってきてくれて、それが成長して、英語を喋り、歌も唄ってくれて、芸もしてくれたのに、ふとした家の事故で死なせてしまった……。でも夢を与えてくれたインコに、今では感謝しています。

## 週末だけの新聞がほしい

東京都北区 安村豊子

パートと家事と子育てで、平日は新聞に目を通す暇はない。TVとインターネットでニュースはわかるけど、チラシで卵の特売をチエックしたいし、爪切るのに新聞紙もあるね。そこで週末新聞があれば、TV番組組にあるじゃない一週間のニュースをさらってくれ、番組表もついて。チラシだって週末に集中するんだし、じっくり目を通すゆとりもある。ゴミも減るし、今の時代には合ったニーズだよ。

## ファミリー・ツリー（家族の木）

愛知県瀬戸市 武藤徳子

初ボランティアガイドは三人の陽気なアメリカ女性の市内観光。へたな私の英語をほめ、一夜漬けの説明に身がかがめ、言葉につまれば一緒に考え込む。すっかり甘えた私は「あれ何？ 英語で何て言うの？」を連発。陶芸作家の家系図にアメリカ母さんは「ファミリー・ツリー！」一本の幹から枝分かれして葉が茂る——素敵な名前！ 彼女の笑顔と共に忘れない。



## 笑えなかった「笑える」

千葉県流山市 栗林八重子

外泊旅行の車中で読んでいてぞうつとして腰が浮いてしまいました。ちかごろはやりのあつてはならないことが実際にあつたという恐ろしさで、留守にできた自宅のガスコンロのことを何回も頭の中で反芻しました。

錦織様、笑っている場合ではありません。なんとか手だてを考えなくては。読者にとつてはよい警鐘になりました。ひとことではありませんが、ほんとにボケたくないですね。

## 言つてよかったのかな……

神奈川県中郡 石井しのぶ（43歳）

中二の息子の友だちが遊びにきたときのこと。今はやりのアカペラコーラスで歌つたりと、とても楽しそうだったのだが、夕食の時間の六時になつても二人ほど帰る気配がない。少々迷つた末「もうすぐ夕食なのね……」と言つてみた。思つた以上にがっかりしたようすを示したので、とんでもない悪いことを言つてしまったような気になつた。今の子はこんな言葉にも傷つきやすい心を持っているのかもしれない。

## 友だちがテレビ出演

東京都足立区 島村君子

先日、友だちが「はなまるマーケット」のテレビに出てトップ賞になり、ダイヤモンドの指輪をもらい「あなたのおかげよ」と。「えっ何で」と聞くと、以前共通の友人が同番組に出たので私は「今、TBSを見て！」と電話をした。その後も友だちはその番組を見続けて自分も応募。面接の後、出演が決まつたとのことだった。いつも前向きな友だち。今後もダイヤモンドとともに、輝く人生を送つてほしいと思つた。

## 桜

東京都世田谷区 太田啓子（43歳）

今年ほど、桜を楽しんだ春はなかつた。三月末に訪れた京都では、哲学の道の満開のソメイヨシノにため息をついた。四月上旬には新宿御苑。種類により微妙に色の異なるヤエザクラを遠方より眺め楽しんだ。同じころ、駒場の公園ではスルガダイニオイ。その甘い香に酔いしれた。そしてその隣では、ウコンザクラがまさに黄緑からピンクへと変身を遂げようとしていた。日本に生まれてよかった。

## 狙ってますか？

新潟県 大原清子

私の拙い文章が選ばれ、表彰式のため東京に行った。副賞に一万円分の図書券をいただき、ちよどわいふの年会費の振込月と重なり、「わーい。来年分もある！」と単純に喜んでた私。「最優秀の二十五万狙っていたのね」と同じ賞の方に声をかけられ、「何のことですか」と聞き返してしまつた。（えーそだったんだ）

わいふの皆さんもやっぱ狙ってますか？

## レリアウトにもう工夫を！

東京都小平市 田川哲子

このコーナー好きです。短い中にも書き手の思いが伝わってきます。そこで私も一言！編集に携わつたこともないのに、ホント生意気ですが、この箱型の仕切り、何とかなりませんか？ 特に二九五号は、数が多かつたせいか箱の中の文章たちが自分の領地に押し込められている感じで、読む気力が薄れてしまいました。もつとも視力、気力の衰えという個人的事情もあるのですが……。

## 小便小僧もびっくり!

東京都青梅市 福島みさを

四月十四日の新聞によると座って小用をたす男性増加中、TOTOのアンケートによると、男性七人に一人は自宅のトイレで座って小用を足しているという。「便器や床が汚れるから」と妻や母親から指導されたためというケースが多いようだ。このようにさせる母親は最近増えたのではなく、そのようにしつけられた子どもが親の世代になったのだという。男性としては沽券にかかわることではある。

## 在宅ワーク

東京都立川市 畑中珠美

「手書きのツアー日程表、一枚二千円の収入です。ただし一般旅行主任者の資格が必要です。通信講座に五十万円かかりますが、海外ボランティア派遣活動をしている国際文化協会から合格後全額戻ります。仕事も協会が旅行会社を紹介します」

見事ひっかかって消費生活相談室にかけ込み、後で市の広報の「こんな手口に注意! 業務提供誘引販売取引」の例で出ました。ちよつと恥ずかしかった。

## ラブレターの代筆

東京都文京区 トト安田

Mさんにラブレターの代筆を頼まれた。お相手はデイサービスで知り合われたSさん。『八十年生きてきましたが、初めて味わった気持ちです。今もって胸の奥が痛みます……こうした私の気持ち分かっていただけです。しょうか……』ノートに一生懸命下書きされた。私まで胸がドキドキしてきた。デイの朝「彼氏に会えますね」と言うとMさんは張り切ってお迎えるバスに乗られました。

## 見習いたい

アメリカリトルロック市 伊藤琴子

私の行きつけの美容院の女主人ノーラは偏見のない広い心の持ち主。いつもニコニコしていて楽しそう。彼女はTシャツ、短パン、ビニール袋のいでたちでウォーキングをする。ビニール袋は道や公園に落ちていて、心ない人が捨てたタバコの吸い殻、ガムの紙、空き缶などを拾うためという。奇特な人が身近にいるものだ。私はね、この間公園で犬のうんこを踏んでしまい腹が立ちましたぞえ! 憤慨!

## マイ・ガーデン

静岡県小笠郡 鴨川典子 (47歳)

知人がくれた種を晩秋に蒔いたら、濃紫のさやが次々とつる先にぶら下がった。墳墓で英人の考古学者が発見したという、「ツタンカーメンの豌豆」だ。

隣のプランターには硬そうな蕾の先に、鮮やかな朱色の花弁をのぞかせた紅花。言わずと知れた源氏物語の「未摘花」。芳香を漂わせる紫の小花は漱石「三四郎」の「みねこのヘリオトロープ」。毎日庭で楽しめます。



(え・山田安)

# 情報 コーナー

## 差し上げます

浦瀬さなみ著

### 「延命病棟」

### 「死ぬに時あり」

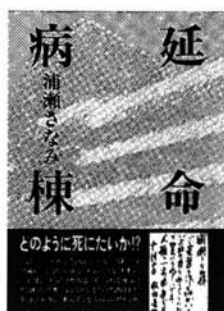
看護婦として働いておられた浦瀬さなみさんが、八九年から九三年にかけ怪書房から出されたこの二冊を、「わいふ」読者の皆様に贈呈してくださるといってお申し出がありました。

無料ですので、お知り合いにも読んでみたい方があれば、その分も一緒にご注文ください。

### ●「延命病棟」

マンモス老人病棟は、入院老人を老衰度別に管理していて、

老人は一度そこに組み込まれたら最後、死ぬまでそのコースからはずれることはできません。その実態を現場の看護婦の目で見つめたこの一冊は、凄惨です。



「私はそこを最初見たとき、市街には老人たちはもう残っていないのではないかと思いました。病院が人生という旅路のなかに制度的に組み込まれていることを知り、あ然となつてしまいました。」

百床、二百床も収容する超マンモスルーム、ある日、戻る道を間違えて四階で降りるべきところを三階で降りてしまったら、

そこには酸素テントが視界いっぱいひしめいていました……」

### ●「死ぬに時あり」

この一冊は、こうした現実に対する著者のラディカルな抵抗の書です。



「死が治療すべきものとしてと

らえられるようになったのは西洋医学が輸入された明治以後のことです（……）。

食事を絶つての必死の念仏は、現代人にはとてもかたみませんが、肉体の衰弱と反比例の精神の高揚が安楽な死を約束しているのはたしかで、結果からみれば、理にかなっているのではないかと思います」

「いかに巧妙に、私たちが自立的な死から遠ざけられているかを知れば、それを模索するだけでも価値があるのではないでようか」

著者の呼びかけが胸に迫ります。二冊を揃えて読んでくだされば最高です。（送料だけはご負担ください。）

千葉県安房郡千倉町川戸  
一〇五四―一六 浦瀬さなみ

URL <http://www2.tcn.ne.jp/~sanami>  
EM [sanami@mx5.tcn.ne.jp](mailto:sanami@mx5.tcn.ne.jp)

### 「わいふ」バックナンバー 差し上げます

一六八号から約百冊です。  
送料着払いでお願いします。  
お電話でご連絡ください。  
042-964-9406  
土子史子まで。

# 『母と子』 6月号

(定価500円/送料68円)

## 〈今月の視点〉 憲法を暮らしに生かす 国民の決意と努力が平和を築く

—命と自由と諸権利を侵す「有事法制」— 星野 安三郎

〈オランダでの子育て体験〉 自由と独立をうながす気風 甲田あゆみ  
子どもの権利条約を考える 山田 雅康&編集部

### 規範が生きて働くイスラム社会

—日本社会のアノミー状況と対比する—

〔メディア時代のウロウロ記〕 ト라우マ体験 柳 史子

日本の学校と親、地域の今 山本 由美

—「ベストスクール—アメリカの教育はいま—」の刊行をきっかけに—

〈私は獣医師〉ほめ上手 渡 眞紀

〔コミュニケーションのこころ〕もう、寝坊助なんて言わせない 猪股 富美子

市民の時事

ウォッチング

今、なぜ戦争体制づくり? 田中 久直

203-0054 東久留米市中央町5-4-8 電話0424-74-9125 母と子社

# ふえみん

f e m i n

ジェンダーの視点で社会を眺めとく新聞です。

☎ 150-0001  
東京都渋谷区神宮前  
3-31-18

☎ 03-3402-3244  
03-3402-3238

FAX 03-3401-3453

E-Mail [femin@jca.apc.org](mailto:femin@jca.apc.org)

URL <http://www.jca.apc.org/femin/>

リニューアルした  
「ふえみん」を  
プレゼントします。

大阪支局

☎ 530-0041  
大阪市北区天神町  
3-10-8-404

& FAX 06-6356-0778

★ タブロイド判8ページ 毎月5・15・25日発行  
購読料：年間9,000円・半年4,500円(送料込み)

自分で  
考える人と  
一緒に  
考えたい。



(○で囲んでください)

## 本文

私もひとことは、投稿してみたいけど、長いのはチョットという方のためのコーナーです。わいふネットは相談や質問、掲載された質問への答えをお寄せいただくペー

ジです。あなたの声をお待ちしています。  
投稿には、右の原稿用紙をご利用くださ  
い。

●タイトル、住所、氏名は一行めに。もし、

二〇字を超える場合には横目にこたわらず、小さい字で、住所、氏名は他のコラムを参照してください。

●二行めから本文、全体で九行一八〇字。

[illegible]



## 「読

んで書いて（描いて）、みんなでつくる」。十五人ものイラストレーターに描いていただいています。プロの方、学生の方、それぞれの方の持ち味が集まって「わいふ」ができます。図書館で調べたり、スケッチにでかけたりして描いてくださっています。

みんなでつくるから楽しいとつくづく感じます。（望月）

## 近

くの公立中学校が五年かけて校舎の建て替えを行なった。工事の内容や工程などの説明会が何度も開かれ、変更があると各戸に知らせが入る。今どきの工事は大変なんだなあと感心した。工事が終わりにくいはずしてびっくり……銀色のかまぼこ屋根と、ピンク、オレンジ、イエロー、アイボリーに壁が塗り分けられていた。この

## 落

色は誰が決めたのだろう。（成井）  
ち着いているようで、へまの多い私。電話で「お忙しいところ……」と言うつもりが、「おいしいところ……」と言って、わいふの地獄耳氏に聞かれてしまった。

でも、もつと凄いのがあるんだ。「はい、わいふです」と言っただけが「はい、わたしです」と出てしまった。

金曜日は私が電話番号ですが、びっくりしないでね。（山本）

## 連

休中久しぶりにキャンパスをしながらカヌーの練習をした。しばらく漕いでいなかっただけで、沈が怖くて思うように漕げなかったが、二日もたつとやっと何とか漕げるようになった。エスキモーロールも悪い癖が少しずつ修正できて、失敗する率も少なくなった。

若い子たちが遊んでいる大きなウエーブに入って、舟をコン

## 最

トロールするのが夢！（水落）  
寄り駅前の通りがきたない。カラスの勝手に

させてコンビニのゴミは散らかしっぱなし。若者のたばこはポイ捨てっぱなし。ゴミゴミごみだらけ。シンガポールのようにゴミを捨てたら罰金をと考えたくなる状態。買ったそのときからすぐゴミとなる物が多すぎる気がします。「そんなに気になるなら早起きしてお掃除おばさんすれば」と息子が言う。（野村）

## 先

日久しぶりに家族で旅行しに福島に行った。私は史跡に興味があり、白鳳時代の瓦の出たお寺の跡（今は何もなし）とか、ちよつと変わった一里塚（今は草に埋もれている）などを見てまわりたいと思っていた。でもそれを提案したらかなりの響きをかき、泣く泣く我が完璧なる計画を諦めた。旅行は楽しかったがちよつと消化不

## 今

号のエッセイスト・クラブに、中松ミナ子さんが宝塚ファミリーランド閉園のことを書いておられる。

私にもなつかしい遊園地で、夫の転勤にともない宝塚市で暮らしたころ、二、三歳であつた長女を連れてよく行った。

六百元で「乗り放題券」が買え、一日中遊べた。昭和三十年代の終わりごろのことだ。（和田）

## 二

年ぶりに新宿の伊勢丹デパートへ行つて、若い店員たちがすごく幼児化しているのにおどろいた。お人形みたいな風体、髪形、舌足らずなしゃべりかた。存在感がなくて浮遊している感じ。

帰りに横丁から大通りへ車を出すときの誘導係もひどかった。三人もいるのにほんやりして役に立たない。いよいよ日本もここまでできたのか？（田中）

## 「ファム・ポリティク」より

たった二か月の間に起こったさまざまな騒動、辻元清美議員、加藤紘一議員が辞職、鈴木ムネオ議員だけが「やめる理由はない」と居座っています。それをかばう自民党と小泉総理、彼らには確実にムネオ議員をかばわざるを得ない理由があるに違いありません。

ところで傷害致死で告訴されていた戸塚ヨットスクールの主宰者・戸塚宏氏が、この二月最高裁で上告棄却となり、懲役六年の実刑が確定しました。三人もの少年を死なせているのですから、当然の結果でしょう。

ところで驚いたのは、東京都知事の石原慎太郎氏が、この棄却を「非常に残念」と語っていることです。戸塚氏の教育論「脳幹論」に共鳴する都知事は「子どもを守らない大人などは無価値の存在。教育を再生しよう」と呼びかけています。三人の子の命をどう考えているのでしょうか。「国家」を第一義に考える男たちにとって、個人の生命の価値が確実に二の次になる現実をこの言葉は証明しています。

## NMS研究会より

この会は過去四年間、三歳までの子どもを持つお母さんに、子育ての通信教育講座を行ってききましたが、発足当時から一貫して寄せられるのが「うちの子は四歳（または五歳）になってしまいました、もう受け付けていただけないのでしょうか」というお母さんたちの悲鳴でした。最近その声があまりに増えてきたので、何とかご要望にこたえたいと、四歳から六歳までの子どもの「しつけ直し」の問題に取り組んでみることにしました。

そこでお願があるのですが、子育てのなかで「自分があんなふうに育てたから、子どもがこうなった」と感じていらっしゃる方、または「子どもがこんなふうになりかけていたのを、努力の結果、是正するこ」とができた」という経験をお持ちの方、ぜひお話を聞かせていただませんか。もう成人なさったお子さんでも、小・中・高いずれの年齢のお子さんのケースでもかまいません。お話を聞かせていただける方は編集部田中まで、ぜひお電話ください。

## 老人ホーム情報センター便り

●木曜日の電話相談日は毎週さまざまな相談が寄せられる。先日こんな相談電話が入った。相談者の両親が二人で老後をオーストラリアで生活していた。夫八十九歳、妻七十九歳。妻はあまり英語が得意ではないので将来のことを考えると、オーストラリアでの生活より日本で生活するほうがよいと判断したらしく、一週間前に突然帰ってきた。入居できる有料老人ホームを探してほしい。本人たちの身体状態は、一応身の回りのことはできるが、歩行は手すりが必要。というものだった。

最近、暮らしやすさや生活費の安さから、老後の海外移住を勧める広告を目にするところがあるが、行く決心をする前に一人になったり、介護が必要になったりする、将来のことをしっかり考えねば。

●無料電話相談 毎週木曜日

●面接相談も受け付けます（有料）  
電話でご予約ください。

〇三十三三三五二八五四

## 特集テーマ

二九八号（十月一日発送）の特集テーマは「夫の転職」です。

やれりストラダ、やれ希望退職だ、やれ倒産だと、職場を去る人が増えています。そしてその後、生活には当面こまらない場合でも、次の職を求める人がほとんどです。

## 座談会 私も言いたい

二九八号のテーマは「近所づきあい・よかつたこと困ったこと」です。

「地域社会の再建」などとよく言われます。現代の家庭があまりにも孤立化しているのも、もつと地域社会の連帯を取り戻すべきだ、という議論が出てくるのでしょう。しかし私

## 私の意見・あなたの意見

一九七号では、「議員辞職についての私の意見」を募集します。

辻元清美氏が自分のウソに足をすくわれたかたちで辞め、加藤紘一氏もひどくサバサバと辞め、残るは鈴木ムネオ氏。執拗なねばりには啞然茫然ですが、しかし早くやめろ、や

給料は少なくとも人間的に働ける職場を求める人、ストレスがあっても自分の適性に合う職場でバリバリ働きたい人と、転職後の人生はそれぞれでしょうが、懸命に生きようとする夫の姿。それを側で眺めていらつしやる妻のあなたの胸にも、さまざまな思いが去来することでしょう。

たちの身近な近所づきあいは、地域の連帯どころか気の疲れる、厄介ごとの連続みたいな面もあるようです。みんなそれぞれ考え方が異なっているのに、調整が難しい。昔の下町のように、同じ考えの人が集まっていればいいのですが。

反対にとっても恵まれて、よかつたという経

めるべきだ、と弾劾だけしていいいかとうと、これはこれで疑問が残るのです。

国会内の役職だけを辞任するのではなく、議員そのものを辞めるというのはすべてを失うことに通じる大変なこと。田中角栄氏も疑獄事件にひっかかりながら最後までやめませんでした。

夫の生活の変化、心の変化と、あなたご自身の生活の変化も含めて書いてくださると嬉しいですよ。

字数四千字前後

締切り 八月十日

験をお持ちの方もあるでしょう。それらを語り合つて、現代の近所づきあいの意味を考えてみましょう。

日時 七月十六日（火） 午後二時

場所 「わいふ」編集部。申込は六月末日までに電話でどうぞ。

あなたは「議員辞職」について、どんなふうに考えていらつしやいますか。オリジナルな意見を期待しています。

字数 一〇〇〇字前後

締切り 六月二十五日

募集します

定期購読を申し込まれている方はどなたも投稿できます。  
投稿の前に以下を必ずお読みください。

## ◆「ムラビヤ」わが家の歴史写真

どこの御家庭にもある古い写真とその説明をお寄せください。「父・母を語る」「子育てのころ」などのテーマにそってでも、ただ古い写真を並べても結構です。

お申し込みは電話で編集部まで。

## ◆特集

毎回テーマを設定しています。一四九ページをこらしてください。

## 一六〇〇字のコラム

(どのコラムも字数は目安で、多少長くても内容がよければ掲載します)

## ◆エッセイスト・クラブ

キマった文章、豊かな内容の随筆をお送りください。

## ◆スバリ一言

オピニオン、評論を。独自の意見で。

## ◆家族のスケッチ

同居、別居を問わず、あなたの家族のことをお書きください。

## ◆子育てフォーラム

おさない子、思春期の子、どんなときも親にとって子どもの存在は気になるもの。あり

のままの関係を描いてみませんか。

## ◆ワーキングライフ

あなたは、どんな働き方をしていますか。さまざまな仕事の喜びや苦悶を語って。

## ◆夢これに夢中

人生八十年時代。趣味その他、仕事以外に生きがいを持つ方も多いはず。あなたは何に夢中ですか。

## ◆フリートーク

どんなテーマでもどうぞ。どのコラムにも当てはまらないテーマの自由なコーナー。

## ハ〇〇〇字のコラム

## ◆あなたへスマッシュ

本誌の投稿や記事についての感想、意見を載せます。何号のどの投稿に対するものかを明記して。

## ◆ことばでハッピー

言葉の使い方はとても難しいですね。時には人間関係をこわしたり。でも発想を変えて工夫することで、お互いの関係をよくすることも可能。失敗談も含めて面白い話題を。

## ◆パソコンワールド

急速に普及し始めたパソコン。楽しんでい

る人、振り返られている人、体験談を。

## ◆読んでよかった

読書感想文のコラム。どんなジャンルのものでも結構です。著者・出版社・出版年月日・定価を書くこと。本文は七六八字。

## 四〇〇〇字のコラム

## ◆笑える！

嫌な話題の多い世の中。思わず笑ってしまった楽しい話を。

## ◆私の意見・あなたの意見

賛成か、反対か。一四九ページにテーマを載せています。皆さんの率直なご意見を求めます。

## その他

## ◆私もひとこと (一四六ページ参照)

どんなことでも気軽に書きください。

## ◆わいふネット (一四六ページ参照)

教えて欲しい。聞きたい！ それに対するお答えも。読者参加のQ&A。

## ◆情報コーナー

お知らせ、募集など。要点を漏れなく整理してお寄せください。(見出し共で一四三・四四行にまとめて)

# 投稿の

## ◆特別寄稿

字数自由。どのようなジャンルのものでも結構。本誌に適當と思われるものは掲載します。出版社に紹介することもあります。(ただし詩、短歌、俳句を除く)

## ◆コミック、イラスト、写真

一度作品をお送りください。本誌に合うものであれば依頼したいので。

## 注意

- 原稿はお返しできません。
- 投稿は一人一篇。ただし、「あなたへスマッシュ」「読んでよかった」「私もひとこと」「わいふネット」「情報コーナー」とはだぶつても可。
- 締め切りは原則として偶数月の二十五日。郵送で当日必着。(読みにくいので、ファックスではお送りにならないようお願いします)
- 他誌との二重投稿はお断りします。
- 写真や、イラストを用意できる方は原稿とあわせてお送りください。
- 誌上での匿名、ペンネーム使用可。ただし

いくつものペンネームを使い分けるのはご遠慮ください。

●掲載を希望しないお便りは「私信」と断り書きを。

●投稿は多少添削することがあります。

●原稿の最初に次のようにお書きください。

原稿用紙は必ず開いたまま右上一カ所を留める  
ペンネーム・匿名希望の方は明記

コラム名	ペンネーム・匿名	年齢
タイトル	住所	
本文……	会員番号 本名 電話番号	

なくても可

(1)

ページを明記  
(場所はどこでもよい)

匿名の方は住所を  
載せるかどうか明記

●四〇〇字詰原稿用紙に縦書き。

●ワープロ打ちも二〇字×二〇行を一枚に。

〈あて先〉〒162-0062 新宿区市ヶ谷加賀町二一五―二六

わいふ編集部

投稿のきまり

# 編集集「だより」

◆今回は特集投稿が一通も来ず、特集なしの号になってしまいました。

「ソーホー（家庭内の小さなオフィス）という働き方」というテーマだったのですが、その仕事をしていらつしやる方はほとんどなかったのでしょうか。

ときどきこういうことはあるのです。やはり少数派を対象にしたテーマは反響がないようで、多くの女性が日常体験している事柄を選ぶべきなのだと反省しています。

◆二九八号の特集は「夫の転職」という、ぐっと一般的な、そしてこの不況下たいへん今日的なテーマです。体験者も多いこと

でしょう。どうか奮ってご応募ください。

◆特集はありませんでしたが、特別寄稿が多く、よい作品ばかりでしたので十分読みごたえのある一冊になったと思います。

◆さらに新しい連載が始まりました。イスラエルとパレスチナの紛争は、全く泥沼状態であることが予想もつきませんが、貴重な現地報告が寄せられました。今回の緊迫以前の話ですが、危機的状況はよく伝わってきます。

こういうナマの情報が入ってくるところが「わいふ」のよさ、おもしろさなのです。どうぞご愛読ください。

連載中の「ある英国女性の回想記」も、日本女性とはずいぶん違った体験や感じ方が興味深く、佐藤瑞江子さんのすばらしい

挿し絵とともに、お楽しみいただけると思っています。

◆今回は座談会には出席者がなくて中止となり、インタビューに変わりました。次の二九七号は、お二人の出席があり掲載できますが、どうも出席者が少なく困っています。匿名でもよく写真をのせなくてもよいのです（大した理由もなく隠れた方があるのは不可解ですが）。

ぜひご応募ください。

◆ゆううつな梅雨の季節に入ります。昔、紫式部などの生きた王朝時代には、梅雨時に女性が物語を読んだり書いたりする習慣があったそうです。それで多くの物語が書かれたとか。皆さんも静かな雨の季節ぜひ傑作を書いてお寄せください。

## 購読申込は……

ハガキか電話、ファクスでどうぞ。すぐに、本に郵便振替用紙を添えてお送りしますので、折り返しご送金ください。バックナンバーのご注文も同様。限られた書店にしかおいてありませんので、直接お申し込みください。

## 購読中止は……

必ずお申し出ください。誌代が切れる際には、郵便振替用紙を同封していますが、送金をお忘れになる方があるため、誌代が切れても、引き続き送本しています。ご連絡がないと、お送りしてしまいますので、ぜひハガキかお電話を。

**わいふ◆296** (隔月刊)  
●発行日 2002年7月1日  
●編集部 わいふ編集部  
●定価 620円(本体590円)  
●年間購読料 4224円(送料共)  
●印刷 平河工業社  
●発行所 (株)グループわいふ  
〒162-0062  
東京都新宿区市谷加賀町  
2-5-26  
電話 (03) 3260-4771  
FAX (03) 3260-4773  
●郵便振替 001503-110430  
加入者名 わいふ編集部



ew



othering



ystem

## 子どもに「生きる力」をつける子育てを！

「生きる力」の根本は、動物的な生命力です。  
その力を伸ばすのが、子育ての第一歩です。

おなかをぺこぺこにする体験。思う存分駆け回れる広い野原。子どもに与えたいものです。

子育ては  
NMS !!



●子どもたちが、動物的な生命の喜びを発揮する「場」が、どんどんなくなっています。田舎でさえ、外に出て、カンケリや縄跳びなどして遊ぶ子どもは少なくて、部屋に閉じこもってゲームをしている子どもたちがものすごく増えているのです。背骨ぐにやりに近視眼、きちんとすわってられない、きなへな子どもたちが、こうした生活のなかから育ってき

●子どもに一番必要なのは、遊び仲間です。そのためには母親自身、人と人とのオIブンな触れ合いを見につけておくことが必要です。NMSを受講すると、舅、姑、そしてもちろん夫も！含め、他者との触れ合いのノIハウのコツも身につきます。

マスコミに育児の悩みが寄せられると、いつも返ってくる答えは、「お母さん、子どもをしっかり抱いてあげてください」というものばかり。NMSは愛としつけのバランスをお伝えします。

資料請求は 〒162-0062 東京都新宿区市谷加賀町 2-5-26

NMS研究会へ。 ☎ 03-3260-2509 FAX 同 3235-2854

MINERVA21世紀福祉ライブラリー

# ⑩ 走れ介護タクシー

安宅 温著 ● 利用者の視点で移送介護を考える 利用  
者・タクシー業界を丁寧に取り、報告  
▼好評既刊 二〇〇〇円

① 終末期医療への願い

② 生活保護ケースワーカー奮闘記

③ わたしは盲導犬イエラ

④ 輝くわが最晩年

⑤ 盲導犬誕生

⑥ ともに生き ともに働く

⑦ 夢子がおばあちゃんになるとき

⑧ 使ってみた介護保険

⑨ 生きがい探し 12の物語

家で死にたい・死なせない

# 在宅ホスピス入門

黒田輝政著 ● 介護福祉からのアプローチ 取り組  
みから示す在宅死の実現への手引き 二〇〇〇円

# 女子大生がカウンセリングを 求めるとき——こころのキャンパスガイド

鈴木乙史・佐々木正宏・吉村順子編著 カウンセリングを  
通してみた現代の女子大生たちの姿とは 二二〇〇円

# シングルウーマン白書

ツラ・ゴードン著／熊谷滋子訳 ● 彼女たちの居場所はどこ  
こ？ シングルであることの葛藤と自分らしさを大切にす  
るシングル女性の生き方を調査・報告する 二八〇〇円

# 日米のシングルファーザーたち

中田照子／杉本喜代栄／森田明美編著 ● 父子世帯が抱える  
ジェンダー問題 父子世帯の日米面接調査 二六〇〇円

日米のシングルマザーたち 中田照子  
杉本喜代栄共著 森田明美 2600

# 専業主婦はいま

藤井治枝著 ● 多様化と個性化の中で 専業主婦が共働  
きかで分けられてきた既婚女性に、大事にしたい  
生き方をいつでも選べる社会を提案 一八〇〇円



ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 ※宅配可／価格税別  
TEL 075-581-5191/FAX 075-581-0296 <http://www.minervashobo.co.jp/>